

四、九州大学柔道部部長退任のご挨拶

前部長 小 宗 静 男 (昭和50年卒)

平成二十七年三月三十一日をもって九州大学を退任することになりました。丁度卒業して四十年目の節目にあたります。この間平成十八年から二十六年まで部長を勤めさせていただきました。この間部員不足に悩まれ続けましたが何とかしのいできたというのが正直な感想です。特に平成二十年は部員が底をつき医学部医学科から八人を連れて行かねば成らない状況で試合に臨んだのは今でも忘れられません。数は揃えても実力差はいかんともしがたく惨敗したのは当然でありましたが、暗澹たる思いに陥ったのは私だけではなかったのではないかとおもっております。結局私が部長の時代には女子部を除いては優勝は叶いませんでしたが、ほとんど練習を見に行けなかった自分に大きな責任を感じております。この間、羽田野道友会会長はじめ多くの方々に支えていただいたお陰で何とかこれまでやってこれたものと、ここから感謝いたしております。特に、仲原事務局長に

は、毎日自社の管理運営に多忙な中、学生ばかりでなくOBの者に対しても物心両面において多大なる支援をしてくださきいつも頭の下がる思いがしております。たし、本当に有り難く心の中で思っております。有り難うございました。

わたしは、九大柔道部を見ていて一番感じていたのは、礼儀のなさと覇気のな



小宗部長退官記念の花束贈呈

さでした。今の若者は教えられてないと
言われればそれまでのことかと思いますが、
いやしくも最高学府に学ぶ学生に礼儀作
法をおしえるということには非常にため
らいを覚え何も言いませんでした。ただ
非常に残念でむなししい思いをしていたの
も事実であります。どのような状況でも、
そのおかれた状況の中で、進んで高邁な
志を持ち自らを律しその高みに向かって
最大限の努力するという姿勢をもつこと
は、人生を生きる上で非常に大事なこと
だと思いますが、今となつては古いので
しょうか。もちろん生き方は多種多形で



新年会

九大道友会

すので強要すべきものではありませんが、
一事が万事という言葉もあります。
詰まらぬ事ばかり書くのでこころでや
めますが、わたしは部員諸君の顔にコン
チクショウという気迫が現れる試合を是
非見せてもらいたいと思います。自分の
ことは棚に上げて思いつくままに書いて
みました。森田新部長は優勝経験者です。
いろいろな有益な助言をしていただける
者と思います。頑張って優勝をめざして
ください。
以上



2014.3.24 九大杯高校生招待試合表彰式



2015.1.24 新年会 小宗部長退任記念集合写真

五、九州大学柔道部部長就任のご挨拶 (七大戦に向けて)

部長 森 田 浩 介 (昭和54年卒)

この年度末、おめでたくもお元気でご定年を迎えられた小宗前部長に変わりをまして、伝統ある九州大学柔道部の部長に就任いたしました森田浩介です。小宗先生には長い間部長としての活動、たいへんご苦勞様でした。心より感謝いたしております。どうもありがとうございました。偉大な部長諸先生方の後を継ぎますことを私は大変な重荷に感じておりますが、本学の教官として着任できました幸運を考えますとお引き受けざるを得ないとも感じております。

私は昭和五十年入学五十四年卒業組の一人です。柔道は大学に入ってから始めました。もともと運動神経が鈍くセンスもありませんでしたので引退するまで強い選手にはなれませんでした。強い先輩、同期、後輩にまみえる幸運に恵まれ、昭和五十二年度、五十三年度の七大学戦において連続優勝の栄光に浴することがで

きました。一緒に汗を流した仲間や常に応援してくださいました先輩諸兄、部長、コーチのおかげで充実した柔道部生活を送ることができましたことを心より感謝しております。皆様から頂きましたご恩に報いるために、微力ではありますが学生柔道の発展のため誠心誠意努める所存でございますので、皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

さて仙台において開催される第六十四回七大学柔道優勝大会もあと二カ月足らずと差し迫ってきました。選手諸君はそれぞれ課題について自分なりに分析を行い、問題の克服に努めてきたと信じております。私は諸君の試合や練習の様子をつぶさには見ることができなかったこともあり、個々の課題について云々することはできません。選手諸君は、現時点でコーチ、監督、副部长、諸先輩方に指導されたポイントを整理し、残された時



新年会 森田部長就任挨拶

間は少ないですが、試合において最大の効果を上げるための練習を工夫して行ってください。また自覚しているとは思いますが、怪我にはくれぐれも注意してください。柳原主将のもと、心を一つにして闘志を奮い立たせ是非とも優勝を勝ち取るという意気込みで頑張ってください。先輩諸兄、指導者の先輩、先生方には一層のご支援ご指導をよろしくお願い致します。以上

六、第63回全国七大学柔道優勝大会観戦記

九州大学柔道部副部長 濱中大介（平成11年卒）

平成二十六年度の第六十三回七大会は、六月十四、十五日両日、京都市左京区の京都市武道センター（旧武徳殿）にて開催された。平安神宮と同じ敷地内の武徳殿は、言わずと知れた高専柔道発祥の地としても有名であり、南側弓道センターとの間には、「高専柔道之碑」が鎮座



九大前夜祭 羽島先輩挨拶



七大会 開会式

している。ここ数年は、現役学生は寝技錬成大会等における講習会・試合会場でもあることから馴染み深い場所だと思いが、当方、恥ずかしながら初めて足を踏み入れることとなった。

十三日金曜日午後に格安航空会社に搭乗して関西空港、そこから高速バスで京

都駅、さらに地下鉄で四条駅まで乗り、歩いて十分程度で宿泊施設であるコープ・イン・京都へ。ホテルへの到着後は、ほとんど時間差なく新幹線移動してきた現役と合流。ともに福岡空港からはトータルで三時間半くらいであろうか。同じ三時間半でも新幹線を利用するのが便利だが、片路三千円という破格の航空券を目の前にして空路即決してしまった自分の決断力を恨むばかりである。ホテルでの合流後は四時過ぎ開始を予定している主将審判会議に羽田野会長、平島監督、



七大会 表彰式 東海大佐藤宣踐氏の試合講評



初戦 東北大戦を前に円陣

主将井手、主務柴田と参加した。会場では主審・副審を依頼した森村、安元、山本も待機していた。前回大阪大会での反省をいくつか議論した後、運命の対戦抽選であるが、一回戦は東北大との対戦となった。二五年度大会も東北大が一回戦の相手であったが、その際は二人残しで敗れているため、昨年のリベンジを、と気合を入れて宿舎に戻った。

宿舎に戻り、食事を済ませた後は恒例のオーダー会議である。今年度九大の布陣は四回生五名、三回生四名、二回生四名、一回生三名計一六名を登録した。昨



敗者復活 北海道大戦

年度の四回生が一〇名卒業したことで、大きく戦力ダウンであるとともに、三年生片上は急遽入部、一年生の遠藤、比山は仮入部ということで、選手層として厚みがあるとは言い難く、尚更ながら四・三年生の取役は十二分に力を発揮して最低でも一人、できれば二人程度は勝ち抜かなければ勝利は難しいことが予想される。なお、登録選手は左記の通りである。

三年 井手智、稲富、片上、柳原
 四年 井手亮、鹿倉、柴田、高木、伴



九大3年加藤（上）vs 北大1年手良向

二年 井上、加藤、小西、中村
 一年 遠藤、比山、村上

このうち、取役としては四年生の井手亮、鹿倉、柴田、高木、三年の井手智、柳原、二年の加藤、中村であり、いずれも練習量は十分で、確実に勝利あるいは最低でも引き分けとならねばならない。稲富、小西は寝技の防御力も高く、相手の取役を確実に止める役割が求められる。練習量は少ないが、立ち技の切れが良い伴、片上、遠藤、比山、村上には、不用意に相手のペースで試合することな



九大井手智 vs 北大津田

く、得意の立ち技で勝負することが期待される。二年生の井上は途中入部の初心者であるが、練習中にも初心者とは思えない非常にセンスの良い動きを見せている。ただ、経験値という意味では他部員と比較してやや少ないため、今大会ではバックアップとして試合出場者のサポート役として試合に参加させることとした。

オーダー会議は夜九時頃から、羽田野会長、平島監督、仲原事務局長、山本次期監督、四年生全員、濱中で開催した。一回戦の相手は先述の通り東北大学であ

る。東北大学は昨年度優勝校であり、伝統的に非常に堅実で隙の無い柔道が持ち味である。昨年度優勝の立役者であり、実力者の三浦や及川は引退しているものの、兼子、廣川をはじめとした取役実力者は健在であり、おそらく彼らに鍛えられたであろう引き分け役も揃い、昨年に引き続き優勝候補といえるであろう。いくつかのオーダーを議論したが、四年生の提案を基本として、前半に加藤、高木、中村を配し、できれば前半は同点として、後半に鹿倉、柴田、井手亮でリードすること、また取役の間々に実力・経



九大高木 vs 北大宮竹

験にやや不安がある選手を配することで、敗れたとしても二名連続で取られないよう、バランスの良いオーダーとして十一時頃に就寝とした。

翌朝は七時過ぎに会議室に集合し、羽田野会長からオーダーの発表後、全員で会場に向かった。余談ではあるが、今回の宿泊ホテルは一般的なビジネスホテルと同様の設備であり、昨年度の宿泊で個人的に懸案だった朝食についても質・量ともに十分であったと思う。一回戦の相手である東北大と同じ宿舎であるため、朝食時には何となく落ち着きの無い雰囲気



九大前夜祭 左から高木先輩、大村先輩、有馬先輩



九大前夜祭

気ではあったが、それも勝負のうち、ハートで負けないトレーニングでもある、とポジティブに考えるべきだろう。

午前九時前に全員着替えを済ませ、準備運動、打ち込み他、申し合わせ稽古を消化した後、開会式となった。本年度の来賓は、東海大学柔道部師範である佐藤宣践先生であり、祝辞を頂戴した。昨年度の山下泰裕先生と同様に柔道界の重鎮である先生方から言葉を頂戴できるのは、高専柔道という独特のルールを弛まず追求する姿勢、さらには我が国の将来を担う七大学所属の学生に対する期待の表れだと思ふ。私自身もその出身者の端くれ

として恥じるのではないように日々精進せねば、と思つた次第である。

対東北大戦は一回戦B試合であるため、開会式直後に開始である。先鋒・加藤は東北大先鋒・木村に対して序盤は果敢に攻めるが、背後に回られた後にSRTから縦四方固めで抑え込まれ、先方戦での痛い一敗となった。続く次鋒・遠藤も立ち技から寝技に移行した際に、同じくSRTから縦四方固めにて抑え込まれてしまい、九大は二点のビハインドとなった。中堅まで引き分けが続いたが、比山が東北大取役の兼子に合わせ技にて一本取ら



七大戦柔道OB会懇親会 北島先生を囲んで

れる。続く鹿倉は取り返したいところが両者決め手なく引き分けとなった。後半で柴田、井手亮で何とか取り返したいところだが、相手を仕留めきれずに引き分け。副将・柳原、大将・小西は、東北大廣川のSRTからの縦四方、崩上四方にて連続して失点し、九大は五人残しで敗戦となった。一同落胆の色は隠せないが、気持ちを切り替えて敗者復活を勝ち残つて次に繋げなければならない。

敗者復活戦は、大阪大学に敗れた北海道大学である。昨年も敗者復活戦で対戦し、九大の準決勝進出を阻んだ相手であ



七大学柔道OB懇親会 昭和50年代卒の先輩方



七大戦懇親会 二次会

る。先鋒・井手智は引き分けたものの、次鋒・遠藤は、北大主将の森本に開始早々に足拔きの状態となり、粘ったものの上四方固で抑え込まれる。続く中村は立ち技寝技で攻め立てるが決め手なく引き分け。続く一年生・村上は、北大取役の清野に抑え込まれ、九大二点のピハインドとなった。柳原は清野を取り返したいところだが、決め手なく引き分けたが、続く一年生・比山は、開始早々に相手が引き込むところをタイミングよく大内刈りで合わせて一本取り返す。しかしながら、次戦は技ありを取られてからの抑え

込みで一本取られてしまう。ここで主将・井手亮の登場であり、何としても二人程度は取り返したいところであったが、決め手なく引き分けてしまう。その後、稲富が不十分な引き込みから腕をからめとられて縦四方で抑え込まれる。さらに伴も横四方で取られ、北大・石倉に二連敗となった。疲れの見える石倉を柴田は仕留めたいところだが、仕留めきれずに引き分け。片上、高木、鹿倉も果敢に攻めるものの、一本を取るには至らず、最後は大将・小西が引き分けて、四人残して九大は敗れ、一目での敗退が決定した。



現役慰労会 人生流転



七大戦打ち上げ

二試合を通じて、経験不足の一年生が敗れることは、少なからず予想できるものであったが、三年生以上で一勝もすることができなかったばかりか、敗れてしまうことが大きく影響したのは間違いない。さらに言えば、同じような技、たとえばSRTや腕の召し取られ等、相手の技や攻防における要所を押えることができず、対応できなかったことが敗因でもあるだろう。そういう意味では、本大会での九大柔道は非常に淡泊であったと感じた諸先輩方も多かったかもしれない。一年間、比較的多くの時間を学生とともに汗を流

した人間として、どのようにアドバイスすべきか、私としても反省しなければならぬと感じた次第である。

大会は九大に勝利した北大が、次戦で京都大学に五人残して勝利して敗者復活戦を勝ち抜くこととなった。準決勝は東北大対東大、大阪対北大となり、それぞれ二人残して勝利した東北大と大阪大学の決勝戦となった。決勝では大阪大学の四年生の奮闘により、大阪大学が四三年ぶりの優勝を果たした。女子は北大、東北大、名古屋大三チームのリーグ戦で行われ、北大が優勝となった。

試合中のもとより、九州をはじめ遠方から会場まで応援に駆けつけて頂きました。沢山の諸先輩方には、声援のみならず、多大な支援を頂きまして本当にありがとうございます。また、前夜祭、慰労会をはじめ、京都で様々なイベントをご手配頂いた関西道友会の諸先輩方におかれましては、昨年の大阪に引き続き大変お世話になりました。誌面を借りまして厚く感謝申し上げます。

四年生は本当にお疲れさまでした。試合は残念な結果となりましたが、柔道部での経験、先輩、後輩、そして同輩を財産に、それぞれの分野で大きく羽ばたく

ことを祈念しています。

平成二十七年度は、新主将・柳原君を中心に、東北大菅、宮城県武道館で開催される六十四回大会優勝に向けて、毎日厳しい稽古に臨んでおります。部員不足や怪我に悩まされながらも、各人が着実に地力を付け、技を磨き、仙台に乗り込んでいく所存です。諸先輩方におかれましては、今後も変わらぬご支援ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。とくに、平成卒業の若手諸先輩には、遠慮なく道場に足を運ばれてまして、現役学生に稽古を付けて頂ければ幸いです。



現役慰労会 釘宮先輩挨拶



現役慰労会 関西道友会山本会長万歳三唱



現役慰労会「人生流転」

七、第64回全国七大学柔道優勝大会展望

九州大学柔道部主将 柳原俊太郎

昨年度の七大学戦やそれに向けての練習では九州大学柔道部がかかえる問題をひしひしと感ずることになった。まず、部員不足により、良き練習相手が少ないことや何より戦力が足りないことである。また、東北大学や北海道大学といった遠く離れた地のライバル達の見慣れない技に対応できていないことも問題であった。

また、前回の七大学戦後に部を受け継いだ自分はこれらの問題の克服が九州大学の勝利に必要なことの一部を考え、取り組むことにした。

まずは部員不足についてである。部員不足による問題を練習内容の工夫によって一部改善することは不可能ではないで



高校生招待試合懇親会
柳原主将挨拶

あろう。しかしながら、それには限界がある。多種多様なやり口の相手と練習をして互いに高めあえる大人数の環境というのは実力の向上に大きく貢献する。各個人の實力を高めるためには部員が必要であった。七大学戦の戦力という意味でも部員増加は必ず成し遂げなければならぬと考えられた。昨年度の七大学戦時、



2014.5.31 七大学戦 3年生挨拶

部員の数がとても少ないと評された。正規の選手は当時の四年生四名三年生三名二年生四名一年生一名の総勢十二名である。四年生のうち三名が卒業するのに対して一年生の入部は一名。部員不足と言われている状況がさらに悪化しているのである。部員増加が必須かつ急務であることは明白であった。部員勧誘のための取り組みは次のようである。春の勧誘に加え、秋の勧誘も積極的にこなす。勧誘方法を見直し、広報活動の強化を行い、新入生が来やすいようにと見学会なる行事を催した。こうした活動が功を奏したのかわからないが、一年経過し



2015.1.24 新年会 新幹部決意表明

た今の選手数は四年生五名三年生五名二年生三名一年生五名の十八名である。

他大学の技の研究も取り組んだ内容の一つである。昨年の試合では九州大学柔道部員があまり経験したことのない技、特に遠く離れた東北大学や北海道大学が繰り出す技に苦しめられた。技の対策をするには実際に経験するのが一番である。

しかし、遠い大学と関わる機会は少なく実際に経験するのは難しい。そこで、ビデオ研究や技の講習などを通して実際に行われている防ぎ方を習得し、あわよくば攻め方までも自分達のものにしようと画策した。今まで参加していなかった京都寝技研鑽会に参加したのもその一環である。研鑽会では様々な技の講習が行われ、今までやってきたことの復習及び知らなかった知識の習得を行うことができた。研鑽会後の合同練習で他大学と練習を出来たことも成果と言える。研鑽会以外の普段の練習においては他大学の特徴や有力選手の得意技を分析し対策を講じた。ここで改めて自己分析を含めて、各大学の分析をおきたい。

我が九州大学は現在十七名の選手を揃えている。しかし、八名が入部一年未満、その内七名は半年に満たないため、全体

として寝技への経験の浅さが不安材料である。また、抜群に強力と言える選手にも欠いている。今まで行ってきた防衛を主とした講習を活かして新入部者の失点を抑えること、それ以外の選手が取れる部分で取り失点をカバーすることが鍵となるだろう。



高校生招待試合 寝技の講習



2015.5.3 どんたく会 平島監督の技の指導



2014.12.20 送別試合 修猷館道場

八、九州大学柔道部総監督就任のご挨拶

九州大学総監督 平 島 稔 (昭和55年卒)

私が七大学戦に初めて参戦したのは大
学一年生のときに札幌で開催された第
二十五回大会で、一回戦は大阪大学に二
人残して勝ちあがり、準決勝で現在JR
九州の会長をされている唐池主将が率い
る京都大学と対戦しました。先鋒から副
将まで十四人引き分けて、九大井上浩主
将と唐池主将の大将戦で雌雄を決するこ
ととなり、井上浩主将が手内股であわや
一本かと思われる技有りをとつたものの、
最後は唐池主将の内股技有りから袈裟固
めに仕留められ一人残して敗れ非常に悔
しい思いをしました。その後、京都大学
は決勝戦でも東京大学を一人残して退け、
三連覇を達成しました。唐池主将に投げ
られながらも、何とかしようとする中で足
をバタバタさせていた井上主将の姿が、
目に焼き付いています。自身の試合に
ついては、袈裟固めにおさえこんだもの
の決めきれず二十秒で逃げられ、寝技の
未熟さを痛感しました。その時の悔しさ
をばねに、翌年の禅院主将、翌々年の山

本剛主将の下で二年続けて優勝しました。
そのころの九大は、北島部長やコーチ
の洲先生が道場で指導されていましたが、
監督は七大学の遠征に同行できるOBか
遠征先のOBが務めるのが通例で、道友
会誌の七大学観戦記を見ると昭和〇〇年
度監督となっています。私は昭和五十五
年に卒業して地元の福岡市役所に入庁し
たのですが、就職して三年たち北海道ま
で同行する余裕があったこともあり、若
輩ながらも昭和五十八年第三十二回大会
の監督を仰せつかりました。主将の橋本
君や富松君の頑張りがありました。準
決勝で優勝した京都大学に敗れ、私の初
監督としての戦績は三位でした。昭和
五十八年卒業の井手君や栢植君にアドバ
イスを受けながら監督としての務めをな
んとか果たしましたが、急仕立ての監督
で選手の特徴も十分に把握できてなかつ
たことなど反省すべき点が多くありまし
た。

初監督での反省を踏まえ、常日頃から

道場で部員とともに汗を流し、遠征に監
督として同行すべきと考え、それを実践
してきました。年間を通して学生たと稽
古し、七大学戦に違い続けてきたところ、
結果として、京都で開催された昨年の第
六十二回大会まで三十年に亘って監督を
務めることになりました。

十年ほど前からは年齢的に体も動かな
くなってきましたので、後進に道を譲る
ことを考えてきましたが、この度、山本
泰三君がやつと監督を引き受けてくれる
ことになりました。私は総監督に就任するこ
とになりました。山本泰三君は九州電力か
ら実業団柔道に現役選手として出場して
おり、選手としての稽古が優先になりま
すから、私は今まで通り道場に足を運び、
総監督として山本泰三君をサポートして
いきます。

九大は山本泰三君が四年生の時に優勝
して以来、美酒を味わっておりません。
近年、部員不足に悩まされておりますが、
新監督ともども七大学戦の優勝を目指し
て頑張つていきますので、ご支援のほど
よろしくお願いいたします。 以上

九、九州大学柔道部監督就任のご挨拶

九州大学監督 山本泰三（平成18年卒）

この度、平島監督が総監督に就任されることに伴い、若輩者ではございますが、監督の命を仰せつかることになりました。

私自身もまだ現役を続けている身ですので、全力サポートとまではいかないかと思いますが、私がこれまで経験して身につけてきたこと等を技術継承していくことで、微力ながら九大柔道部へ恩返しできればと考えております。最終的には、七大戦常勝チームを作っていけたらと考えています。

さて、監督就任にあたり、学生諸君に柔道に取り組む中で気をつけていただきたいことを何点かこの場を借りて書きたいと思います。

まず、日々の練習や試合の中の成功や失敗をただ単にできた、できなかったと一喜一憂するのではなく、「分析↓評価↓改善計画↓行動↓分析…」まで落とし込む癖をつけていただきたいと思いません。うまくいったときは「なぜうまくいったのか、どこがよかったのか、うまくい

かなかったときは「どこが悪かったのか、どこを直せばうまくいくようになるのか」等、部員全員で考え、成功・失敗体験を次に活かして新たな成功体験に繋げてもらえたらと思います。

次に、部員全員が「七大戦で優勝する」という同じ思い（目標）を共有し、直向きに柔道に取り組んでいただきたいと思えます。きついとき、うまくいかないとき等、時には手を抜きたいと思うこともあるかと思いますが、仲間全員で同じ目標を共有できていれば、歯を食いしばって頑張ることができると思います。

私事ではありますが、昨年全日本実業団個人戦で三位入賞を果たし、大学四年以来の講道館杯（実業団、警察、学生等の上位者に出場資格が与えられる体重別個人日本一を決める大会）に出場しました。講道館杯での結果は二回戦負けでしたが、三十オーバーのベテランでも強い思いをもって日々工夫をしながら稽古に取り組めば、目標は達成することができ

ることを実感しました。学生であれば、なお然りだと思えます。

七大戦まであと少しとなりましたが、主将を筆頭として全員で意識統一し、試合当日に最高のコンディションで臨めるよう日々稽古に精進してもらいたいと思います。

最後になりますが、七大戦はOB・OGも含めた総力戦となります。OB・OGの方々におきましては、学生が七大戦での優勝を成し遂げられるよう、ご多忙の中とは存じますが、出来る限り学生のもとに足を運んでいただき、叱咤激励のほかにご支援賜りますようお願い申し上げます。今後とも宜しくお願いいたします。以上



H18卒山本泰三さん 講道館杯出場壮行会

I 【特集】 日本柔道界は、

柔道王国フランスに学べ！

九大道友会会長 羽田野 節 夫（昭和47年卒）

一、はじめに

（柔道界には二つの流れがある）

諸君、御承知のとおり、柔道界には、立ち技を中心とした講道館ルールと、寝技を主体とした高専ルールの二つの流れがある。

講道館ルールは、その後国際ルールに発展し、今では世界各地で柔道大会のルールとして使用されている。

他方、高専ルールは、所謂「引き込み」が認められ、寝技主体のルールである。講道館ルールの下では、寝技に「引き込む」行為は禁止されており、寝技をしたければ、相手に立ち技をかけて、体制を崩してから寝技に移行しなければならぬ。

何故、寝技主体のルールを「高専ルール」というのだろうか？それは「高専」とは、戦前、「一高」、「二高」などナンバースクールと呼ばれていた旧制の高等学校や、大学専科や、専門学校を合わせ

た名称である。戦前の柔道界は、東京の講道館と京都の武徳殿を本拠地とする大日本武徳会が覇を競っていた。この武徳会が後援した「高専大会」が講道館ルールと異なる寝技主体のルールを採用し、以後、「高専ルール」として定着した。

第一回高専柔道大会が一九一四年（大正三年）京都市の武徳殿で開催され、その後毎年開催されていた。しかし、一九四五年（昭和二十年）第二次大戦後、武徳会は、GHQから「軍国主義日本の象徴」と見られ解散させられた。その後「高専ルール」の伝統は、一九五二年（昭和二十七年）国立七大学（旧制七帝国大学）柔道部に引き継がれ、以後、寝技を主体とした「高専ルール」の下で、各大学十五人選抜選手により、勝ち抜き勝負を展開してきた。

二、昨年は、高専大会百周年

昨年（二〇一四年）は、六月中旬頃、

第六十三回国立七大学柔道優勝大会が京都武徳殿で開催され、大阪大学が実に四十三年振りに悲願の優勝を達成した。この年は、丁度、高専大会が始まって百周年の記念すべき年だった。これを記念して、京大学士柔道会の発案で、フランスに国立七大学柔道部有志学生十七名（大阪大学主将山下顕資君）を派遣して、国立七大学柔道ルール（高専ルール）で十五人制の勝ち抜き親善試合をすることになった。OBである私も九月四日から



2014年9月6日 クレイユにて
右から、羽田野、アンドレマットさん、重岡師範
左端 粟野仁雄事務局次長（阪大OB）



9月5日 アミアンにて
右から井手智朗君（4年）、中村将太君（3年）
羽田野（昭和47年卒）、大賀幹夫（平成6年卒）
柴田真吾君（4年）、栗野仁雄（阪大OB）

道事故も多い。三年程前から、中学校の授業に武道が必須化されたにもかかわらず、柔道人口が一向に増えない。立ち技中心の柔道が危険視されているからではなからうか。こちらで日本の柔道界も初心に還り、フ

九月十五日にかけて、総勢二十五人の一団の副団長として随行した。
ところで、今回、フランスに初遠征するに際し、七大学柔道ルールでの試合は、寝技の攻防により試合そのものが膠着化して、フランス人観客のブーイングを招くのではないかと懸念された。しかし、その心配は、杞憂であった。既にフランス柔道チームは、戦後間もない頃に高専柔道で名をなした、先輩諸兄ら（就中、パリで活躍した粟津様や、ボルドーで活躍された道上道場の道上伯氏等）から、高専柔道ルールを教えられていたからである。

三、フランスでは、柔道を国技と称する
フランスは、現在、柔道を国技と位置付ける程に柔道への関心が強い。今、フランスの柔道人口たるや約六十万人とも言われ、日本の約三倍位であるという。フランスでは、柔道を安全なスポーツとして定着させる様々な試みがある。その一つが柔道の初心者や、幼年期の子供達にも安全に柔道を学ばせるために、初心者には寝技から教えるという。また、対外試合は、十四歳まで禁止しているという。このような取り組みは、日本柔道界も学ぶべきものがある。日本の柔道は、得てして立ち技が中心となり、勝ち負けにこだわり過ぎる傾向が強く、その分柔



2014年9月6日 クレイユにて
二村雄次団長（名大OB）とアンドレマットさん

ランスの柔道の安全な取り組み方を一から学ぶことが必要ではなからうか。そう感じる事ができたことが今回のフランス遠征の成果であった。
四、因みに、国立七大学柔道部選抜チーム（学生十七名）は、フランスの各地で、アミアン→クレイユ→パリ→ボルドーと転戦し、三勝一敗だった。この一敗はパリにおいて、オリンピック強化選手を含む、十人との勝ち抜き勝負だったが、二

人残りで惜敗したものの、日本の学生達の健闘が目立つ試合であり、他の地区では圧勝だった。参考までに末尾に戦績表を掲載する。因みに、我が九大柔道部からは、四回生の柴田真吾君、三回生の井手智朗君、二回生の中村将太君が参加し、よく活躍して呉れたものである。

再び、柔道の盛んなフランスを訪れたものである。フランスは柔道人口も増え、今や世界に冠たる柔道王国となったと言っても過言ではない。他方かつて柔



2014年9月12日 ボルドーにて
切り絵モデルフランス女子柔道元オリンピック選手の背負い投げ

道をお家芸と称していた我が日本勢の、凋落や著しい。ここで五年後に開催される東京オリンピックに於いて、柔道の創始国たる日本柔道の雪辱を期待するものである。

以上



2014年9月12日
フランス柔道会副会長の
ミッシェルブルース氏のプロフィール



切り絵
フランス女子柔道オリンピック選手の切り絵 (羽田野作)

II 【特集】七大学柔道フランス派遣 感想文

大賀 幹 夫 (平成6年卒)

まずはじめに、今回の海外派遣は七大学柔道として初めての試みでした。本事業を成功させるために多大なご協力をいただいた諸先輩の方々に心から感謝申し上げます。その記念すべき事業に監督兼コーチとして同行できたことにも大変ありがたく思っております。

今回の派遣は高専柔道百周年を記念して行われたもので、目的は

①部員不足解消

②七大学柔道を世界に発信

の二つです。

①に関しては、どの程度の効果があるのか、という意見もあるようですが（今のところ、四年後に第二回の派遣がある予定）、今回の派遣をすることで、日本武道館から協賛をいただいたり、多くの企業からスポンサーになっていただいています。メディアでも、読売新聞、サンデー毎日、時事通信社にも取り上げられました。これらを考えると、今までにないくらいに七大学柔道の大きな宣伝になって

いる、ということは確かです。これを越えるコンテンツの代案を出すことは大変難しいです。

ただ、これから入部をする、という層に対しての直接の効果に関しては、これからこの事業をどのように発信していくのか、ということをよく考えて実行していくことが必要になるでしょう。やりっ放しで旅行記を各大学柔道部のHPに載せておしまい、ということではなく、各柔道部が訪問したフランスの各柔道クラブとつきあいを続けていき、新しく入部した部員もフランスの方々とネットを通じて顔の見える付き合いができる、という環境を作るなどの努力を続けると、この事業の意義をより大きなものにできると思います。

または、女子部員は全員連れて行く、とか。これは、会食の時にフランスの方に「なんで男ばかり来たんだ？」と訊かれたことが起因なのですが。フランスでは女性も多く柔道をしています。練習

相手にことかいている七大学の女子部員を連れて行くことは、彼女たちにとって非常に貴重な機会になるでしょう。四年に一度本事業が実施され、女子部員は全員行ける、ということになれば女子部員が増えるかもしれません。そうすると男子部員も増えることも期待されます。

②の七大学柔道を世界に発信する、ということについては、今回の事業が（常日頃七大学ルールで練習を重ねている）七大学柔道部員が、海外で初めて試合を行った初めてのイベントであったことは事実です。そこに十分歴史的意義はあるでしょう。ただ、これからも付き合いを続けていくのであれば、高専柔道がどのように発展していつているか、という要素もより多くプレゼンすることが必要になると思います。毎回行くとたびに「これが高専柔道の先輩方から伝わっている伝統の技です」と同じ技を披露していたら、フランス側のメリットは通減してしまいますから。

フランスの柔道を見て私が感じたことは、フランスの方は柔道の原理原則を理解して、それを自分たちに合うように適用させて発展させている、ということなので、こちらが全く変わらなかつたら、

あれ？っと思うのではないでしょう。我々も高専柔道の原理原則を理解して、それは守りながらも技術を発展させたり、時代に適合させるということが必要になるでしょう（ひよっとしたら、全く変わらないで古の技術や文化をを伝承していく、ということもフランス側は我々に期待しているかもですが）。

個人的には、七大学OBの力の大きさを改めて感じた事業でした。僕が柔術の賞金トーナメントを開くのに、寄付で一〇〇万円集めようとしても大変だったり、国内の柔術の有力選手十七人を集めて、ブラジルに連れて行って練習させよう、と思っても、実現させるための困難を考えると、とてもできる気がしません。企画段階でのフランス側とのやりとりやOB同士のやりとりを僕もメールで見ているのですが、組織同士のやりとりというのは非常に複雑で配慮しなければいけない事項も多く、個人事業主の僕にとっては、大きな驚きで勉強になりました。また、学生さんと十二日間も一緒にいて、彼らの考えを聞かせてもらうのは、僕にとってはこれも非常に勉強になりました。面倒くさい質問ばかりして、学生さんには迷惑がられたかもしれませんが

が、許してください。君らの考えを聞かせてもらうのは、僕にとってはとっても楽しかったです。

フランス柔道界を直接体験できた、というのは僕にとっては、ブラジリアン柔術道場経営という自分の仕事に活かすことのできる大変良い経験になりました。一言で言えば、フランス柔道界は「愛好者に楽しんでもらって人数を増やそう。そのために変えるべきところは変えよう」という方針で、日本は「固有の柔道文化を大事に守ろう。これに賛同できて、強くなれる人だけついてきなさい」ということなのだと思います。もちろん、今のところの状況なので、これから変わるかもですが。

派遣中は学生さんのサポートに回ろうと思っていたのですが、どの程度、お役に立てたのか心もとないです。今回派遣に同行させていただいたことを心から感謝していることを最後に重ねて述べさせていただきます。この文章を終わりにします。以上



参加者集合写真



III 【特集】 フランス遠征記III

現役部員

工学部四年 柴田 真吾

最初この話を伺ったとき、私は来年の七大戦の主役である三年生に譲ろうとしていました。しかし、その三年生の都合がつかず、また羽田野先輩の熱心な誘いに動かされ、参加を決意しました。今振り返ると、この遠征は、異国の柔道を肌で感じるのみならず、フランスの方や他大学の選手との交流もでき、非常に価値のあるものでした。羽田野先輩や、他大学の先輩方には厚くお礼申し上げます。

フランスでは「アミアン」「クレイユ」「パリ」「ペリグー」「ボルドー」「ダクス」と計六つの道場で試合や練習を行いました。前三つがパリ周辺、後ろ三つがボルドー周辺です。中でもパリの道場は非常にレベルが高く、七大学の強豪選手たちも苦戦を強いられました。私はクレイユとボルドーで団体戦に出場し、二勝二分の成績でした。

フランスの選手との寝技の乱取りは、大抵自分優位に進めることができました

が、足からむ脚力や、体幹の力の強さなどで、決めきれないことが多々ありました。パワーの必要性を改めて感じました。

フランスの柔道システムについて感じたのは、レベルやスタンスの違い、多くの道場があるということです。学校の部活動という形はほとんどなく、多くの人は道場に通うそうです。どの道場でも小学生から中年の方まで幅広い年齢層の人達と一緒に練習していました。子供たちがいろいろな人とのかわりをずっと持ちながら成長することができる点で素晴らしいと思います。また、フランスでは道場の指導者となるためにはライセンスが必要だと聞きました。ライセンス取得段階で指導者としてのあり方などの講義も受けるというこの制度を日本も導入してはどうかと思いました。

そしてこの遠征で、偉大な日本人柔道家の功績を知り、ゆかりの地を訪れることもできました。まずはパリの栗津道場。

栗津先生は、川石酒造之助先生の助手としてフランスに渡られ、指導者としてフランス柔道の発展に大きく貢献された方です。今回、栗津先生の名前が付けられた道場で練習することができ、ご健在の栗津先生にお会いすることもできました。ボルドーでは、ヘーシンクを指導した道上伯先生の道場を訪れることができました。道上先生は自身の武専の柔道の経験で、ヘーシンクを厳しく指導し、あの東京オリンピック金メダルに導いたそうです。私も今後、私なりに柔道の経験を社会人として活かし、社会に貢献していきたいと思いました。

工学部四年 井手 智朗

フランスに行ったのもう半年以上も前の話になってしまった。曖昧な記憶も多いと思うが、遠征直後に書いた遠征記を読み返し、思い出しながら書くことにする。

滞在したフランスの都市は移動中に寄り道したところなども含めて、クレイユ、アミアン、パリ、ペリグー、サラット、ダックス、ボルドー（もう少しいったかもしれない）。地図でみるとわかるのだが、クレイユ、アミアンはフランスの北

部、ボルドーは南部であり短い期間のなかでかなりの移動量だったのだとわかる。よく印象に残っているのはやはりアマゾン、クレイユ、パリ、ボルドーで柔道をしたことである。それまで外国人と柔道をしたことはほとんどなかったのに、とても新鮮だった。そのなかでも、パリの粟津道場（日本でいう講道館みたいなところ）でフランスのナショナルチームと練習試合（七帝ルール）や合同練習をしたことは非常に良い経験だった。ちょうどそこに、女子六三kg級で五輪二連覇した谷本歩美さんがいらつしやつて、小学生のときからの憧れの選手の一人だったので、写真をとってもらったりサインをいただいたりしてとても嬉しかったのを覚えている。乱取りをしたのは小さな子供から四十歳くらいの大人まで様々な年代。子供たちは本当に楽しそうに柔道をしていたのが印象的だった。フランスでは安全のため十四歳以下の大会は存在せず、「勝つため」に練習をするのではなく、柔道を「楽しむ」ことができるのだと思う。僕は小学生の頃から柔道をしているが、思い返せば練習はあまり好きではなかったと思う。また、フランスでは柔道を指導するには指導者の国家資格が

いると聞いた。故にフランスの柔道人口のほとんどが十一歳以下の子供であるが、柔道事故はほとんどなく、死亡事故に關しては0である。日本の指導者といえば、それを専業としている人はほとんどおらず、安全に対する知識をしっかりと持っていない指導者も少なくない。日本柔道には日本柔道の良さというものがあがるが、フランス柔道からも学ぶべきことが多いと思つた。

柔道以外のことについても少し書こうと思う。いろいろな都市に行くたびにその市長や道場の方々によくしてもらつた。なかでも驚いたのは、練習前でもパーティーのようなものを開いてくださつて、そこにはワインなども当たり前のように置いてあつたのだが、向こうの人はワインを当たり前のように飲んでいて、それを練習前の僕たちにも勧めてきたことである。これが文化の違いなのだと思つた。フランスといえば、おしゃれで古風な街並のイメージだったが、これは想像通りだった。オシャレな街を金髪美女がフランスパンを入れた紙袋を抱えて歩く姿がよくCMなどで見るが、本当にいたので驚いた。想像通りすぎて想定外だった。これは僕が個人的にフランスで感動した

出来事ベスト3には入ると思う。こんなことはどうでもいいが、普通に海外旅行にきた日本人がフランスを観光するには十分なくらい観光できたと思う。

今回の遠征はスケジュール的には厳しく、全てが上手くいったとは言えないと思うが、ただの一学生が経験するには（柔道面でもそれ以外でも）あまりに贅沢であり、こんな経験をすることはもう二度とないのではないかと思う。このような貴重な経験をできたのは七大学柔道部OBの諸先輩方、遠征団の立ち上げに携わつてくださった先輩方、フランス柔道連盟、現地で僕たちを快く迎え入れてくださった方々のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいである。拙い文章であるが、これをフランス遠征に関する寄稿とさせていただく。

農学部三年 中村 将太

フランス遠征に随行させていただき、とても良い経験になった。今回の遠征はスケジュールがかなりタイトなものであり、途中、集団食中毒などのハプニングがあつたものの、フランスと日本の柔道に取り組む姿勢の違いやフランスでの柔道文化、またフランスの柔道家のレベル

の高さなど驚いた点がいくつもあった。

遠征では、アミヤン、クレイユ、パリ、ボルドーなど、様々な地の道場を訪問した。フランスでは、学校の部活で柔道をするのではなく、町道場でやる事の方が多いのだそうだ。各地の道場で試合や稽古をして、フランスの方々は本当に柔道が好きでたまらないのだなと強く感じた。日本では、試合に勝つために、強くなるために柔道をしているという人が多いようにおもう。しかしフランスでは、柔道をしていること自体が楽しくてたまらない、柔道そのものが好きだというようない、人ばかりであった。それでいて、フランスの方々には柔道に対してとてもまじめで、技術、体力ともに高いものであった。自分が柔道に対して抱いていたイメージ、柔道に取り組んでいた姿勢とフランスの柔道家のそれは全く異なるものであったが、これほど強くなるものなのかと驚いた。今後自分が柔道やその他のことに対していかに向き合っていくべきかということの参考になったように思う。

また、今回の遠征の訪問先やその近くの市の市長に表敬訪問する機会が何度もあった。訪問した先々では手厚くもてなされ、食事をいただき、お話をたくさん

させていただいた。なぜこんなにももてなしていただけるのかと疑問に思っていたが、フランスで大変お世話になったミッシェル・ブルース氏によると、フランスでは柔道はいまや国技なのだという。その言葉を肌身感じるとともに、フランスの柔道人気の凄まじさを感じた。また、フランスでは子どもになにか習い事をさせるとき、とりあえず柔道をさせることが多いそうだ。柔道の競技としての側面よりも人間形成、人格形成の場としての側面を重視しているのだという。そこにもまた柔道人気の凄まじさを感じ、フランス柔道の隆盛の秘訣を見たように思えた。

次のフランス遠征は三年後である。次の遠征団に選ばれた者には今回以上に様々なものを吸収し、七大学柔道部に多くのものをもたらしてほしいと思う。

以上



現地での歓迎風景



試合を終えた選手たちと

Ⅲ【特集】フランス遠征記Ⅲ

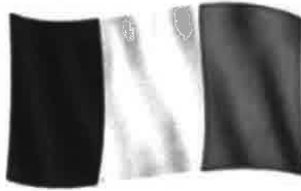


帰朝報告 (Briefing Report)

(七大学柔道選手フランス派遣団)
—高専柔道発祥100年記念—



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



OSAKA UNIVERSITY
大阪大学



TOHOKU
UNIVERSITY
東北大学



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



名古屋大学
Nagoya
University



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

IJ7 Overseas Project to France 2014
平成26年9月4日～15日

3. 七大学柔道フランス遠征団員紹介

		氏名(ヨミガナ)	年齢	所属	役職	備考(段位等)
随 行 団	1	ニムラ ユウジ 二村 雄次	71	名古屋大学	団長	6段・名大柔道部師範・医師
	2	シンバラ ツネユキ 新原 庸行	69	大阪大学	副団長事務局長	5段・会社経営
	3	ハヤカフ ナオカズ 早川 直和	68	名古屋大学	副団長 チーム Dr	3段・名大柔道部 OB 会長・医師
	4	ハタノ セツオ 羽田野 節夫	66	九州大学	副団長	4段・九大道友会会長・弁護士
	5	オガワ アキオ 小川 明男	58	名古屋大学	副団長 総監督	4段・名大柔道部監督・外科医
	6	アヲノ マサオ 栗野 仁雄	57	大阪大学	事務局次長	ジャーナリスト・同行取材
	7	オオガ ミキオ 大賀 幹夫	43	九州大学	監督 コーチ	ブラジリアン柔術3段・道場経営
	8	オオサカ マサル 大坂 勝	56	学士会館	料理長	学士会館(取)総料理長
選 手 団	1	オオオカ ハヤト 大岡 勇斗	21	東北大学3年	新主将	2段
	2	キムラ タカシ 木村 崇志	21	〃 3年	新主務	2段・東北大連絡係
	3	カウ マサキ 加藤 将貴	20	〃 2年		初段
	4	ツバキ トモヒロ 椿 知浩	22	東京大学4年	前主将	2段
	5	ヤマナカ コウヘイ 山中 康平	19	〃 2年	新主将	2段・東大連絡係
	6	カウ チ ハヤ 加藤 智隼	22	名古屋大院1年	元主務	2段
	7	シバヤマ エイサク 柴山 栄作	20	名古屋大学3年	新主務	初段・名大連絡係
	8	カタウラ コウヤ 片浦 幸也	19	〃 2年		2段
	9	マエカフ セイジ 前川 政司	21	京都大学3年	新主将	2段
	10	マツナミ ユウキ 松浪 祐樹	22	〃		2段
	11	ハルヤマ ヒロキ 春山 裕喜	21	〃	新主務	2段・京大連絡係
	12	ヤマシタ ケンスケ 山下 顕資	21	大阪大学4年	前主将	2段・学生代表(主将)
	13	ニシコオリ ソウタ 錦織 創太	21	〃		初段・阪大連絡係
	14	ヒガシサカ タカシ 東 坂 崇志	21	〃		初段
	15	シバタ シンゴ 柴田 真吾	21	九州大学4年	前主務	2段・九大連絡係
	16	イデ トモロウ 井手 智朗	20	〃 3年	新主務	2段
	17	ナカムラ ショウタ 中村 将太	20	〃 2年		初段

七大学柔道フランス遠征団 戦績
第1試合 平成26年9月5日 於アミアン

TAPIS 1

- ① 加藤将貴 _____ × _____ 1、LEFEVRE
 ○ (絞め) _____ 2、VATEL
 ○ (送りえり絞め) _____ 3、LAFFILET
- ② 井手智郎 ○ (横四方) _____ 1、MARINIZ
 ○ (絞) _____ 2、LAFFILEZ
 ○ (上四方) _____ 3、LEFEVRE
 ○ (そで車) _____ 4、VATEL
- ③ 柴山栄作 ○ (送りえり絞め) _____ 1、LEFEVRE
 ○ (絞め) _____ 2、MARLIN
 ○ (逆十字) _____ 3、LAFFILEZ

TAPIS 2

- ④ 椿 智浩 ○ (背負い投) _____ 1、PASQUIR
 ○ (横四方) _____ 2、VATEL
 _____ × _____ 3、LAFFILEZ
- ⑤ 春山裕喜 ○ (横四方) _____ 1、VATEL
 ○ (体落とし) _____ 2、CHAMPAGNE
 ○ (帯取り返し) _____ 3、FABLIEN
- ⑥ 柴田真吾 ○ (払い腰) _____ 1、PASQUIR
 ○ (隈返し) _____ 2、VATEL
 _____ × _____ 3、CHAMPAGNE

TAPIS 3

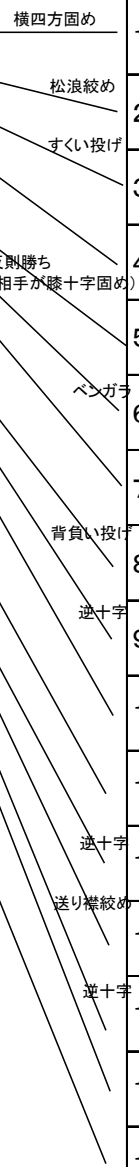
- ⑦ 加藤智隼 ○ (絞め) _____ 1、DUNONT
 ○ (送りえり締め) _____ 2、DENIS
 ○ (送りえり絞め) _____ 3、PRESLIER
- ⑧ 東坂崇志 _____ × _____ 1、PASQUIER
 ○ (崩上四方) _____ 2、NDONGO
 ○ (上四方) _____ 3、PRESLIER
- ⑨ 錦織創太 _____ × _____ 1、PASQUIER
 _____ × _____ 2、NDONGO
 _____ × _____ 3、PRESLIER
- ⑩ 大岡勇斗 ○ (縦四方) _____ 1、DUTWNT
 ○ (十字固め) _____ 2、NDONGO
 ○ (上四方) _____ 3、CHAMPAGNE

七大学柔道部有志vsフランス友好親善試合(午前10時30分開始)

第2試合

平成26年9月6日 於(クレイユ)

日本チーム	試合結果	フランスチーム
1 松浪裕樹	◎	1 Hamdaoui Rayan
2 柴田真吾	◎	2 Pingeot Kevin
3 椿 智浩	◎	3 GouloN Victorien
4 春山裕喜	◎	4 Cesarion Gary
5 大岡勇斗	◎	5 Gambella Gert
6 加藤智隼	◎	6 Bertrand Valentin
7 前川政司	◎	7 Bruland Julien
8 山下顕資	◎	8 Brisoux Geoffrey
9 加藤将貴	◎	9 Delaere Benjamin
10 柴山栄作	◎	10 Malbec Arthue
11 山中康平	◎	11 Cadoce Jimmy
12 井手智朗	◎	12 Roger Geoffrey
13 東坂崇志	◎	13 Poli Criti FrancK
14 木村貴志	◎	14 Jean Philippe
15 錦織創太	◎	15 De Oliveira Tony
16 10人残して勝ち 加藤智隼君と特別参加者の対戦は引き分け	◎	16 MalouKi Younef



記録係 羽田野節夫

七大学柔道部有志vsフランス友好親善試合(午後4時30分開始)

(10人制の抜き試合)

第3試合

平成26年9月8日 於(パリ)

日本チーム	試合結果	フランスチーム
1 木村崇志	————— ×	1 Guilloux
2 前川政司	————— ×	2 MaQuin
3 片浦幸也	————— ×	3 Segura
4 山中康平	————— ×	4 Guilloux bis
5 錦織創太	合わせ技=内股と小外刈り ————— ×	○ 5 Diao
6 加藤将貴	※この試合より寝技に対して 待てをかけた ————— ×	6 Collin
7 井手智朗	————— ×	○ 7 Roussel
8 中村将太	肩固め ————— ×	8 Pasquier
9 山下顕資	————— ×	9 Charrierre
10 東坂崇志	————— ×	10 Hamel

2人残りで敗退

七大学柔道部有志vsフランス友好親善試合
 (午後8時30分開始～終了時間は夜10時30分頃)

(13人制抜き試合)

第4試合

平成26年9月10日 於(ボルドー)

日本チーム	試合結果	フランスチーム
1 井手智朗	— × —	1 Figwin
2 前川政司	— × —	2 Sougat
3 柴田真吾	— × —	3 Delagur Sebastin
4 大岡勇斗	— × —	4 Boivin
5 錦織創太	— × —	5 Lepeletier
6 東坂崇志	— 小外刈り — ○	6 Delaurea
7 山中康平	○ 送り襟絞め — × —	7 Milion
8 松浪裕樹	◎ 松浪絞め —	8 Leduc
9 椿 智浩	○ 松浪絞め —	9 Labrouche
10 加藤智隼	○ 上四方固 — × —	10 Barraud
11 木村崇志	○ 肩車 —	11 Roche
12 山下顕資	○ SRT縦四方 — × —	12 Salmon
13 片浦幸也	○ —	13 Verepla
14		相手方は15人揃えていた
15		

2人残し

記録係 羽田野節夫

IV【特集】 奥田義郎師範の寝技DVDについて

道友会副会長 有岡利夫（昭和48年卒）

今般、奥田義郎師範の企画・監修により「柔道寝技教科書」と題するDVDが発巻されました。講道館ルールから高専柔道までを視野に、初心者から上級者まで段階的に強くなるための技術、練習の方法が動画と解説によつて分かり易く示されています。

奥田義郎師範は、柔道の勝負を立勝負と寝勝負に分け、寝勝負に用いる諸々の技の総称が寝技であると定義をされ、寝勝負に強くなる本筋を踏まえた実践で有効な寝技とその練習のやり方を解説されています。

具体的には、「テクニク初級」、「テクニク中級」、「テクニク上級」、「初級練習法」、「中級練習法」、「人間修行としての柔道・七大学柔道の意義」の六章立てとなっており、初心者から高段者まで、また各級の指導者にとつても細かな点まで容易に見て取れる工夫がなされています。技を覚えさせるための鉄則、練習の取り組の方の提言は、指導者にとつて非

常に有益なものです。

奥田義郎師範は、先達の教えを契機に寝技の奥深さを感じ得るまで追求され、一九六四年の全日本柔道優勝大会では、四十八選手中ベスト8まで寝技で勝ち上がられました。その後も研鑽と工夫を重ねて本DVDで示されているような奥田寝技というべき技術を開発された、まさに異才といふべき人です。

本DVDで注目すべきは技術論にとどまらず、柔道に取り組む姿勢、その意義について思索を重ねた結果至つた思い熱く語っておられることです。

いわく、「寝勝負の分野を追求することは一つの分野の一流を目指すことに通ずる。」「柔道を強くなろうと一生懸命工夫し、練習し、練り上げることが、結局自分を磨きあげることになる。」「内面の個性、自立した大人としての基礎力を磨くことが柔道の修行である。」

思うに奥田義郎師範が本DVDで述べたかったことは、自ら工夫した寝勝負の

技術を後世に残すとともに、寝勝負の技術を材料として、「強くなるための懸命な工夫と練習を徹底して行うことが、人をして自らを磨かしめるものである。」という点にあるのではないかと思つています。

道友会会員諸兄には是非ご覧頂きたくご案内するものです。

なお、ご入手希望の諸兄は次のメールアドレスまでご連絡下さい。

t-arioka@work.odn.ne.jp

柔道寝技教科書
奥田義郎 段階的寝技鍛錬法
講道館ルールから高専柔道まで

全編再生
プロフィールインタビュー
本編概要

テクニク初級 24分	初級練習法 10分
テクニク中級 35分	中級練習法 14分
テクニク上級 46分	

人間修行としての柔道
七大学柔道の意義



V 【特集】 部員不足解消への取り組み

工学部三年 小西興治

近年、日本人の柔道離れが進んでいるといわれている。それは七大学柔道界も例外ではなく、我々九州大学も部員不足に苦しんでいる。ただでさえ、七大学に入ってくるような進学校出身の学生で、毎日練習しなければならぬ柔道部に入りたいと思う者は限られているが、その



新入部員勧誘のチラシ

中で部員を十五人揃えて七大戰に出場するというのはなかなか大変なことである。それでも一人でも穴があると大きく不利になる七大戰に出場する以上、選手が十五人以上集めることは最重要課題だ。近年では、入部して二ヶ月程の一年生が出場せざるを得ない状況も珍しくないが、やはり、二年生以上だけでチームを組みたい所である。今回は部員獲得に向けた我々の取り組みを未来の後輩のために記録したいと思う。

平成二十六年度の七大戰前の男子部員数は十二人(四年四人、三年三人、二年四人、一年一人)であった。ここに助っ人を四人加え、なんとか人数をそろえた。ただ、当然一年生と助っ人は七大理論での練習をあまり積んでおらず、寝技の技術に不安を抱えたままの出場である。そのため、試合ではなるべく引き込ませず、立ち技で対応するという戦法で臨んだ。



新入部員勧誘の風景

七大戰の後、四年生は引退し、三年生以下の新チームが始動する。男子部員数はこの時点で九人である。このままの人数で新年度を迎えれば、新入生を六人以上入れないと、十五人を割ってしまうことになる。そうならないためにも、柳原新主将の下、今年度中から部員を増やす案を練った。勧誘活動の大きな柱としては次の二つを掲げた。

一、秋の後期開始時期にも勧誘活動を行う
二、四月のグラウンドガイダンスに参加する
では今年一年、実際にどのように部員が



新入部員を勧誘する井手

増えたか、順を追って見ていこう。
まず、助っ人として出場した片上（当時三年）が入部してくれた。七大戦での熱い闘い、先輩OB方の想いに魅せられてのことだ。このように、七大戦の空気を生で触れて、入部を決意するケースもある。助っ人一年生にも積極的にアプローチしたが、入部には至らなかった。
四月の新歓時期について入部を期待できるのは、後期開始の十月である。しかし、これまでは十月の勧誘はあまりしてこなかったようである。この時期になると、一年生は大方どこかの部やサークルに所属しており、あまり成果は望めないというのが理由だろう。しかしこの状況下では、一人でも部員を増やせば御の字ということで、秋に勧誘を行うことになった。



能天気な三浪

実際、他の部活もほとんど勧誘をしておらず、ピラを配ってもあまり受け取ってもらえない。しかし、柔道部が部員を募集しているということを広告できればよいと考え、昼休みと放課後、全学の食堂前でアナウンスとピラ配りをした。その結果、練習見学会には六人（内三人は経験者）が参加してくれた。この中から、三浪（同一年）が入部を表明してくれた。半年間大学生活を送ってきて、やはりもう一度柔道がしたくなったとのことである。

年が明けて、新たに二人が入部した。一人は栗木（同二年）。四月に一度見学に来たが、通学時間が長いのとアルバイト



やる気満々の稲富

が忙しいので入部をためらっていたようである。もう一人は藤井（同一年）。秋の勧誘で一度見学に来て、その時は入部には至らなかったが、時間をおいて考えたのち、入部してくれた。時々、すぐには入部しなくても後になって入部する人もいる。そういう人に気軽に道場に来てもらうためにも、柔道部がいつでも新入部員を歓迎しているという態度を示しておくことは大切だろう。

平成二十七年前期開始の四月、例年通り新入生勧誘を行った。練習見学会、新歓コンパ、新歓バーベキューなどの場を設けて、新入生が柔道部を知る機会を作った。一年生の授業がすべて伊都キャンパスで行われているのを考慮に入れて、練習見学会はすべて、我々が伊都で練習



新入部員を勧誘する村上

する週の後半に設定した。また、伊都キャンパスの道場がセンターゾーンからかなり離れており、自転車や原付を持つていない一年生は来づらいという意見を踏まえ、道場まで無料の循環バスがあることもアナウンスした。新歓バーベキューは、新入生をどこかに食べに連れていくより、肉を買ってきて自分たちで行った方が予算を抑えられるという理由で、昨年度から実施している。

加えて、今年からグラウンドガイダンスにも参加した。グラウンドガイダンスは各部がそれぞれブースを設けて、興味を持ってブースに来た新入生に部の紹介を行うという形式のイベントである。柔道部のブースにも何人か新入生が話を聞きに来て、柔道に興味を持ってくれた。

今年初めての参加ということで勝手が分からず、自分たちのブースに来た新入生と話をするぐらいいしかなかったが、来年は技のパフォーマンスや、初心者への体験イベント等、より柔道部に興味を持ってもらえるようなことを準備してきた。

以上のような勧誘の結果、今年度は一年生五人と、マネージャーが一人入部した。現在の男子部員数は十八人（四年五人、三年五人、二年三人、一年五人）、マネージャーは二人となり、昨年の七大戦後から倍近くまで増えたことになる。これで今年の七大戦は、助っ人を借りることなく出場できそうである。

最後に、部員数の増加へ取り組んできて、私が考えたことを簡単にまとめる。まず今年一年間を振り返って、年中いつでも部員は入ってくる可能性があるのだということを改めて実感した。今まで、勧誘は春という考えにとらわれており、ともすればほかの時期は、見学に来た人への対応もおろそかになりがちであったが、これからは部員獲得のチャンスの一つ一つ大事にしていきたい。また逆説的ではあるが、そのためにも、勧誘期に柔

道部の存在を示しておくことは大変重要であろう。これには、勧誘の際柔道着を着用する、入りそうにない者も含めてできるだけ多くピラを配るよう心掛ける、などが考えられよう。私自身、ピラを配るときについて尻込みしまうことも多いが、「七大学柔道という素晴らしい世界へ君を招待してやろう」ぐらいいの気持ちでいく方がいいのかもしれない。

追加としてあと一点、練習に見学に来る外国人について触れて終わりたいと思う。毎年二、三人の外国人が九大柔道部へ練習を見学に来る。彼らは往々にして日本語に不慣れであるが、柔道にとっても興味を持つていることが多い。しかし、やはり言語の壁というのが大きいのだろうが、何回かは来てもなかなか長続きしないことが多い。これは残念なことである。外国人であっても九大に入学している学生なら七大戦に出場できる。少し言葉の点で不自由を感じるかもしれないが、積極的に関わっていきたい。

以上

VI 【特集】 九大杯争奪高校生招待試合を終えて

工学部四年 稲富悠也

平成二十七年三月二十八日に伊都キャンパスの道場に置いて第二十回九大杯争奪高校生招待試合が行われました。参加校は東筑高校、福岡高校の二校のみとなりましたが、試合、合同練習ともに白熱し道場は熱気に包まれました。

試合は東筑高校と福岡高校で、七人制で二試合行いました。ルールは国際柔道心配規定を基に寝技の時間を長めにとるルールで行いました。結果は、一試合目は2-1で福岡高校の勝ち。二試合目は3-1で東筑高校の勝ちとなりました。両チームとも実力は接近し気合い十分で、寝技で取る場面も多く、とても見ごたえのある白熱した試合となりました。

試合後は大学生や九大OBを交えて合同練習として乱取りを行い、その後は寝技の講習を行いました。例年より参加校が少ない分、乱取りと寝技講習に時間をかけたため、高校生も例年より多く乱取りに参加することができました。高校生は自分から大学生に乱取りを申し込むな



開会式 森田部長挨拶

ど積極的に練習に参加してくれ、乱取り後の寝技講習でも積極的に寝技に対する質問をしてくれたため、合同練習は非常に盛り上がりました。

合同練習の後は工学部食堂において懇親会が開かれ、九大主将あいさつ、各高校主将スピーチ、九大一年生による九大柔道部紹介プレゼンテーションが行われ

ました。今年度は各テーブルでより交流を深めるため、違う高校で学年が同じ生徒が近くに来るよう座席を指定し、テーブルごとに九大部員を配置し話題を作るなどの工夫をしました。懇親会は盛り上がり、どのテーブルでも食事を通して学業を超えて、受験勉強、大学生活、大学での部活など共通の話題に盛り上がりました。懇親会後、お土産として生徒一人一人に話題の「七帝柔道記」をプレゼントしました。これは参加校が少ないからこそその試みでしたが、これは各生徒が



合同練習



九大生による寝技の講習

将来大学に入ったとき七大柔道に入部するよいきっかけになるのではないかと思えます。以上から参加校が少なかつたものの、有意義な招待試合にすることができました。

今回の招待試合の反省としましては、参加校の事前の実施日の調査が不十分であり結果参加校が少なくなつてしまったことが挙げられます。来年からは常連の参加校については事前にアンケート等を行ってできるだけ多くの高校に参加してもらうようにします。また不参加校で部員が少ないため参加できないという高校も多く、招待試合の形式も、試合中心から練習・寝技講習・大学紹介・懇親会をよりメインに置くことも考えられます。

高校生はこの招待試合を通じて七大柔道について知ってもらい、将来の入部の



合同練習

きっかけとしていただけたら幸いです。そのためにもこれからのインターハイ予選や金鷲旗に向けて精一杯頑張り、勉強にも励むことを期待します。

最後になりましたが高校生のみなさん、監督、父兄の皆様、ご協力いただいた諸先輩方に感謝申し上げます。また、大学施設関係者、懇親会の対応をいただいた三菱ライフサービスの方々にも深く感謝申し上げます。運営面で至らないところが多々ありご迷惑をおかけしましたが無事招待試合を有意義な会にすること

ができました。ありがとうございました。
 高校生の進路相談や先生・OBの方からのご意見・ご指導は左記の現役主務アドレスよりご連絡ください。よろしくお願ひします。

九大主務アドレス

judo_shumu@hotmail.co.jp



合同練習





東筑高校（平田先生、柴田先生引率）

高校生招待試合 参加校主将の挨拶
東筑高校 津田
本日は招待していただき、ありがとうございます。
京都大学、大阪大学での高校生招待試合にも参加しましたが、今回と合わせて寝技の大事さと実感しました。本日はありがとうございました。



福岡高校（進藤先生引率）

福岡高校 竹林
招待ありがとうございます。
東筑高校との試合、大学生との乱捕りはいい刺激となり今後の課題も見つかりました。また寝技の重要性を実感しました。福岡高校は少ない人数ですが、文武両道を心がけ、部員を多く確保するようがんばります。ありがとうございました。



集合写真

VII 道友会通信

一、九大道友会活動報告

事務局長 仲原孝志（昭和55年卒）

会員の皆様にはいつも九大柔道部へご

指導、御支援を賜り誠にありがとうございます。平成二十六年年度の九大柔道部は四年生四名、三年生三名、二年生三名、一年生一名、マネージャー二名と合計十三名で京都での七大戦に臨みました。平成二十六年六月〜平成二十七年五月までの道友会活動の概要を報告します。

一、七大戦壮行会

（平成二十六年五月三十一日）

七大戦を二週間後に控え、修猷館道場で十四時より練習見学会を行い、十七時半から西新の『居酒屋ひなたぼっこ』にて壮行会を行いました。羽田野会長、北島先生から激励の言葉を頂き、井手主将以下現役部員から七大戦に向けて決意表明がなされました。出席OB二十三名で盛会でした。



七大戦開会式

二、第六十三回全国七大学柔道優勝大会

（平成二十六年六月十四日〜十五日）

九大柔道部最大の目標七大戦が、京大主管のもと京都市武道センターにて開催されました。今年が高専柔道百周年の記念大会で東海大学の佐藤宣実践氏を来賓に迎え開催されました。学生の宿は「コープイン京都」でした。



九大前夜祭 羽嶋先輩挨拶

今年は、延べ七十名の先輩方に応援に駆けつけて頂きました。山本会長、清瀬幹事はじめ関西道友会の先輩方には昨年の大阪大会に引き続き大変お世話になりました。有難うございました。また、若手OBの森村、安本、山本先輩には忙しい中、審判を引き受けて頂きありがとうございます。

六月十三日（金）：大会前日

☆ 主将審判会議

☆ 九大OB前夜祭：十八時半より、『らんこ京都駅ビル店』にて九大道友会前夜祭が開催されました。総勢二十五名で盛会でした。

六月十四日(土) …大会初日
 六月十五日(日) …準決勝・決勝
 成績は、初戦で東北大学に(0-15)、敗者復活戦でも北大に(0-4)で敗れ、九大は残念ながら、今年も初日突破ならず大変厳しい結果となりました。



九大3将2年中村 VS 北大2将4年森本

初戦を突破した東北大、東大、阪大と、敗者復活戦で勝ち残った北大が二日目の準決勝に駒を進めました。決勝では四年生に実力者が揃った阪大が東北大を(5-13)で破り、高専柔道百周年の記念大会で、四十三年ぶりの優勝を果たしました。試合の詳細や戦績は、濱中副部長の

七大戰観戦記や巻末の試合記録をご覧ください。
 ☆ 七大学OB懇親会…十八時より「ウエスティン都ホテル」で七大学柔道OB懇親会が開催されました。東海大学の佐藤宣践氏に高専柔道百周年の記念講演を頂きました。九大からの参加者は四十三名でした。



七大学柔道部 OB 懇親会 羽田野会長挨拶



OB 懇親会 昭和40年代の先輩方

六月十五日(日)
 ☆ 現役組慰労・激励会…十八時半より『パブリックハウス』にて慰労・激励会が行われました。現役生は、現役レセプション終了後十九時より合流。奥田氏師範から激励のメッセージを頂き、四年生の慰労と、次回東北大大会での優勝を祈念して、OB三十名、現役生十五名で盛り上がりました。



現役慰労会 奥田師範より激励のメッセージ

三、フランス遠征

(平成二十六年九月四日～十五日)

高専柔道百年の記念事業として、「国立七大学柔道選手団フランス派遣事業」が行われました。九大OBからは、羽田野会長が副団長、平成五年卒の大賀さんが監督として随行、三名の現役生が参加しました。詳細はフランス遠征の特集をご覧ください。尚、道友会会員の皆様にはこの度のフランス遠征に際し、物心両面にわたり多大なご支援を頂きました。本年度当初予算二六五万円に対して、二百六名の方から三九六、五万円の会費を頂き、

現役生の渡仏費用一〇五万円を無事確保出来ました。ご支援・ご協力ありがとうございました。



フランス遠征ボルドーの道場にてテストマッチ後記念撮影

四、送別試合

(平成二十六年十二月二十日)

貝塚道場予約不可の為、修猷館柔道場をお借りして行いました。送別コンパは、長年利用してきた箱崎地区の三畏閣が今年から宴会での利用が出来なくなり、西新の「居酒屋ひなたぼっこ」で行いました。九

大OBでは、遠路森村さん、中武さん、境さんに参加頂きました。東大からも西森さん、境さんに参加頂きました。出席者はOB二十八名、現役十五名でした。



送別試合 記念撮影

五、道友会総会・新年会

(平成二十七年一月二十四日)

総会・新年会が大名の「みくに」にて行われました。羽田野会長の挨拶ではじまり決算報告と予算案が全会一致で承認されました。本総会で、小宗部長が退任され、昭和五十四年卒の森田さん(理学部物理学科教授)が新柔道部部长に就任されました。小宗部長は平成十八年より八年間柔道部長を務められました。



新年会 荒木先輩の音頭で乾杯

この間、小宗部長を七大戦で胴上げ出来なかったのが残念ですが、現役生を自宅に食事に招いたり、忙しい中、柔道部

の面倒を見て頂きました。四月からは佐賀県鹿島の病院に勤務されるとの事です。

また、平島監督が総監督に、平成十八年卒の山本泰三さんが新監督に就任されました。新年会は、昭和三十四年卒荒木先輩の乾杯の音頭で始まり、参加OBから現役生へ激励のメッセージの後、柳原主将以下現役部員より七大戦優勝へ向けて決意表明がなされました。今年の新年会は、小宗部長の退任慰労会で、OB四十四名十現役十四名五十名と過去最多の参加で盛会でした。年始のお忙しい中、出席ありがとうございました。来年も多数の参加をお待ちしております。最後は、人生流転の後、昭和四十五年卒溝田先輩の音頭で、現役諸君の七大戦での健闘を祈念して万歳三唱してお開きとなりました。

六、広大定期戦・京都寝技錬成大会

今年度は遠征費削減の為、広大定期戦と京都寝技錬成大会をセットで計画しました。三月十一日に広島大学にて広大定期戦を行い、十三日は京大道場で京大、東北大と合同練習。十四日～十五日に京都武徳殿にて寝技錬成大会に参加しました。戦績は巻末の試合記録を参照ください。

参加校の中では、部員数且つ大型選手が多く、粘り強い寝技を展開する東北大と、三名の取りを擁し、しぶとい寝技で穴が少ない京大の戦力が充実していました。今年度は、北大は不参加でしたが、「七帝柔道記」の影響もあって部員数も多く活気があって勢いがあるとの評判です。東大、名大、阪大、九大は部員不足の解消が課題の様です。十五日には山本会長はじめ、関西道友会の先輩方に歓迎・激励会を開催して頂きました。有難うございました。OBの観戦者は十名でした。



京都寝技錬成大会 九大 vs 京大



関西道友会主催 現役激励会

七、第二十回九大杯争奪高校生招待試合
三月二十八日に伊都道場にて恒例の九大杯争奪高校生招待試合を開催しました。約二十校に招待状を出したものの、部員不足で参加を見送られる高校が大半で柔道人口の裾野が急速に細まっている事を痛感しました。また、部員が揃う高校も日程が学校行事や遠征と重なり、残念ながら、今年は東筑高校と福岡高校二校の参加のみとなり、七人制の対抗戦を二試合行いました。両チームとも県の北部地区、中部地区の公立校強豪校だけあって実力伯仲した中、活気あふれる白熱した試合



高校生招待試合開会式

が展開されました。今年は合同練習や技の講習に時間を多く取りましたが、寝技講習では、時間が足りなくなるほど高校生から積極的に質問が出るなど受けは良く、中身の濃い合同練習・講習会となりました。その後、工学部食堂での懇親会では、現役部員による九大及び七大学柔道部のプレゼンを行い、食事をしながら高校生とのコミュニケーションを深めました。最後に各高校のキャプテンからスピーチ。



招待試合合同練習

参加記念に「九大合格祈願饅頭」と「七帝柔道記」がプレゼントされました。年度末のお忙しい中、引率頂きまし先生方ありがとうございました。来年もまた宜しくお願います。本大会は、同じような環境で文武両道に励む九州地区の進学校の柔道部の活性化への寄与と九大はじめ七大学柔道部の将来の新入部員候補発掘を目的に開催しております。関係の皆さんのご意見を伺いながら、更に参加校を増やして、内容もより充実した大会にしていきたいと思っています。ご支援宜しくお願いします。OBの参加者は、十二名の参加でした



どんたく会 人生流転斉唱

八、どんたく会 (平成二十七年五月三日)
 今年は十四時より修猷館道場をお借りして開催。関東より玉置、藤井先輩、関西より、尾崎先輩、熊本より、禅院、林先輩に参加頂きました。懇親会は十八時より大濠のチャイナガーデン。羽田野会長、濱中副部長に挨拶を頂き、北島先生の乾杯の音頭で開会しました。その後恒例により各先輩方より新入部員歓迎と七大戰へ向けての激励の言葉を頂きました。最後に柳原主将はじめ現役部員から、決意表明がなされ部歌人生流転合唱の後、有岡副会長の万歳三唱でお開きとなりました。



どんたく会 練習見学会

した。OB出席四十八名。現役十七名で合計六十五名と盛況でした。来年も「どんたく会」への多数のご出席をお待ちしております。

九、その他

☆ 七大戰まで残すところ一か月となりました。今年は、主管大学の東北大学に、選手層の厚い北大、京大を中心とした戦いが予想されます。八一kg級インハイチャンピオンが入部した阪大がこれに続き、東大、名大、九大は新人の補強と育成がカギを握りそうです。

現役部員は、仙台での優勝を目指して日々、練習に励んでおります。昨年は部員不足のため、四名の助っ人を加えての七大戰でしたが、今年は、昨年の七大戰以降四名の途中入部者(四年生一名、三年生一名、二年生二名)、そして、今春の新入部員五名を加えて、四年生五名、三年生四名、二年生四名、一年生五名の総勢十八名(十女子マネ二名)の陣容で仙台での七大戰に臨みます。先輩方のご指導、ご支援何卒宜しくお願いします。

以上



期待の新人 左より平野(笹岡)、小野(ラ・サール)、衣笠(姫路東)、工藤(香住ヶ丘)、仲原(修猷館)

平成26年6月～平成27年5月 道友会行事参加者一覧（暫定）

			七大戦 壮行会	七大戦 (京都)	送別試合	総会・ 新年会	京都練成 大会	高校生招待 試合	どんたく会
	卒年	氏名	23名	70名	29名	44名	10名	9名	45名
1	38	奥田 師範	○	○					
2	20	北島 先生	○	○	○	○		○	○
3	30	釘宮 先輩		○					
4	30	岸 先輩	○			○			
5	33	林田 先輩		○					
6	34	荒木 先輩				○			
7	37	高田 先輩				○			
8		岡本		○					
9	38	山口 先輩		○					
10		山下 先輩	○	○					
11		溝田 先輩		○					
12		織島 先輩		○					
13	39	沢井 先輩		○					
14		有馬 先輩		○					
15		高島 先輩		○					
16	40	桑野 先輩		○					
17		木下		○					
18		大村		○					
19	41	高木 先輩		○					
20		斉藤		○					
21	42	右田 先輩		○					
22		田中 先輩		○					
23		田代 先輩		○					
24		木藤 先輩		○					
25		福地				○			
26	44	小玉 先輩			○	○			○
27	45	溝田 先輩		○		○			○
28		三角 先輩				○			
29		池田 先輩		○					○
30		藤原 先輩		○			○		
31	46	内海 先輩	○	○	○	○		○	○
32		別府	○		○	○			○
33		小林							○
34	47	羽田野 先輩	○	○	○	○		○	○
35		大瀬 先輩		○				○	
36		植本 先輩		○		○			
37		諫山 先輩				○			
38	48	有岡 先輩	○	○		○			○
39		羽島 先輩		○					
40	49	寺地 先輩				○			
41		高田 先輩		○					
42		福本 先輩		○			○		
43	50	小宗 先輩		○	○	○			
44		井上嘉 先輩			○	○			○
45		廣田		○			○		
46	52	池永 先輩		○		○			
47	52	国生 先輩				○			
48	54	禅院 先輩				○			○
49		林 先輩				○			○
50		山本剛 先輩		○			○		
51		森田 先輩			○	○		○	
52		山本和 先輩		○					
53	55	平島 先輩	○	○	○			○	○
54		仲原 先輩	○	○		○	○		○
55		洲 先輩	○	○		○			○
56		波多江 先輩	○	○	○	○			○
57		山崎		○					
58	56	上野		○					
59		寺島 先輩		○					
60		原野	○						

Ⅶ 道友会通信

平成26年6月～平成27年5月 道友会行事参加者一覧（暫定）

			七大戦 壮行会	七大戦 (京都)	送別試合	総会・ 新年会	京都練成 大会	高校生招待 試合	どんたく会
卒年	氏名		23名	70名	29名	44名	10名	9名	45名
61	57	相島 先輩	○						
62		栗栖 先輩				○			○
63	58	井手 先輩	○	○	○	○			○
64	59	橋本 先輩				○			
65	60	玉置 先輩				○			○
66	61	渡辺 先輩		○			○		
67	62	有富 先輩							○
68	63	井久保 先輩				○			
69		畠山 先輩		○			○		
70		清瀬		○			○		
71	H1	藤井 先輩		○	○				○
72	H2	吉田 先輩		○	○	○			○
73	H5	柴田 先輩							○
74	H6	井村 先輩				○			
75		大賀 先輩		○					
76	H11	濱中 先輩	○	○	○	○		○	○
77		中武			○				
78	H13	和田 先輩							○
79		森村		○	○				
80	H16	安元 先輩		○					
81		山口 先輩		○					
82		田代 先輩	○			○			○
83		田口			○				
84	H17	中川 先輩			○				
85	H18	今屋 先輩							
86		金子 先輩		○		○			
87		山本 先輩		○	○			○	○
88	H19	酒徳 先輩		○					○
89	H20	前田 先輩		○		○			○
90		境 先輩		○	○				○
91		野崎 先輩		○					○
92		西							○
93	H23	藤 先輩	○						○
94		松田 先輩		○					○
95		宮崎				○			○
96	H24	黒木 先輩		○	○				○
97		宮崎 先輩		○					
98		梶原 先輩				○			
99	H25	武内 先輩	○	○		○			
100		中尾 先輩		○		○			
101		箱田 先輩	○	○	○				
102		引地 先輩		○					
103		藤堂							○
104		西谷			○	○			
105	H26	田中	○	○	○	○		○	
106		濱崎	○	○	○				○
107		白新田	○						
108		尾崎		○	○		○		○
109		三谷		○					
110		古田		○			○		
111		長嶋			○				○
112		阿部				○			○
113		加來							○
114	H27	鹿倉							○
115		井手							○
116		高木							○
117	東大	西森 先輩			○	○			
118		境			○				
119		中野				○			
120	京大	米原				○			

二、関東道友会活動報告

関東道友会幹事

山口 義 幸 (平成16年卒)

平成二十六年年度の関東道友会の報告を致します(お名前はすべて敬称略)。

第二十二回関東七柔会・懇親ゴルフ会

平成二十六年五月二十四日(土)会場…本千葉カントリークラブ 幹事役は九州大学。七大学からは計三十七名参加。

九大からの参加は以下の通りで、京大に続いて九大は準優勝となりました。



七柔会ゴルフ

- S 36年卒 木下嚴夫
- S 38年卒 山口浩利
- S 42年卒 佐藤重敏
- S 48年卒 羽島俊秀
- S 51年卒 井上英明
- S 51年卒 溝辺辰雄
- S 56年卒 寺嶋秀司
- S 59年卒 富松徹

関東道友会総会

平成二十六年五月三十一日(土) 会場…

神田 助六

参加者数は十七名とやや少なめですが、S 51年卒 伊奈先輩が久々に参加されています。

冒頭、羽島会長より柔道部の部員加入状況等諸連絡、七柔会懇親ゴルフ会の結果発表がありました。なお、準優勝賞金一万円を関東道友会へ頂いております。この他に萩田先輩の新聞記事やS 45年卒 工藤秀憲先輩の小説出版の案内、フランス遠征計画進捗状況の報告などがありました。

第三十七回関東七柔会懇親囲碁会

平成二十六年六月二十九日(日) 会場…学生会館

参加者は計二十二名。九大からはS 37年卒 久保信行、S 40年卒 桑野知矩、S 43年卒 松尾茂彦、S 45年卒 相良千昭(九大幹事役)の四名が参加。結果、優勝 九大 相良(四戦全勝、九段に昇格)、準優勝…東大 江島さん。

七大学戦(於京大)

平成二十六年六月十四日(土)～十五日(日) 会場…京都市武道センター 旧武徳殿 OBも多く応援に駆けつけましたが、東北大、北大に連敗し一日目で敗退と、残念な結果に終わりました。今年は巻き返しを期待します。

国立七大学柔道フランス派遣事業

平成二十六年九月四日(木)～十五日(月) 詳細な報告が別途既に行っている出ておりますが、高専柔道百周年事業として実施されたフランス遠征は成功裏に終えることができました。関東七柔会で組織した実行委員会には関東道友会から羽島会長が参加し、事前準備から関わっております。参加された選手、OBの方々を始

め関係各位にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第二十回関東七柔会総会

平成二十六年十一月二十九日（土）会場・東海大学校友会館

九大からの参加者は七名と、全体で八十余名の中やや低調でした。総会の部では、今回のフランス遠征の団長を務められた二村名大師範より、フランス柔道との繋がりについて一時間を超えて大いに語って頂きました。また、七柔会小川会長より第二回のフランス遠征および、今回のフランスからの遠征団受け入れに関して、今後の体制作りについて提案がありました。その他の活動として、ゴルフ会の報告を羽島会長より、囲碁会の報告を京大城尾さんより行って頂きました。

第三十八回関東七柔会懇親囲碁会

平成二十六年十二月七日（日）場所・学士会館

参加者は七大学から計二十三名、九大参加者はS37年卒 久保信行、S40年卒 桑野知矩、S45年卒 相良千昭の三名。結果・優勝 京大 城尾さん、準優勝 東大 示野さん

関東道友会新年会

平成二十七年一月二十四日（土）会場・神田助六

参加者は二十四名。羽島会長よりフランス遠征の話や現在の柔道部の状況、部長・監督交代等の報告がありました。また、あわせて今年の七大戰のスケジュール確認も行っております。アルゼンチンでの柔道の指導を終えて帰国された菊池先輩も参加され、お土産としてイグアスの滝とアルゼンチン・タンゴのDVDを頂いています。菊池先輩は今年二月より、再びラオスで指導されています。今回の参加者の最年長はS29年卒の宮川長行先輩。お元気です。



2015年関東道友会新年会

平成八年卒 古川壯一先輩逝去

筆者の二学年上の代で主将を務め、七大戰でも活躍された古川壯一先輩が平成二十七年三月一日、正に働き盛りの四十一才という若さで急逝されました。



古川先輩遺品 上野師範から頂いた黒帯

通夜、告別式には先輩が准教授を務められた日大関係者や学生が大多数参列されていて、そのお人柄が偲ばれました。関東道友会の先輩方をはじめ、古川先輩と同期の先輩方も多く参列されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

以上、平成二十六年の関東道友会の報告と致します。以上

三、関西道友会近況報告

関西道友会幹事

清瀬弘晃（昭和63年卒）

一、はじめに

関西道友会の会員状況から報告させていただきます。関西道友会は関西地区に在する九大道友会で構成されており、昭和五十四年卒の山本会長、昭和四十九年卒の福本副会長を中心に、若い世代で執行部を回し、関西での七大学戦や、寝技錬成会時の応援と現役部員への激励会などの支援をさせていただいております。



全員で記念写真

二、状況

今年度は京都での七大学戦、学生の関西遠征などイベントが目白押しでした。どれも山本会長が陣頭指揮し、H26年卒尾崎君も新戦力として活躍したおかげでつづがなく執り行うことができました。

①七大学戦への支援として6/14、15の七大学戦に合わせ、前夜祭、慰労会、懇親ゴルフを企画。

②関西道友会の懇親も暑氣払い（9/20）、新年会（2/14）と忘れずにやっております。

③学生の関西遠征時、寝技研鑽会（9/4〜8）、寝技錬成会（3/14〜15）に激励会を実施。

④畠山氏便り

今年も元気に七帝柔道やっています。今年度は三月三日にハーバード大中村文彦准教授（東北大S63年卒）、横浜国大中村良夫教授が来訪しました。二人とも五十才を超えているにもかかわらず、見た目から若々しく驚きました。また、東北大



上右：中村（良）、中：畠山、左：中村（文）
下左：長谷部（H1年、東北大）
中：仁木先生
右：大森（H2年、東北大）

OB六名、九大OB五名、京大OB一名と二十年ぶりの戦友会（共に自大学の勝利のために切磋琢磨してきた仲間）となりました。合宿状態で、話が尽きず、夜中まで語り合っていました。

⑤関西七柔会への参画として、幹事会（8/27、12/10）、ゴルフコンペ（10/1）に参画しております。また、七大学戦に合わせOB懇親会（6/14）も関西七柔会主催で行われました。その際には元東海大柔道部監督、佐藤宣践先生に講演いただきました。東海大の復活（大学選手権七連覇）のキープは綺麗な立ち技にこだわらず、泥臭くて

も勝つことにこだわり、立ち技から寝技の移行時など他では練習していない所を強化したそうです。七大学戦にも参考になる話でした。

三、最後に

畠山氏の「あこう堂」では、寝技の講習、その後の宴会、希望者は宿泊、で過ごすことができます。酒を持ち寄り酌み交わし、寝技の技術の話、学生の頃の柔道の思い出、たまに仕事の話などなど。九大だけでなく他大学OBと柔道を通じてこんなに仲良くしているとは学生時代には思いもありませんでした。柔道の「旧友」、「仲間」、「戦友」に会うのはうれいですが、懐かしいです、楽しいです。もし柔道が続けていなかったらこの楽しみがないと考えると、ぞっとします。

現役学生のみなさん、練習ではしんどいこともあるでしょうが、やり遂げた後はかけがいのない宝物が手に入ります。それは目では見えませんが、確かにあると感じるものです。

以上



仁木先生と記念撮影



全員で宴会



調子が出たので近くの居酒屋へ突撃



遅れてきた長谷部氏と乾杯

四、会員消息（敬称略）

事務連絡事項

平成二十四年度の道友会会計報告（会誌第六十号一四九ページ参照下さい）の平成二十四年決算のその他の収入（二九四、一九八円）の内訳の記述に漏れがありました。昭和三十一年卒業地先輩の奥様から五万円寄付を頂いてる事の内容の記事が漏れていましたので、改めて、ご報告させて頂きます。

会員各位からのお便り

江口光幸（昭和二十八年）
八十八才の米寿を迎え、元気でやっています。朝は畑仕事、昼が読書の日課。これも若い頃柔道をやっていたお蔭です。

宮川長行（昭和二十九年）
いつもお世話になってます。元気でやっています。

香月清晴（昭和三十年）
七大戦のご健闘を祈っています。

福澤健一（昭和三十一年）
皆様のご健康・ご活躍をお祈りしております。

戸次淑人（昭和三十二年）
七大戦頑張ってください。

徳田惟道（昭和三十二年）
七大戦頑張ってください。

杵島誠一路（昭和三十三年）
七大学戦、皆様の健闘を祈る。

荒木盛一（昭和三十四年）
卒業五十六年、八十才になりましたが元気で。福岡県筑後地方の柔道協会顧問として、各種大会・昇段審査etcに顔を出しています。

岡林廣幸（昭和三十四年）
六月開催の七大戦で仙台に行く予定にしています。

岡本悟（昭和三十七年）
優勝される事を祈っています。

沢井宏（昭和三十九年）
効率的かつ効果的な練習をして仙台では印象に残る試合を見せて下さい。

辻村慶四郎（昭和四十年）
七帝戦頑張ってください！

熊谷恒一郎（昭和四十四年）
七大戦での健闘を祈ります。

田代俊治（昭和四十二年）
新入部員導入に心を込めて頑張ってください。

島津久孝（昭和四十二年）
現役の諸君、道友会の諸先輩方のご健勝を祈っております。

末岡淳男（昭和四十三年）
九大のやる気を見せてほしいな。

牧弘二（昭和四十四年）
七大戦での健闘を祈念しております。

藤原光明（昭和四十五年）
七大戦をめざし練習に頑張ってください。

小林清（昭和四十六年）
七帝戦頑張ってください。

大漣光好（昭和四十七年）
七帝戦まで二ヶ月足らず、ケガに気を付けて一日一日を大切にしてください。

羽田野節夫（昭和四十七年）
今年の七大学戦の必勝を祈念する。頑張るなさいよ！

高田誠一（昭和四十九年）
仙台での七大戦、応援に行く予定にしています。

井上英明（昭和五十一年）
仙台での健闘を祈念しています。

溝辺辰雄（昭和五十一年）
七大戦頑張ってください。新入部員が沢山入部するよう期待しています。

山本剛（昭和五十四年）
七大戦まであとわずか。頑張ってください。

山崎善也七（昭和五十五年）
大戦頑張ってください！

相島哲生（昭和五十七年）
お世話になっていきます。目標を持ってしっかり練習に励んで下さい。応援しております。

井手祐市郎（昭和五十八年）
いよいよ最後ですね。がんばれ。

内山幸彦（昭和五十九年）
皆様七大战に向けて頑張ってください。なかなか顔が出せず残念です。

秋枝秀幸（昭和六十年）
大変ですが現役生の皆様頑張ってください。

渡辺秀章（昭和六十一年）
新年度に入って部員が増えることを祈っています。

井久保丹（昭和六十三年）
季節も良くなり汗かいて練習に励んで下さい。

畠山治樹（昭和六十三年）
遠くから応援しています。強力な新人が入ったみたいですね。

千屋伸郎（平成元年）
仙台がんばってください。

境徹浩（平成二十年）
七帝戦頑張ってください。

前田耕平（平成二十年）
ふぁいと♥

池田義明（平成二十四年）
練習頑張ってください。

梶原あき（平成二十四年）
現役のみなさん、頑張ってください。

藤堂乃夫宏（平成二十四年）
DUMAUで会いましょう。

中尾亮太（平成二十五年）
就活等の助言は喜んで受けます。

尾崎大（平成二十六年）
まだまだ負けたくありません（現役に）
本番が近づいてきて不安も大きいと思いますが、地に足をつけて、取り組んでください。

鹿倉浩志郎（平成二十七年）
怪我することなく日々の練習に精進してください。

〈 訃 報 〉

平成二十七年五月までの先の方々の訃報に接しました。
ここに謹んでご報告申し上げますと共にご冥福をお祈りします。

豊島賢太郎様 昭和二十一年卒 平成二十五年五月十一日に永眠

木道義雄様 昭和三十二年卒 平成二十七年五月四日に永眠

大野耕示様 昭和三十四年卒 平成二十五年十二月に永眠

古川壮一様 平成八年卒 平成二十七年三月一日に永眠



2014.11.23 平成20年卒境さん結婚式

五、古川壯一君のご逝去を悼む

石川 和也 (平成8年卒)

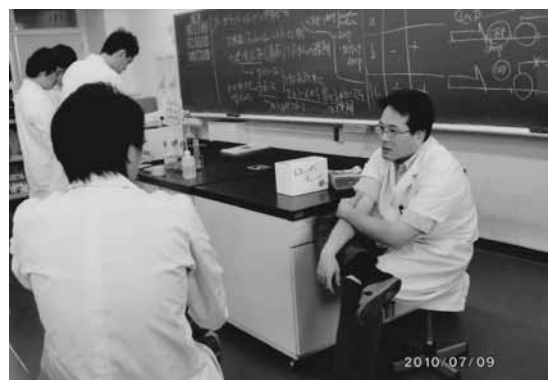
三月一日の夜、大学時代に古川と私の共通の友人だった藤井直樹さんから「信じられないかもしれないませんが、壮ちゃんが今朝、家で亡くなったようです。」というメールが届きました。びっくりして、すぐに直樹ちゃんに電話したところ、古川の奥さんから連絡があったということ、奥さんが私にも連絡を取ろうとしたが



平成8年卒柔道部同期 (4回生)
柔道部同期の集合写真です。1列目の中央が古川です。

ながらなかったことを聞き、体の震えが止まらなくなりました。まさかこんなに早く古川との別れが訪れるなんて、思いもありませんでした。

私が古川と出会ったのは、九州大学柔道部に入部した頃、お互い十八歳だった時です。それから数えると二十年あまり、人生の半分以上の期間の付き合いになりました。古川は柔道部の同期十人の中で最も強く、最もリーダーシップがありました。最上級生の時には、当然のごとく主将となり、柔道部を引っ張ってくれました。反対に私は柔道が弱く、怪我ばかりして、あまり柔道部には貢献できなかったのですが、なぜか古川とは柔道部員の中でも特に親しくなり、柔道以外の時間でも共に過ごすことが多くなりました。柔道部の練習は平日夜九時までであり、練習後に古川と連れだって定食屋へ夕食を食べに行き、空腹を満たしてから、古川が私のアパートへ遊びに来て、二人で話をして過ごすことが多かったのです。今思



日本大学1
日本大学での勤務風景。

えば、何を話していたのか、具体的には覚えてないのですが、政治のこととか、日本を良くするにはどうすれば良いとか、若いながらも、かなり真面目に議論をした記憶があります。古川は知識が豊富で、しゃべりもうまく、どちらかというと私が聞き役になることが多かったのですが、本当に楽しい時間でした。柔道の練習で疲れているのに、ときには夜明け近くまで二人で語り合うこともあり、大学生だからできる、ぜいたくな時間の過ごし方だったと思います。

九大柔道部を引退後も付き合いは続き、



日本大学2
日本大学の学生との交流。

大学院修士課程のときは、古川を誘って、二人でアルゼンチン、チリ、ブラジルを一ヶ月近く旅行しました。スペイン語もポルトガル語も話せないのに、今思えば無謀な旅行でした。案の定、失敗ばかりして、絵に描いたような珍道中でしたが、私にとつて、価値観を変える大切な旅行となりました。私は南米を一人旅できるほど強い人間ではなく、古川がついてきてくれたから、旅行できました。古川は勇気があり、ときに大胆な行動をするので、助けられました。古川にとつて、あの南米旅行はどうだったのでしょうか。

良い影響を受けたのでしょうか。古川は日本大学に入ってから、アメリカへ留学していたので、あの南米旅行の経験が人の役に立っていたらいいと思います。その後、古川は早苗さんと結婚し、私も結婚し、お互い家庭を持ちました。古川に湊名ちゃんという娘さんが生まれ、同じ年に私にも娘が生まれました。古川と直樹ちゃんと私の家族みんなで集まって泊まりがけで遊びました。柔道部の同期とは四年に一度、サッカーのワールドカップの年に集まるルールを決めて、昨年の夏にも同期全員が博多に集まって、



ご家族
娘さんの運動会の様子。

古川も一緒に夜遅くまで飲みました。私が出張で東京へ出るときは、古川を誘って飲みました。お互い年をとつても、会つたら若い頃の気持ちに戻り、語り合えます。日本大学で微生物の研究を頑張っている姿を見て、私も古川に負けずに地元の島根県で頑張ろうと今までやってきました。前向きで、優しく、熱い、かけがえない親友でした。これからもずっと、そういう関係が続くと思つていました。だからこそ、この度の訃報は信じられず、私の心の中に大きな穴が空いてしまいました。この世を去るにはあまりにも若すぎます。湊名ちゃんの成長も見届けたかったです。研究も続けたかったです。古川の気持ちを考えると、悔しく、残念でなりません。これからは、古川が私たちの心の中に生き続けていくことになりましたが、いつか私があの時へ旅立ったときは、二人で大好きなお酒を飲み交わし、大いに語り合いましょ。どうぞ安らかに眠りいただき、ご家族を見守って下さい。今まで本当にありがとうございました。

平成二十七年三月八日

六、柔道部卒業50周年を迎えて

昭和40年卒

「青春」という名の詩

萩田 伍



大学を卒業して、早いもので五十年になります。在学中の思い出は、柔道部での生活が、今でも一番強烈に思い出として残っております。

卒業後縁あって、アサヒビールに入社しました。当時のアサヒビールは、既に業績の低迷が始まっており、厳しい環境が続いていました。殆どが営業の仕事で

したので、何度か挫折をしたり、会社を辞めようと思ったこともありました。

そんな時に、思い出されるのが、柔道部での生活でした。あれだけ柔道を頑張ったんだから、何とか仕事も頑張ろうという思いでした。柔道部時代に養われた気概が、会社生活の上でも、本当に役に立ちました。そのお蔭で、何とか会社生活を全うすることができました。

今までにたくさんの人と出会いましたが、この年になってみますと、一番懐かしいのが、柔道部時代の仲間です。一緒に柔道をやったからという理由もありますが、それよりもあの時代を一緒に生きてきた、青春時代の同士だからだと思います。

この頃、アメリカの詩人・サムエル・ウルマンの、「青春」という名の詩を思い出します。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。(中略)、時には、二十才の青年よりも、六十才の人に青春がある。年を重ねるだけで人は老い

ない。理想を失うとき、初めて老いる。」と続きます。

今、ウルマンの詩が痛切に響きます。健康を保ちつつ、好奇心や探求心を失わずに、これからも日々、情熱を燃やして生きていきたいと思えます。



九大柔道部卒業五十周年を迎えて

木下 祐正

九大柔道部入部以来現在まで半世紀以上に亘って、人生のモットーとしてきた「継続は力なり」に関わる三つの分野での自己体験・信条・今後の計画につきご紹介させていただきます。ご覧下さい。

一、柔道修練の継続（九大柔道部、三菱名古屋柔道部、米国Olivettes市柔道場↓現在、自宅ジムで筋トレ）

・私は一九六一年（昭三十六）九大柔道部に入部し、毎日柔道練習に打ち込めるようになったことを大変嬉しく思いました（中学・高校時代に柔道に打ち込みたかったのに叶わなかった―中学には柔道部がなく、仕方なく相撲部に入り、高校は砂利道・ボロ自転車での通学に時間を要し、柔道と学業の両立が難しかった―中学・高校時代の柔道は、叔父が住職を務める浄土真宗寺院の道場での檀家青年達との週末夜の練習だけだった）

学部の間は懸命に練習に励み、福岡県大会・九州大会・七帝戦や、四年生夏には全日本学生大会にも出場させて頂き、その秋には参段に昇段できま

した。

修士時代も、錬心館道場が航空学科ビルの直ぐ近くにあったので、殆んど毎日現役の皆さんとの練習に励み、体力は益々増強しているとの感じが強く（入学時の六三kgから七八kgに増量）、柔道を力一杯修練できる企業に就職したいと願っていました。↓運が良過ぎて、願いを遙かに超える厳しい柔道環境の企業に就職しました。

・一九六七年（昭四十二）三菱重工に入社、名古屋航空機に配属され、航空機と自動車の両部門合同の三菱名古屋柔道部に早速入部した処、部員の顔ぶれを見て仰天！しました。東京オリピック候補選手だった前島延行（一九六三天理大卒・奥田師範と同窓同級）&山本彰一（一九六三中大卒）の両スーパースターを始め、金鷲旗大会で活躍した久留米商高卒の野口幸男・大塚義夫等の有名選手がキラ星のようにおり、大学・高校からスカウトされた多くの部員がひしめいてレギュラーの座を競い合っていました。私が入部した一九六七年、三菱名古屋は全日本実業団大会で優勝し、前島先輩は世界選手権重量級代表に選ばれる等、

隆盛を極めていました。

・私はそのような環境の中で、背負投・足技等で崩して寝技に引き込もうと試みるも、その前に私の身体は宙を舞い畳に叩きつけられていました。毎日毎日ボロ雑巾のように投げられ、すっかり意気消沈して、今日辞めようか明日辞めようかと何回も思いましたが、途中挫折は何とも悔しく情けないと思いき、私なりに必死に努力して（八二kgに増量、九大時代よりも遙かに強くなり、二十八歳時に四段に昇段）、米国Texas州に在った米国三菱航空機という小型ビジネス航空機・MU-2/MU-300を組立・販売する子会社の販売部門に外向するまで何とか持ちこたえて、途中挫折せずに無事退部することができました。

三菱名古屋柔道部で途中挫折していたら、柔道とは完全に縁を切り、道友会を含め柔道関係者とは一切付き合わないようになり、私の人生は面白くない方向に大きく変わってしまったと思います。

・上記米国三菱航空機に外向して、家族と共に在住したTexas州の大都市Dallas市や、Vince Tamuraさんや日

系三世・五十歳位の柔道家経営の道場：Tamura Judo Institute に入門、柔道修練を続けました。

夜間部の門人の大半は一九〇cm / 一〇〇kg級の大男揃いのDallas市警察官で、彼等の体格・怪力に抗しての練習が終ると私は体力を使い果してへとへとになっていました。練習が終ると7-8分間「Tamura先生が「柔道の精神／柔道マンの心構え」等を分り易い事例で説明され、「Continued Effort（努力の継続）」の重要性を強調されたことを今でも覚えています。「先生は五年前逝去されましたが、米国柔道界の偉大なパイオニアの一人です（一九五六年第一回世界選手権に米国代表で出場、準決勝でヘーシントクと対戦・四位入賞「You Tube」で観戦できます）」、一九六四年東京オリンピックでは審判を務められました」

・柔道は私に努力の継続の大事さを教え、頑健な身体と公私に亘る最大の人脈を与えてくれ、大変感謝しています。

・柔道修練は、上記Tamura道場での軽いひざ負傷を機に一九七九年・三十七歳で止めましたが、身体鍛錬はずっと続けて、十年前自宅に五種類の設備・

器具を備えたジムを設置、毎夕方八十分の筋トレに励んでいます。

二、仕事「航空機ビジネス」の継続（設計・五十六年、営業・事業管理・四十年以上）

・航空機市場とは、表面上は、科学技術の最先端を走っている、そしてその裾野はとてつもなく広い、夢のような市場として、TVや新聞等で華々しく報道されがちですが、私の半世紀近くに亘る航空機商売の経験に基づく、実際の航空機商売の裏側には、飢えた虎や狼がうようよおり、魑魅魍魎も大勢棲んでいる、非常に危険な弱肉強食のジャングルです。一方、ジャングルには、美味しい獲物や果物も沢山あり、将来大きく伸びる可能性が高い魅力的な市場でもあります。三菱重工の後輩達が旅客機MRJの開発に苦闘していますが、早く日米航空監督当局の型式証明を取得して量産フェーズに進み、航空機ジャングルで世界の敵と本格的に渡り合い、注意深く・賢く・したたかにジャングル戦を生き抜き、将来大きく育って行くことを期待し、願っています。

・私は上記テキサス州子会社で小型ビジネス機M20のセールスエンジニアを務めていた時に、セールスインストラクターから「セールスの極意は「V SOP」である。「V SOP」を兼ね備えれば鬼に金棒のスーパーセールスマンになれる」と教えられ、高級ブランドV SOPと同じ綴りの四文字英熟語「V SOP」を兼ね備えた理想の営業マンを、私が一歩でも近付きたい目標としてみました。

V=Vitality（情熱・気力・体力に溢れたバイタリテイ）、S=Specialty（この分野では誰にも負けないぞという専門性）、O=Originality（人まねでない獨創性）およびP=Personality（顧客に好かれ信頼・尊敬される魅力的な人柄）です。

・本新年明けに旧知知人（航空機エンジニアリング企業創業者／会長）より、マレーシア政府の資本が入った同国エンジニアリング企業と提携・共同して、航空機技術解析作業を我が国航空機メーカーより請け負う新事業の立ち上げを手伝って欲しいと要請され、二月一日会長付として入社、拙宅から名古屋市港区事務所（眼下に昔修練した三菱名古屋柔道場が見えます）まで片道五〇kmを毎日車で通勤しています（伊

勢湾岸高速道のお蔭で六十分のドライブです。

十七時過ぎには退社、従来通り、拙宅ジムで約八十分（一八時四〇分〜二〇時）筋トレに励んで、体調を維持しています。

現下の新事業を成功させるべく、VSO P”をモットーに人生最後の仕事に頑張る所存です。

三、ライフワークの継続（ケネディ大統領

「JFK」暗殺／米国マフィア／ベトナム戦争の研究）

・ JFK暗殺／米国マフィア／ベトナム戦争の研究が、私の四十年に亘るライフワークである所以は下記の通りです。

・ 少数の日本人が、米国で、多くの米国人を使って、小型ビジネス機を組立て米国市場を中心に世界に販売するという事業では、三菱重工は新参者／後発メーカーなので、強大な販売網を有する老舗大手の米国メーカーを相手に悪戦苦闘しました。販売の第一線で苦闘する私には、米国マフィア&ベトナム戦争は研究すべき歴史・教科書となりました。

「米国マフィア」——海外ビジネスの成功

例——一九七三年映画「ゴッドファーザー」のように、無教育で、英語もろくに話せない、貧しいイタリア移民が、GM/GE等超大企業を上回る大成功を収め、基盤を構築し繁栄を維持。

「ベトナム戦争」——海外ビジネスの失敗例——米国は、厳しい気候・地形のベトナムで、南ベトナム人を背後から支援／監督して、ベトコン／北ベトナムと戦わせようとしたが上手く行かず、仕方なく五十五万人もの大軍を送り自ら戦ったが失敗した。「本年四月三十日は一九七五年四月三十日サイゴン陥落&南ベトナム無条件降伏の四十周年」

「JFK暗殺」——DC州に計十二年、

その中DC州に八年在住して、JFK暗殺地理に精通。JFK暗殺には米国マフィア&ベトナム戦争が深く絡み、その知識なしにはJFK暗殺を理解できない（先に米国マフィア&ベトナム戦争を勉強していたのは運が良かった）。一九六三年十一月二十二日暗殺から五十年以上経ったが、米国政府（国務省／国防総省／CIA／FBI等）保有の暗殺未公開機密資料の全面公開は法律により暗殺七十五年後の二〇三九年であり、学者／新聞記者等

が公開資料を解析し、真相報告書が作成・出版されるのが二〇四〇年（私は九十八歳！）——「どんな組織がどんな謀略を仕組み、どんな男達がどのようにな隠蔽を行い、それらの謀略&隠蔽の目的は何だったのか？」につきどの程度真相が分るか？——私はそれまで何とか生きて、真相報告書を熟読し、米国の著者とテレビ国際電話で質疑応答し、ああそうだったのか！と納得してにっこり笑い、その瞬間に脳卒中か心筋梗塞が起こって、人生におさらばしたいと願っています。

・ 言わば上記目的のために、筋トレに励み、外国との航空機商売を続けて英語力維持に努めているものです。

卒業後五十年、今思い出すこと・思うこと

辻村 慶四郎

卒業五十周年、半世紀になる。九大道友会誌への寄稿は、新入生の抱負（一九六一・第九号）・卒業四十年（二〇〇五・第五十二号）・特集・戦後最長の試合（二〇〇九・第五十六号）・安部弘幸君を偲んで（二〇一〇・第五十七号）以来で今度が五度目となる。

昔なら「人生五十年」これは生まれてからである。私事後期高齢者の一歩手前であるが、私自身は癌との闘いもあり、終活に入っている。今までに書かなかった柔道部部活の思い出など書いてみることにする。

昭和三十六年入学して間もなくで入部した。生産機械科から仲里君・今は亡き有吉君・福山君を誘った。講義が一緒の機械科の吉田君・山崎君・久留君も引った。新人の部員数は約三十人はいた。理系部員は講義（取得単位）数が多く、練習時間のタイミングが良かったが、文系部員は早めの下校で有段者も含めて遠のいて行つた。なかで経済学部諸氏の多くが卒業まで続いたのは大村十郎さん（教養部&本学主将）のまとめが良かったんだと思う。思い出すのは游就館道場の部室白壁に「柔肌の熱き血潮に触れもせで悲しからずや道を説くきみ」との落書きがあったこと、亭々舎の歓迎会で勇んで一気飲みし便所で吐いて又飲んだこと、春の合宿での食事当番の買い出し・料理したことなどである。

教養部時代はクラブ活動各部ともダンスパーティーをやっていたが、踊れもしないのに空手部のパーティー券を義理買

いしてソファアに座り通しだったことも思い出す。

私自身は遠征費を稼ぐために、神戸の長兄宅の世話になり神戸港で仲仕のアルバイト（日給千円）、工学部必須の社外実習で最高給であった自動車会社を選択し機械の一部になったの部品加工の流れ作業も体験した。

七帝戦については、一年次は九大地元開催：直前合宿で三角布で腕を吊った黒田キャプテンの『起床！ファイト！』の号令、初戦は勝って再度の東大に代表戦で負けた時の練心館道場部室で流した先輩たちの悔し涙を思い出す。不評を駆つたが有馬先輩と引き分けた東大の吉村君は私のふたいに当たり試合後松尾さん（S38東大主将）・渡邊さんと三人で唐津に遊びに来てくれた。

二年次は北海道遠征：決勝（宿敵東大戦）を辻村が敗けての敗退、悔しさと申し訳なきで涙した。ほか東京乗換え一昼夜かかった汽車の旅（片側四人座席の中での寝床づくりなど）、青函連絡船の船底客室（若い女性グループと一緒に来た）、試合後の旅行も思い出深い。

三年次は浜地先輩を監督に迎えての京都開催：九年ぶりの優勝となった。有馬

キャプテン一度も戦わずしての優勝である。東北大学との一回戦、闘将の水沼君（一人抜き三人目）と引き分けて浜地先輩にえらく褒められたことを思い出す。一年先輩に適任者なしとのことで主務も兼ねての参加であったが、涙はなかった。優勝を目指して一緒に練習指導をしてもらった中山先輩・福井先輩方共々の積年努力の結実であり優勝の美酒を味わえたことを諸先輩方々に感謝申し上げます。

四年次は国立七大学総合体育大会（第一回目）に合わせて柔道も連続の京都開催：会誌第五十六号に掲載の四時間を超える「戦後最長の試合」を戦つての北大と両校優勝、七帝戦史上初の連続優勝となった。この年も九州大会第二位で全日本学生柔道優勝大会に出場したが、同期の安部弘幸君は予選リーグ拓大戦でも一人勝利した。そして七帝戦準決勝名大戦では代表戦勝利、決勝でも三回の代表戦を戦うという大奮闘であった。感謝々々の安部弘幸君は三年前に食道がんとの二年間にわたる壮絶な闘いを終えて亡くなった。葬儀には北大七人目の代表戦を戦つた三宅肇君も参列してくれた。この時同じ釜の飯を食つた年代（昭和三十八年卒〜四十三年卒）六人の主将ほか十四

人が勢揃いしたのは当時の一致団結・学年を超えたまとまりの良さの表れではないかと思う。

その他部活の思い出は、取り役分け役わかれての六分間練習の繰り返し、寝業では攻めー防ぎの練習のほか完全に押え込み決まっつてからの逃げー押さえの練習、久永師範の教本の研究などである。私の役目は分け役であり、七帝戦の戦績は一敗八引き分けである。練習のほかは合宿所での囲碁・花札、緑川先輩のギターの音楽も良き思い出である。

岡本先輩↓山口先輩からのマネージャー引き継ぎで北九州地区の先輩方々に道友会会費のお願いに回ったこと、岩崎茂成・竹村茂昭特別会員の訪問とお話も印象深い。平田先輩↓山下先輩↓西田先輩↓大庭君・山崎君と続いた道友会会誌担当業務のことも思い出す。

七大学柔道部OB会では七柔会が組織されているが、関東地区は総会の他・ゴルフ囲碁など毎年の行事が行われている。平成二十四年の総会では講演をお願いした講師・山下泰裕氏に、菊池君（S47卒）のラオスでの奮闘ぶりと「ラオスの柔チャン」の記事ほかを届けたが、九大出席者との記念写真をお願いしたら快く受

昭和37年春の合宿（亭々舎）



日野先輩／林田先輩・山下先輩・沢井先輩
同期が萩田・木下・吉田／山崎・桑野・大村主将

けていただいた。これが六大学にも波及し翌年大阪での七大学戦観戦につながったのである。七大学関東四十年組でも二回の懇親会を各大学持ち回り幹事（九大は辻村が幹事）で開催しており今年の新年会が二十九回目であった。メンバーは多士済々であるが卒業後五十年の今は六人が亡くなっている。

以上私の柔道部生活を総括したつもりであるが、同期の皆さんには思い出を共有してもらえたら、また現役の皆さんには興味があれば五十年前の状況として些かでも参考になれば幸甚に思う。

第18回関東七柔会総会（平成24年11月8日）



山下泰裕さんを囲んで
（九大道友会関東地区出席メンバー）

昭和37年七帝戦の北海道遠征壮行



木村会長・久永師範他 OB 先輩方の見送り
対する沢井先輩・日野主将・山口先輩（選手兼主務）

四国遍路の体験記

萩谷 誠美

平成十八年一月に家内に先立たれてしばらく気持ちに空白状態が続いていたが、その年の秋にたまたまNHKの土曜ドラマ「ウォーカーズ」を見た時から四国のお遍路に興味を持った。

それでもまだぐずぐずしていたら、会社の後輩のH氏が退職を機会にお遍路をしようというメッセージがあり、これに触発されて四月二十八日からまず徳島県を試しに一日かけてまわり、次いで五月二十四日から二十二日間で高知県と愛媛県松山市内の五十三番札所円明寺まで行き、更に残りの三十五寺は九月になって参拝し、計八十八か所すべてを延四十六日かけて歩き終えた。

四国一周約一二〇〇kmこれに弘法大師所縁の地や別格本山十五寺を含めて約一四〇〇kmを歩きで「通し打ち」すると平均四十五日前後かかるそうだが、歩いて回るのが原則である以上は、事前の準備としてまず体力の維持向上。最低七〜八kgの荷物を背負い、一日十時間、時には七〇メートルを越える山坂を上り下りするので、生半可の事では歩き通せない。

次に二ヶ月近い暇な時間の確保。仕事や子育てに多忙な青年期、壮年期ではなかなか難しいが、区切り打ちなら若い人も結構できる。しかし現実には六十歳代の人が歩き遍路の半分を占めているそうである。

そして資金も宿泊費用を中心に五〇万円くらい必要となる。遍路宿なら一泊二食で六〇〇円程度。宿坊やホテルでは二〇〇〇円程度高い。その他費用はたいした額ではないが遍路笠や法衣、金剛杖など必需品は大きな札所ならどこでも販売しており、近年は通販でも入手可能だ。ただし靴だけは足にフィットする高級なものが良い。

さらに少なくとも各札所の本堂に一枚「般若心経」の写経を取めるのが原則だからこれの準備がまた大変だ。一枚書き上げるのに慣れた人で一時間、初心者に近い人なら二時間くらいかかる。(一般的には納経札を納めることで代替している)

もう一つ、長期の旅だから行き当たりばったりと言うわけにもいかず、事前におおよその遍路計画を建てておく必要がある。インターネットや関係書籍の入手、先達者の話などを聞きながら詰めていくのだが、区切り打ちならまだしも

八十八ヶ所を通し打ちするとなるとこの仕事も小手先では行かない。

以上は歩き遍路の場合だが、車を利用したり遍路ツアーに参加して札所での御経以外は全く人任せの観光に近い遍路が全三十万人中の九十九%。残り一%の三千人〜五千人が歩き遍路と推測されている。

こうした準備が一応完了していざ出発となる。八十八の各寺ではお参りの共通ルールとして本堂とその脇にある大師堂で灯明や線香を上げ、更に「般若心経」などの御経を唱え、終わると納経所で帳面や法衣、掛け軸などに札所の名前と立派なご朱印を捺してもらおうのが一連の流れである。納経所が朝七時から夕方五時までなので遍路もそれにあわせた行動をとることに、民宿や宿坊などもこれに準じた受け入れ態勢を取っている。

実際行ってみると予想外の事が次々と起きる。まず遍路用の地図を見ているにも拘らず道に迷うことがしばしばあり、これが結構負担になる。

国道を歩く時は、足元は平坦だが車が勢いよく横を走りぬけるので怖いし、トンネルの中では轟音が耳を劈くのでなおさらだ。遍路専用道は山道や狭い道が

多いので歩きにくく足の筋肉の痛みがひろがり易い。蛇やミミズなどにもちよくちよくお目にかかる。雨が降ると崩れて通れない危険な山道も頻繁に通る。

反面、緑は多いし空気は綺麗だし、鶯やかツコウなど美しい鳥の囀りも間近に聞けるなどのメリットもある。

一番の苦痛はなんといっても暑さ。気温が三〇度を越えると道路上は照り返しで日蔭に比べ五度以上も高いので汗が滝のごとく出る。

次に山の登り坂。体験的に言うると登りの角度が五度以下ならたいした負担にはならないが、十度を超えるとかなりきつい。十五度以上になると黙ってうつむいて、ゆっくりただひたすら上に向って歩み続けると言う感じだ。

大風もつらい。室戸岬では急に天候が変わり二時間程度暴風雨に見舞われた。雨より風の方がつらいが、ずぶ濡れになりながらもひたすら歩き続けるしかない。(真冬だとまた違う印象を持つかも知れないが……)

高知県では一日平均三二〜三三km歩いた。最高は足摺岬一周の四〇km。

さすがに足が棒になったが、翌日も山道を含む三〇kmを歩き通せたのは不思議

な感じがする。

そんな状況だから、食事は日頃の二倍、飲み物は三倍くらい摂取し、睡眠は八時間以上とっていたが、体重はなんと二kgほどやせてベルトの穴が一個足りなくなった。これこそ理想のダイエットだ。

以上は遍路の一般常識と、とりあえずの印象だが、次は八十八箇所を結願した私なりの感想を少し詳しく書いてみよう。

徳島県の一番札所霊山寺(りょうせんじ)から遍路をスタートし、第三回目の九月十八日に最後の八十八箇所大窪寺を参拝し延四十六日目で結願した。

その後一番札所と高野山奥の院へ報告参拝し全ての遍路旅を終わった。三回の区切り打ちのため半年を要したが、振り返って六十五歳の年齢でよく一四〇〇kmも歩き通せたものだ感慨深い。

この四国遍路道を概観すると同地方の中央を東西に走る山脈があり、東側に高い山々が密集し厳しい遍路道を形成している。なかでも徳島県内の十一番藤井寺から十二番焼山寺をたどる、途中七〇〇mの山を二回越えるルートは最大の難関で、初心者か腰砕けになるのは三日目のこの場所である。その四〜五日後に至る各五〇〇mの山頂にある鶴林寺と大竜寺

を一日で超えるルートもかなり厳しい。

八十八箇所最高九〇〇mの山の頂上にある雲辺寺も下りがきつい。

結願の八十八番大窪寺への途中にある七七〇mの女体山の断崖絶壁を五〇m以上登る遍路道は、足腰がしつかりしていないと攻略は難しい。

愛媛県には四国一の石槌山があるが、八十八箇所には組み込まれていない。

しかしその中腹近くにある七〇〇mの横峰寺や久万高原の岩屋寺、大宝寺なども難関の一つに入るだろう。こうした山道は登山の好きな人にとっては何でもいいが、そうでない人には非常に厳しい試練である。

一方高知県や愛媛県の瀬戸内方面は平地が多く寺数も少ないので、歩くことに専念する。朝七時から夕方五時までを目途に二時間くらいの休憩を挟みながら、少なくとも一日三〇km、多い時は四〇kmも歩く。

毎日晴天ばかりではない。大雨、大風あるいはこの年のように猛暑の時でも休むことなくひたすら歩き続ける。二〜三日に一度は自前で洗濯も欠かせない。

各お寺はしばしば、本堂到着までにわざと厳しい障害を越えて行くように設定

されている。山門に到着してから更にきつい階段を何百段も上ったり、頂上にある山寺への道を登るのに、途中わざと下がつてまた登るとか様々だが、こうした苦勞を乗り越えて目的の寺に到着した時の喜びは何者にも代えがたいものがある。

そこに湧き出ている水の美味しさはまた格別だが、もし車で来た場合は普通の水となんら変わり無くガツカリすることだろう。お遍路の間に体の悪い部分が良いとなるといわれるが、これだけ厳しい訓練を続ければ、新陳代謝がよくなり悪い部分が体の外に自然と洗い流される感じで、結果的に健康を取り戻すことになる。更に溜まったストレスも解消されて心身ともに健康になるのは本当だと思う。詰まり人間の持つ自然治癒力を、厳しいルートでの克服が手助けするようになっていけるだろう。

ここで忘れてならないのは「お接待」と言う風習が四国の皆さんの間に定着している事である。遍路の途中で食事や飲み物を始め休憩所の提供など心からの接待に、どれほど心身の休まる思いをしたことか。これは接待する人が自分の身代わりに、お参りする遍路に自らの願い事を託す御礼と言う意味があるように受

ける事が原則であり、返礼には自分の住所氏名と遍路の目的を記した納経札を渡すことになっている。

現状では毎年三〇万人の人がお遍路に來ているそうだが、その動機は大きく分けて

1. 身内に亡くなった人が出てその菩提を供養する。
2. 自身の死後の極楽浄土での冥福を祈願する。
3. 人生の転機に立つて過去の反省と今後の展望を考える。

この三点に集約されるそうだが、歩き遍路には1. と3. が断然多く、2. は車によるお楽しみ遍路が中心で、百回以上回っている人も結構おられるようだが、歩いて百回を越える遍路には残念ながらまだお目にかかっていない。(遍路一〜四回は白色、その上は緑、赤、銀、五〇回以上は金となり、百回以上は錦色の納経札を使用する)

私の動機は当然1. だが、動機だけで一四〇〇キロを歩き通せるものではない。その大変さをゴルフに例えると、四十五日間継続して(私の場合三回に分けたが)、毎日コースを変え、一日二ラウンド、セルフでバッグを担ぎ、メンバーに

気を使いながらも、常にベストスコアを目指す。コースや宿泊の予約、移動、洗濯など全て自分でしかも自費で、達成しても何の報酬もない。そのようなゴルフに挑戦すること考えればいだろう。

常識的にはこんな事を考えるゴルフマニアはいないだろうが、もしあらゆる条件が揃ってゴルフ技術の向上を目指し完全達成したら、技術の飛躍的な向上は勿論、人生観も変わってくるのではないかと思う。

四国八十八箇所歩き遍路を終わって、この年齢ですごい事をやったなという満足感はある。では私自身何が変わったかと問われると、明確な答えはないが、体力が回復し精神的にもゆとりのある生活を送れるようになった事かな。それは亡き妻が後押ししてくれたと思えないと今でも感謝している。

「妻連れて鈴の音さみし遍路道」

以上

七、柔道部卒業四十周年を迎えて

昭和50年卒

卒業四十周年

小宗 静 男

医学部を卒業してから四十周年で今年の三月三十一日をもって九大教授を退官し同時に柔道部部長も退任させていただくことになった。柔道部部長としての挨拶は別の項で述べさせていたのだが、医学部在席であったため実は今年が九大柔道部も卒業四十周年である。部員としても部長としてもたいした実績を残せなかつたが、弱いながらも九大柔道部で六年間を全うし、その後も道友会の一員としていろんな道友会の方々、また現役部員と交流できたことはどれほど私の人生に役立ったことか口では表せないが、心より感謝の気持ちで一杯である。

柔道部に入つたのは一九六九年である。この年は確か入学して一ヶ月で大学封鎖となり、自然と柔道部とも疎遠になった。殆どやめかけていたときに偶然下宿の近くで羽田野先輩（現道友会会長）と会い、再び柔道を続けることになった。やるからには最後まで続ける決意は固いものが

あつたが、自分の努力不足でチームに貢献できるようなレベルに行けなかつたことは今も苦しい思い出として残り深く後悔している。我々の時には当初三十七人の希望者があつたが結局最後まで残つたのは七人であつた。その代わりお互いの連帯感強いものがありかけがえのない友となることができたのは何にも代え難い



大きな財産である。七人のうち私を含め四人は白帯からはじめたものである。練習の機会が多いのは当然上下の二年でこれらの学年とも今も交流が深い。私自身は六年間練習したので私の下五年目まで一緒に練習したことになる多くの知己を得ることができた。

入部当初は教養部の遊就館で練習していたが、土曜日には本学からの先輩が来る。ある日白帯の三人で控室にいたところ、内海先輩はじめ、三、四人が学生服を着て練習に来られたが、一目見て恐ろしくなり、隙を見て三人で窓から逃げ出したことを今でも懐かしく思い出す。それほどその頃の先輩の威厳は大きかつたのであろう。逃げた三人の内一人はそのまま退部してしまつた。試合での想い出は大阪での七大戦である。準決勝で東大と延長戦になつた。東大には当時鳴り物入りで入部した三本松という全国レベルの選手がいた。延長戦にもつれ込み九大は植本主将、次期主将の有岡の二名が、東大は三本松が一人で出場し、それこそ竜虎相打つ白熱した試合を展開した。延長三試合を行つたが決着がつかず、くじ引きとなり、勝利の女神は無情にも九大にほぼえんではくれなかつた。この試



合は今でも七大戦史にのこる名勝負としていまも語り継がれている。この試合で植本、有岡の名前はあまねく知れ渡ることと成った。

練習での思い出は合宿である。当時は一週間の合宿を年間五〜六回行っていたがきつい思い出しか残っていない。ただ、最後の打ち上げの前日はあと一日といううれしさと最終日の練習が終わって下宿で酒を飲み徹マンをすることが無上の喜びであった。

卒業後は皆日本国中に就職したが、い



まだ働いているものもいるが、すでに隠居生活を送っているものも少なくないようである。いまでは七大戦で当時の諸君と会えるのが楽しみの一つと成った。卒業以来一度も再会していない友もいる。時々会うと皆老けてしまったが、会ってしばらくすると皆昔のままの柔道部員に戻ってしまっていることがたまらなく嬉しいことである。まさに光陰矢のごとしである。最近は何を重ねることはとても素晴らしいと思うようになった。肉体の力は衰えても、人間としての様々な感



性は毎日の努力で益々研ぎ澄まされ、人格の鍛錬は死ぬまで続けることができる。もっとうれしいことは人に対して思いやりの心が日に日に培われてゆくことである。それがとても嬉しい今日この頃である。
以上

八、柔道部卒業三十周年を迎えて

昭和60年卒

同期紹介

古賀 亮 至

ハウステンボスの帰り、本山利明を職場に訪ねた。「コーヒー飲む？」と誘われ、自販機コーナーへ。「公務員は金がないとさ」とベンチで話し「何飲む？」と立ち上がったので、俺が、と自販機に飛びつくと「そう？ ありがとう」。財布も出さずにほほ笑む本山だった。現役の時、心理戦に強かったのを思い出した。

三十年たっても変わらないこんな同期たちを紹介しよう。

内山明彦で覚えているのは、地元で開催した七帝戦のオーダー会議。「行けるか」と羽田野節夫さんから初出場の意思を問われると、私の顔をじっと見た。自分で答えろ、と私はそっぽを向いたものだ。心が甘けりや顔も甘い。結婚前だったが「元氣ですか。これで結構もてます」と泣く子も怒るはがきを送ってきた。有富稔之はベンチプレス一〇〇キロのパワー柔道に似合わず、ガラスのハート。有富と囲碁で対局した私の父が「繊細

な碁を打つ」と評したが、私は気にも留めずに言いたいことを言った。結婚披露宴には私だけ呼ばれず、派手に祝う演し物のシナリオはボツに。

玉置誠司も取り扱い注意だが、こちらは爆発物のほう。七帝戦レセプションのビール納入業者に「暴利だ」と怒鳴って負けさせた、頼りになりすぎる主務だった。相手をついで横走りに場外へ消えるカニ背負い（投げない）、怪鳥音と共にひっくり返す奇声返し——。方向はともかく思いは熱い。最近、五段に昇段。

どこまで驚かすのか。

近藤隆俊は考える男。入学時の寝技嫌いが研究に次ぐ研究で寝技師に。ロープを二回登るトレーニングで「一回で済ませうで」と片手に一本ずつ、二本同時に登り始めてあえなくやり直すなど、合理性を追求する余り非合理に陥る愛嬌もある。ベトナムの現地法人社長なので会いに行った。立ってよし寝てよし、仕事で座ってよしの柔道マンになった。

秋枝秀幸の切れの悪さ、いや、優しさを

には救われた。合宿の長風呂に付き合ってくれて話し合った。秋枝から卒業との両立が難しいと退部を言ってきた時ほど味わった喪失感はない。優しいからとどまったけど。夫婦で嫁姑問題を私の母に相談するまでの家族ぐるみの付き合いだ。私がやっている新聞記者は人を知るのが仕事。取材していて、この人はこうやって生きている、というのが見えてくる。同期七人でドツタンバツタンやっていた柔道部生活が人の見方の物差しを与えてくれた。

以上



2015年1月ミャンマーにて（古賀）

道友会誌周年記事

近藤 隆 俊

いい機会なので、ベトナム／ホーチミン市の柔術事情について報告させていただきます。二〇〇五年八月に赴任して今年で十年になります。三年前、家族は先に日本へ帰国、「単身赴任」となり持て余す夜の時間を「有効」に使うべく「柔術」の練習を開始しました。

現在、市内に柔術ジムは四か所あります。私はそのうちの二ジムへ所属しております。外国人主体の Saigon Jiu-Jitsu (SJJ) とベトナム人主体の Kimura BJJ Saigon (KBJJ) です。SJJ は主に NO 着(道着なし)で KBJJ は着あり(道着着用)です。(両方とも Facebook で検索できます。)日本人は十名程度 SJJ に所属しています。いまのところ「七帝」出身者は私だけです。旅行で一か月滞在中、練習にきたという西洋人がたくさんいます。アメリカ、イギリス、フランス、カナダ、ロシア、ウクライナ、イタリア、ブラジルの人と練習しました。三十年前、我々の柔道は「特殊な柔道」でしたが、こんなに多くの外国人と「柔術コミュニケーション」ができるとは思いませんでした。

「Jiu-Jitsu」の大会は、バンコク、台北、シンガポールで毎年行われています。ホーチミンでは行われておりませんが、昨年「柔術ブリスト」の橋本欽也氏と世界チャンピオンのエジソン籠原氏が我々のジムへやってきました。その時の様子は YOUTUBE にあります。彼らの力をかり、早急にベトナムで柔術の大会を開こうということになりました。

「七帝柔道記」／増田俊也著の影響で、こう呼ばせてもらいますが、「七帝柔道」と「柔術」にはいくつか相違点があります。練習当初は簡単に「足関節」を決められてしまいました。また「守り」が基本の「七帝柔道」へ対し「柔術」はポイント制なので基本「攻め」です。柔道出身者は「亀」になって守ろうとするので簡単にポイントを取られてしまいます。

「柔術」をやって一番強く感じたことは、「技の進化」です。三十年前「高専柔道の神髄」を毎晩研究していたのが非常に懐かしく思えますが、当時七帝大学柔道部でのみ研究され秘密とされていた寝技がいまでは世界中の柔術家によって、最新の IT を駆使し日々開発・改良され、瞬時に Web で発表されています。我々が長時間の練習で「体得」してきた「技」

が簡単・明快に「解説」「攻略」されています。選手はさらにその先を行かないと試合では勝てません。三十年前も大変でしたが、現部員はさらに厳しい環境にあると言えます。「七帝柔道」にとらわれず、世界へ目を向けて練習に取り組んでもらいたいと思います。どんどん「柔術チーム」とも練習をしてください。

私もすでに五十歳を超え、フルに練習することはできませんが、それでも「日本代表」として海外の柔術家と戦ってみたいと思います。

以上



ベトナムの柔術クラブ (近藤最後段右端)

卒業三十周年を迎えて 「夢の途中」

玉置 誠司

一 現役の頃の思い出

九大の貝塚体育館で第三十三回（昭和五十九年）七大戦を主管して早くも三十年が経つ。入部当初、練習後先輩から角打ちに連れて行かれ、ツマミ欲しさにビールを飲みすぎる毎日であった。稽古では、大して恵まれていない体格（七十kg）で自分の強みを出せる技になることだけを考え、バイタル柔道（寝技編）でイメージしながら練習していた。「最終の段階に至るまでにどのようなプロセスを作っていくか」は仕事の段取りに通じるものであった。OBの先輩から「体格差が歴然とした相手に対抗するのに力だけでは難しい。考えて自分にあつた柔道をしろ」と下級生のころから言われ続けた。皆、それぞれ「考えている」とは思う。考えない人間などいない。しかし、他人より優れたものを生み出すのであれば、ただ「考える」より踏み込んで「考え抜く」ことが大事だと思う。これは社会人なつても同じだと思う。社会人は妥協せず「考え抜く」ことの積み重ねの道であると考ええる。

そこで達した結論は、「脚は腕より格段

に強い」ということだ。上級生になったころ、他人があまりやらない前・後三角絞、脚を効かせ下からもぐりこむ返し技、絞めからの崩れ上四方固めなど、腕より強い脚を活かした寝技に非常に魅力を感じて稽古に励んだ。また、主将の古賀の発案で、当時七大戦を連覇していた京大が腕立て・腹筋・スクワットを日にそれぞれ千回やると聞き、気持ちで負けてはならぬと九大も部員全員で腕立て・腹筋・スクワットを日に千回やった。やってみると意外に習慣になり、千回なんて大したことではないと思うことができた。つまり、「心理的な壁は自分が作っている」ということであり、その壁は、自分の創意工夫や努力で打ちこわすことができる。もちろん負けることもあるだろう。しかし、気持ちで負けていては、勝てる試合も勝てない。

合宿で思い出すのは、朝の練習、午前・午後の稽古であまり替えをもっていない柔道着は乾く暇もなく、お互いニユルニユルしていた感触である。そして、四年生で迎えた九大での七大戦の合宿の最後の日の朝のトレーニンング後、管崎宮でお参りし、同期、そして部員全員で写真撮った。今、写真で見ると皆、最

後の合宿を終え、何かしら充実したような満足感を持っているように見える。



七帝戦前最後の朝練習 昭和60年卒メンバーにて
(左から 有富、近藤、本山、中川先輩、古賀、秋枝、玉置、内山)

ところで、昔、七大戦の終了後には、現役の七大学柔道部員による懇親会があつたらしい。しかし、昭和五十八年の北海道大会の時には、残念ながら何らかの理由で途絶えていた。試合は真剣に取り組むだけに、それが終わった時に対戦相手やチームに一言言いたい、交流したい、同じ七大戦を戦うものとして本音を聞きたい。その主旨を各大学に伝えたら、喜んで賛同してくれた。それが、昭和

五十九年の福岡大会からの七大学柔道部員の懇親会であり、幸いにこの懇親会はそれから以降三十年続いて現在に至っている。大変嬉しいことだ。

個人では最後の七大戦で一勝しかできなかったが、諸先輩方から熱意、経験、人生観など多くを学ぶことができ、四年間の柔道部生活は意義あるものと感じた。

二 豪州駐在の頃

就職は地元電力に就職し、燃料調達の関係で三年間豪州駐在となり、毎週土曜日の午後シドニー大学柔道場の市民クラブで柔道をした。ドイツ系、東欧系など様々な豪州人がいて、モントリオール・ブルゲイニー氏もいた。練習後には皆パブでカクウチをするのが日常だった。このカクウチは、各メンバーが全員一杯づつおごっていくので、最後の人がおごるまで終わらない。人数が多くて二周・三周・四周……となると杯数も多くなり、相当酔いが回ってしまい学生時代の逆戻りしたみたいで大変であった。パブで酔っぱらってオージーと英語で話していた。英語がうまくなったかどうかは定かではないが、外人に話しかける度胸だ

けはついた。アジア人は私だけであったが、気の良いオージーたちはよくこんな私を歓待してくれた。こうした経験を通じて、柔道は世界の共通言語となる武道・スポーツであると肌で感じた。

三 九電柔道部後援会事務局長の頃

帰国後、九電柔道部に後援会が設立され、暫くして三代目の事務局長をするようになった。当時、九電柔道部としては実業団として選手の強化を開始してある程度の期間を経過していたが、選手が年齢を重ねたり、怪我をして、第一線の試合メンバーから外れてくると、次第にクラブから疎遠になりがちだった。いわばクラブにとって、第一戦クラスは光であるが、一方怪我をしたりして道場に足が向かなくなると影の面がクラブの雰囲気にも表れてきた。そのため、第一線の選手を終わっても九電柔道部と関わりを保てるように、福岡で開催の全日本体重別選手権の際に九電柔道部の現役選手・OBがボランティアで全九州の中学生の選抜柔道体重大会を開催・運営することとした。

九州の柔道の裾野を広げるという共通の目標の下、この大会開催のボランティア

活動は、九電柔道部の現役とOB全体の一体感を醸成することに非常に役立っている。この大会も既に十四回を重ね、この大会からの出身者が、柔道界の上位の選手として育つてくれているのは非常に嬉しく思う。

四 六本松教養部の移転と伊都キャンパスの新道場

六本松の道場が、平成二十一年に教養部の廃止とともに閉鎖となった。その少し前、十二月に六本松道場の最後の稽古があるというので、懐かしく思い参加した。壁にかかる游就館の看板とOBと現役の名札が静かに我々を見守ってくれているような気がした。伊都に移り、建物が新しくなることは、その時々で新しい未来にふさわしいもの目指しているのだから、時代の流れとしてやむを得ない。しかし、旧制福岡高等学校と新制九州大学の学生が、柔道部に入り、六本松の道場で高専大会や七大戦に心血を注いだ歴史と情熱は引き継いでいかねばならない。伊都キャンパスの新しい柔道場に、OBと部員の名札が六本松道場と同様に並べられてあり、以前と変わらず我々の稽古を静かに見守っている。また、その横に伊都

キャンパスの道場開きの集合写真がかかっている。その裏面に、「九大柔道部の七大戰での優勝を祈念す」と記してあった。九大柔道部のますますの活躍を祈る次第である。



六本松道場での最後の稽古

五 東京での近況

現在、私は東京勤務で、都立高校の先生から誘われ高校での練習や合宿、高校の同期生のいる実業団の寒稽古に参加したりしている。五十三歳をすぎたが、まだ、寝技であれば何とかやれるので、高校生に対して、抑え込みを完全に「決め

た」ときの感覚を身をもって感じるように指導している。その抑え込みの最終形になるためのプロセスに必要なことは何かを生徒にそれぞれ考えさせている。

また、毎年八月に講道館で開催される全国定時制通信制高校大会の事務局を手伝っている。この大会は、家庭等の事情で昼間仕事をし、夜間勉学の傍ら熱心に柔道を続けている高校生のための全国大会で今年で四十六回となる。いわば「裏版の甲子園」だ。この大会を支える人々は皆、何らかの境遇を克服して参加する生徒たちを応援するサポーターだ。生徒たちの試合を見ると心が洗われる気がする。その他、柔道に応用できる組手を学びに合気道の稽古に行ったり、相撲の鍛え方を見るため、時津風部屋や浅香山部屋に行き鶴竜や照ノ富士の出稽古を見たりしている。相撲の稽古は息が上がったところからどこまで気力・体力を続けさせるかがポイントだ。限界の中で気迫・体力で死力を尽くすのは柔道も同じだ。

六 夢の途中

ところで、九電柔道部の極めて強力なメンバーである七戸龍選手が平成二十六年四月から東京勤務となっている。この

年、ロシアで開催の世界選手権は一〇〇kg超で個人戦は準優勝。団体戦では優勝した。平成二十七年の全日本選手権は、惜しくも準優勝であった。彼は日本人離れた手足の長さで体格で高校、大学、社会人という置かれたそれぞれの環境で最大限成長している。人格的にも非常に謙虚な人材である。次回のリオデジャネイロ・オリンピックでは是非金メダルをとってもらいたい。私としては電力関係、大学関係でのパイプ役となって、彼の視野の裾野が拡大する一助になればと考えている。私は大学から本格的に柔道を始め、今日に至っている。その間、嘉穂高校、九州大学はじめてとする七次大学、九電をはじめとする実業団の柔道の先輩や仲間と機会があることに親しくさせて頂いている。私は柔道を通じて良い夢を見させてもらっているようだ。



旧制高校モニュメント
(六本松キャンパス)



昭和60年卒同期の名札
(六本松体育館にて)

七 後輩へのメッセージ（どこかで聞いた言葉）

稽古について…「微差は大差だと思っ
その日だけでみればほんの僅かなこと
も、積み重なれば大差となる。」

試合について「実力に差があつたとし
ても、試合は常に強いものが勝つとは限
らない。弱いものでも攻めて 攻めて 攻
め抜けば、相手に隙が生まれる。その一
瞬のチャンスをものできるのも柔道だ。」
人生について「一流を目指す若者は、

目標とする先人に追いつくだけでなく、
それを越えた目標を持って挑戦してほし
い。そのために、生涯において学べる師、
語れるよき友を得てほしい」

後輩たちよ！ 大いなる夢を抱いて頑
張れ!!

以上

三十周年寄稿

本山利明

突然にそれはやってきた。玉置からの
原稿依頼である。反論の余地を与えない
往年の強引さは懐かしくもあつた。

偶然にも前日、YOUTUBEで一九八四
年福岡開催の七帝戦での懐かしい映像を
見たばかりでした。各対戦毎に年、大学、
氏名のタイトルまで付けてUPして下

さつた他大学の有志に感謝しています。
中学高校の娘たちに父親の若く精悍な姿
を見せたかったが、彼らの想像していた
柔道とは程遠い格闘技が存在してしまし
た。いつの間にか、私一人でニヤニヤし
ながら見はまっていました。七帝戦には
四年生時のわずかに二試合のみの出場だっ
た上にYOUTUBEのお陰で、今でも当
時の苦しく楽しい情景を思い出すことが
できます。一日目対北海道大学戦は長谷

部さんが相手でした。試合の最後の最後
に抑え込まれてしまいますが、どうにか
足を絡んで抑え込みから逃れ、きわどく
時間切れで引き分けでした。二日目東北
大学戦は大森さんが相手でした。またも
や抑え込まれてしまい、逃げることはで
きませんでした。ところが、すぐに同期
の近藤が組まない大森さんを見事な足払
いで一本取り返してくれました。超軽量
級分け役で体重五五kgしかない私が七帝
戦に出場することができて、思い出を残
せただけでも、本当に良かったと思つて
います。体重が関係ない七帝柔道ですが、
軽量級が重量級と引き分ければそれは
勝つたも同然です。軽量級の後輩諸君、
頑張ってください。

大学卒業後は二年の民間を経て、佐世
保市役所に就職し機械設備工事発注や施
設維持管理を行う技術系地方公務員とし
て地道な仕事を細々と続けております。
趣味・スポーツについては、柔道は
殆どやってません。三十歳前後は毎週土
日はまってテニスをやりましたが、結
構ハードで五十歳の時久しぶりにテニス
をやったところプレイ中にふくろはぎの
肉離れを起こしてしまう怪我にあつて以
来やってません。テニスに替って今も週

末の日課となっているのは農業漁業です。農業は親からの相続でやむなく一・三ヘクタールほどの稲作をやっていますが、酷い赤字です。漁業は完全な趣味の磯釣りです。家が長崎県佐々町にあり九州の西の端に位置するお陰で、釣り場となる磯が近隣に豊富にあります。二週に一回のペースで、昼夜を問わず磯釣りに出掛け、新鮮な獲物は我が家の貴重なタンパク源となります。

以上



釣の腕前マダイ62cm (本山)

「道友会三十周年記事」 寄稿文

秋 枝 秀 幸

諸先輩の皆様並びに卒業生の皆様ご無沙汰しております。同年薬学部卒の秋枝秀幸です。

卒業して三十年の節目にこのような機会を頂きまして有難うございます。私は

当時四年間の学生生活を経た後、研究分野を志向しておりましたので修士課程に進学し二年後、現三井化学(株)へ入社致しました。専攻は有機化学でしたので最初は農業研究に携わりました。その後、化学会社の主製品になる合成高分子化学分野へと移り、今はポリマー製造技術を担当しております。現在も現役でパイロットプラントのマネージャーを続けさせてもらっております。現役であり続けるにはどうあるべきかを念頭に人材育成も考えながら仕事を楽しんでおります。

学生時代には乗り物特に自動二輪に乗るのが好きでしたが、四十歳を過ぎると健康嗜好が高じ今は自転車での遠乗りと温泉めぐりが私の楽しみです。家内はサイクリング仲間です。ようやく子供たちもある程度落ち着いて自分の好きな事を始めようかと思っておりますが、高齢の親の介護などが身近におこり、今はその工夫などしながら社会へ貢献できる道歩んでおります。町内会長・PTA会長など地域の活性化に自分がどの程度お役に立てるか判りませんが努めさせていただきます。いろいろな事を学んでおります。仕事は順調なのですが、丁寧な仕事をすすめるような心がけております。総じてですが、

現役の皆様におかれましては、何が大事なのかは皆さんご自身が決める事であります。

しかし今何ができるのかのチャンスをつかむには自己研鑽にて磨くことが大事です。

努力はきつと報われるはずですが、
ファイト!! (古い言葉ですがね)

以上



自転車のツーリングが趣味の秋枝

九州大学 道友会三十周年記事

内 山 明 彦

柔道部OBの皆さまご無沙汰しております。昭和六十年卒の内山明彦と申します。

私は建築学科を卒業後、大学院に進学、熱エネルギーシステム工学を専攻致しました。修士課程修了後は清水建設に入社し、以来、設計部にて設備設計の業務を

担当してきました。入社後は東京本社勤務の後、一時、転勤で名古屋に十二年程おりましたが、その後本社勤務に戻り現在に至っています。ここ十年位は国内だけでなく海外案件も担当することとなり、忙しく国内外をあっちこっちと飛び回る毎日です。

そんな中、先日たまたま福岡に行く機会があり、時間を見つけて六本松や大濠公園に足を運んでみました。歩いていると、練習後に角打ちでビールを死ぬほど飲んだ（飲まされた）ことや、〇・一トン級部員を肩車しながら大濠公園を走ったこと、六本松が学生でにぎやかだった頃が懐かしくも鮮明に頭の中に蘇りました。何もなくなってしまう九大跡地を後にしながら、時間のたつのは早いものだと実感した次第です。

卒業して三十年。今に至るまで大きな病气やけがもせず健康に過ごせてこれたのはひとえに柔道部のおかげだと思っています（少し大げさでしょうか）。練習や合宿は非常にきついものですが、苦しくもあり、楽しかった柔道部の一コマ一コマが今も思い出されます。今までの人生の中で体力・気力が最も充実していた頃ではなからうかと思っっています。

体力・気力はその後衰退の一途です。

最後に。現役の皆様、大学の四年間は以外にもあつという間に過ぎていきます。柔道だけでなく、それ以外の目標や趣味などもみつけて有意義な学生生活を送って頂きたいと思います。

以上です。



職場での内山（若々しいね！）

卒業三十年

有 富 稔 之

子供の頃、将来なんにになりたいか訊かれたら、一番偉くなりたいと思っただけだった。学校で福沢諭吉の言葉「天は人

の上に人を作らず」を習った。「偉くなりたい」と言う福沢諭吉の言葉に反しているように思われて言いくい気がした。

そのころ人生ゲームというゲームがあった。ゴールのところまで資産と負債の決算をしてプラスであれば上がりだった。次に億万長者ゲームというものをした。資金を稼いで、世界中で株や不動産に投資をして止まった人から料金をもらい収益をあげるゲームだった。一等地に三段重ねのビルを立てたらゲーム終了で、その時の資産を現金に換算して順位が決まるゲームだった。そこでは、億万長者を目指していた。

その後、柔道を始め、大学入試を経て九大に入学した。そこで柔道部に入るかどうか迷ったのだが、勧誘を受けたのと柔道をしたと思い入部した。コンパでは道友会藤島会長が「君たちは柔道の専門家にはもったいない。社会にでて活躍する人間だ。」と挨拶された。柔道だけでなく将来役立つことを勉強するように言われたような気がする。コンパなのでその後酒を飲まされ酔っぱらった。それで大学時代は興味があることに何でも取り組んだが、どれも完成するまでには至らず、尻切れトンボになったようだ。藤島

会長はいつも同じその話をされていたの
で、うまくいかないことがあっても、自
分は社会で活躍する人間だと思っていた。
卒業することになって、就職のための試
験を受けたが希望のものに合格しなかつ
た。自分は社会で活躍する人間なのにど
うして合格しないのかと不思議に思った。

いくつか仕事を変わるうち自分の生活
費は自分で稼ぐ必要があると思ひ始めた。
あるとき「ユダヤ式交渉術」の本を読ん
で、交渉が必要で大事だと思った。その
うち就職のための試験をうけて合格する
ことができ、現在に至っている。

子供の頃は億万長者を目指すことが当
然だったので、そのころを懐かしく思い
「マーフィー眠りながら巨富を得る」とい
う本を読んだ。自信を持って神様に祈る
と実現するみたいなことを書いてあった。
納得できないことも書いてあつて一章読
むたびに本を閉じて眠った。それでも目
が覚めた時には億万長者になつたかなと
思つたりした。

しばらくして「金持ち父さん貧乏父さ
ん」(ロバートキヨサキ)という本が話題
になつたので読んでみた。面白い切り口
の本でアメリカの金持ちの話だつた。い
ままで自分の中で思っていたことは少

し異なることもあつた。頑張つて仕事を
して段々と大きな仕事をして成功して
億万長者になるものと思つていた。ここ
ろがこの本ではお金のために仕事をする
のでは億万長者になれないように書いて
ある。お金を持つてくるもの資産を持ち
なさいと書いてある。何が資産なのかを
見つけることができるようにファイナン
シャルIQを高めることが必要だそうだ。
また著者が開発したキャッシュフロー
ゲームを勧めてある。それから行動が必
要なのかな。そう言われればその方が
億万長者に近いような気がする。

「億万長者になる方法」(安田善次郎)
という本を読んだ。儉約、投資、事業で
あつた。毎月の収入の二割を何かあつた
時のために貯金して、投機的なことに手
を出さないように書いてあつた。きびし
いと思つた。彼は八十を過ぎてても元気で
あつたが最後は暴漢に刺されている。本
の内容をそのまま実行するのは躊躇した。
その後アメリカの億万長者について少
し調べた。時代のアメリカの経済規模か
らみて世界一の億万長者はスタンダード
オイルのジョンロックフェラーらしい。
二位は鉄鋼王安ドリューカーネギーら
らしい。二人とも同時代のアメリカ人であ

りカーネギーが年上である。かれは鉄道
事業から鉄鋼事業を成功させた。たたく
上げのやり手の事業家のようだ。それに
対しロックフェラーは簿記を学び会社の
事業に精通し石油会社を興し成功したよ
うだ。この二人の関係がどうだったか気
になるところだがはつきりと書いたもの
は見つけていない。二人の事業が拡大し
たところで対立関係もあつたようである。
そんななかカーネギーは引退を考えたよ
うである。彼には男の子がいなかつたの
で会社を売却することを選んだようだ。
売り先はJPモルガンの新会社で、資産
価値の一・五倍の値段で売つたらしい。ま
た自分の会社の優秀な社員を新会社の社
長にした。その後社会奉仕に莫大な資産
を提供しようだ。

自分の考えは、成功していない人が願
いを実現するように努力することによつ
て成功すると思つていたが、アメリカ人
の億万長者の考え方では、成功するには
実現したと思ひ込んで自信を持ち神様に
感謝して祈ると実現するらしい。また少
し考えてみると、億万長者の考え方は潜
在意識を活用する方法であり、対外的な
交渉の場面では有効なテクニクである
らしい。これは神様との交渉であり、人



仲のよさそうな有富夫妻

との交渉に結びついているのだろう。これを取り入れてみるのもありかな。そこで自分は今、成功していると思いついて神様に感謝して人と接している。それでは皆様、お幸せにお過ごしください。

以上



平成27年度七戸選手全日本選手権準優勝
(前列右から2人目橋本先輩、玉置)

九、柔道部卒業十周年を迎えて

平成17年卒

「卒業十周年を迎えて」

鶴 丸 宇 位

今回、柔道部卒業十周年を迎えての道友会誌への寄稿を依頼され、改めてこの十年があつという間だつたと感じている。(唯一の同期である今屋主将は来年書いてくれると思います…)

久々に昔の道友会誌を見返して思い出されるのは、三年時の名古屋での七大会である。十年ぶりに決勝へ進出した九大の相手は東北大で、私は大将を任された。副将の山本泰三選手(二年)が東北大三将の中澤選手(三年)を猛攻するも引き分け、相手副将の西山選手(四年)と対戦することとなった。喧嘩四つの相手で徹底して引き手を持たせてくれない。喧嘩四つが得意ではない私は中盤に内股でいき、焦って中途半端に掛けた技を返され逆に技ありを取り返されそのまま引き分け。東北大の一人残しで十年ぶりの優勝はならなかった。もう少し冷静に試合を進めていけば、もっと色々な相手を想

定して練習をしていれば結果が変わったのではと今でも時々思い出す。試合後はあと一步で優勝できなかった悔しさと自分への情けなさで涙が止まらなかった。二年後福岡での七大会で山本主将の七人抜きもあり、九大は十二年ぶりの優勝を果たした。

大学院修了後、半導体の基盤として使われるシリコンウエーハを製造している株式会社SUMCOに就職した。あまりなじみはないかもしれないが、パソコンやスマートフォン、自動車、家電など様々な電気製品にシリコンウエーハが使用されている。

SUMCOの世界シェアは約三割なので、皆さんのパソコンの三台に一台はSUMCOのシリコンウエーハが入っているとおもわれます。今年一年限定でCMもやっていますので、時間のある方は是非ご覧ください。(フジテレビ系列土曜八時三十分の「にじいろジーン」中に流れます。半導体のイメージとはかけ離れたCMですが…)

希望したわけではないが、入社以来実家から車でわずか二十分の佐賀工場に勤務している。佐賀と伊万里の二箇所がメイン工場であるが、長崎県、宮崎県、山形県、北海道、台湾、アメリカにも工場があり、希望は出しているが、まだ異動出来ない。地元で就職したということとで、母校の少年柔道のコーチを五年ほど前からやらせてもらっている。小学生にわかりやすいように教えるのは難しいが、色々方法を考えて上手く理解してもらったときや試合で勝ったときなどは大変嬉しく、やりがいを感じている。小学生は試合数が多く、全てには参加できないが、ライセンスを取って審判もやらせてもらっている。数年前に同じ久保田町出身の大先輩・西原幸一さんも書かれていたが、九大柔道部に入学してくれるような選手を育てられればと思っている。

自分のほうはというと、浪人時代より県民体育大会に出場している。(二〇〇九年には佐賀市チームで優勝)二〇一一年には全国青年大会に久保田町チームで佐賀代表として出場した。団体戦では次鋒(九〇kg級)で出場し一勝(2-1)で宮城県に敗退したが、個人戦は初戦で愛知県の手先に敗退した。数年前までは高校

生（全国レベルを除く）とやっても問題なく勝っていたが、最近では体力の低下と肩やら膝やらが痛くなってきたりそろそろ引退かと考えている。

柔道以外では地元の「賞金レース」に参加している。今では数が少なくなってしまうが、八女市の全日本きんま選手権は優勝賞金三十万円、武雄市の全日本おしくらまんじゅう選手権は五万円＋佐賀牛などの詰め合わせがもらえるので毎年参加している。きんま選手権のほうはここ二年久留米大学のアメフトチームに負けているが、おしくらまんじゅう選手権のほうは四連覇中である。柔道は引退が近づいてきたが、賞金レースのほうはまだまだ頑張りたいと考えている。（競技の詳細は割愛しますが、インターネットで検索したらすぐ出てきますので興味があつた方は是非。どちらも時々テレビ取材を受けています。）

最後に、このたび卒業十周年を迎えるにあたり、このような寄稿の機会を頂き感謝しております。現役の皆さんは日々の練習はきつと思いますですが試合で笑えるよう、柔道部生活を全力で頑張つてもらいたいと思います。（佐賀いるのほんど顔を出せすすみません。） 以上



十、卒業生より

武内翔太 (平成二十五年卒)

日本郵船株式会社

これからは海の上で精一杯頑張ります！
陸に上がった時は必ず道場に顔を出すの
で、その時は昼の上で相手してやってく
ださい。

中尾亮太 (平成二十五年卒)

スチールプランテック株式会社

この春からエンジニアとして働くこと
になりました。九大柔道部での経験を元
に世界を舞台に頑張ります。関東道友会行
こうね武内。

西谷航

(平成二十五年卒)

株式会社朝日工業社

柔道で培った体力を武器に、社会で活躍
していききたいと思います。よろしくお願
いします。



めでたい卒業式

箱田充彦 (平成二十五年卒)

JFEスチール株式会社

柔道部での生活の中で得たものを手に、新
しい生活を突き進んでいきます。

井手亮貴 (平成二十七年卒)

九州大学研究生

現在も元気に学校に通っています。修了
後は熊本に帰るつもりです。

鹿倉浩志郎 (平成二十七年卒)

鹿児島銀行

怪我なく、練習をしつかり積んで、悔い
の残らない試合をしてください。大好き
な後輩たちの良い知らせを待っています。

高木将秀 (平成二十七年卒)

九州大学工学府機械工学専攻

可能な限り練習に行きます。

鶴田萌 (平成二十七年卒)

九州大学大学院

これから2年間は九大にいますので色々
お手伝いしていきます。

今春卒業の皆さん柔道部生活ご苦労様
でした。卒業、誠におめでとうございま
す。社会人として益々活躍されることを
祈念いたします。今春から就職された方
は、初任給で道友会費の納入を宜しくお
願いします。若手OBの会費納入率の向
上にご協力下さい。くれぐれも宜しくお
願いします。



2015.3.25 卒業式



七大戦壮行会 山下先輩の音頭で万歳
(山下先輩・北島先生・奥田師範・内海先輩)



七大戦九大OB懇親会2次会
(沢井・山本剛・山下先輩)



七大戦初日 武徳殿近くの中華店で昼食



現役慰労激励会
山本関西道友会会長から現役生へエール



山本泰三さん講道館杯出場壮行会
中山先輩挨拶



山本泰三さん講道館杯出場壮行会
有岡副会長・平島総監督・仲原事務局長



新年会 S37卒高田先輩挨拶



新年会 S47卒植本先輩挨拶



新年会 東大西森さん挨拶



京都錬成大会 現役歓迎会 (関西道友会)



京都錬成大会 現役歓迎会
松山東高校の先輩・後輩 4年片上と S45卒藤原先輩



どんたく会乱取り (新入生衣笠 vs 山本新監督)



どんたく会
H20卒境・H23卒松田・H20卒 野崎先輩



どんたく会
S55卒波多江・S54卒禅院・S50卒井上先輩



どんたく会 人生流転



どんたく会2次会

VIII
部員雑感

卒業の辞

井手亮貴



昨年度主将の井手です。道友会の先輩方はいかががお過ごしですか。自分は今も元気に大学に通っています。

さて、卒業の方も体を壊さぬようにご自愛ください。

さて、卒業の辞ということで、大学の四年間を振り返ろうと思います。長くなると思いますが、ご容赦ください。まず一年生の時、様々な過程を経て同期は自分を含めて五人になりました。選手に鹿倉、柴田、伴の三人。いずれも立ち技が強かったり寝技が上手だったりして、どっちつかずの自分は彼らに対抗できるか、仲良くできるか少し不安でした。しかし、同期ということで仲良くしてくれました、感謝です。女子マネージャーとして鶴田。とても可愛らしい人でした。

練習に関しては、入部して早々から上級生の先輩方の強さに圧倒され、取られないように守ることさえ厳しかったです。特に七帝戦前は雰囲気がとてもピリピリした練習でした。練習ではとてもしごかれましたが、練習以外ではとてもよくしていただきました。合宿などでは文字通り裸のつきあいでした。自分は体が大きかったため、一年生の時から七帝戦に出させてもらいました。先輩方、特に当時の四年生（宮崎貴大主将の時代）の試合を観戦したこと、北海道大学との試合で先鋒で出た自分が負けて悔しかったことなどを今でもはっきりと覚えていきます。七帝戦終了後の飲み会で「先鋒が引きつけていたら…」という言葉が心に残りました。七帝戦に出たことで強くなりました。という気持ちがとても強くなりました。七帝戦後、箱田主将の下練習を頑張りました。二年生の時、後輩ができました。もう一年経ったのかという気持ちと共に、先輩面できるかなと少し不安でした。い後輩たちで、先輩に付き合ってくれました。この時、高木が新たに同期に加わり、仲間が増えて嬉しかったです。一年間の練習の成果が出たのか、後輩たちは取ることができましたが、先輩方との練

習では守りばかりで、まだまだ練習しなければと思いました。そして地元開催だった二年生の時の七帝戦、勝ち進むことができずにとっても悔しい思いをしました。また、七帝戦終了後に伴が部を離れ、寂しく思いました。一緒に頑張っていたと今でも心残りです。七帝戦後、尾崎主将の代に代わり、悔しい思いを胸に練習をしました。箱田先輩たちが抜け、自分は攻めの練習をもつとしようと思いましたが、先輩方と練習する時はどうしても守りに回ってしまいました。今思えば、この時にもつと攻めて勝負の勘を養っておくべきだったと思います。後輩に勝って満足しているようではいけませんでした。そして学年が上がって三年生の時、さらに後輩ができました。上級生になった自分自身が応でも勝つこと意識しなければならず、自分の持ち技がなかった自分は持ち技を作ろうとしましたが、迷走してしまい結局最後まで自分の技を持つことが出来ませんでした。もつと早くから取り組んでいたら、と今でも悔いが残っています。そして三度目の七帝戦、全員の頑張りがあつて二日目に残ることができて嬉しかったですが、勝ち上がる事が出来ずまた悔しい思いをしました。

そして自分の代になりました。来年の七帝戦に向けてどう練習していこうか考えましたが、同期との意思疎通がうまくいかずに嘸み合わなかったことも多く、もつと同期と顔を突き合わせて話し合うべきだったと思っています。道友会の先輩方との連絡もうまく出来ず、先輩方にはたくさん迷惑をかけてしまいました。申し訳ありませんでした。後輩たちはきちんとしてほしいと思います。また、部を運営することで頭がいっぱいになり、柔道のことだけを考える、強くなるために柔道をするといった考えが抜けていたことがありました。自分が主将になってから奥田師範からたくさんお叱りを受けましたが、引退してからうつつすらとお叱りの意味、原因を推測することができませんでした。引退する前に考え付きたかったです。最後に四年生の時、新人生勧誘をうまく出来ず最初一年生が〇人でした。後輩たちも頑張ってくれましたが、入部者は一人で十五人揃いませんでした。部員の知り合いに助っ人を頼み、かたちだけ十五人揃えて最後の七帝戦に望みましたが、結果は惨敗でした。自分は一人も取ることができず、とても不甲斐なく、とても悔しかったです。試合が終わったと

きは、悔しいやらなんやら様々な思いがいつべんに湧いてきて何も考えられなくなり、終わったんだという喪失感が胸にありました。こうして自分の柔道部生活は終わったわけですが、悔いがたくさん残りました。例えば攻めについて、もつと早い時期からどうやって攻めるかなどを考えるべきだった、自分の持ち技を作らなければいけなかった。例えば柔道に對する姿勢について、柔道のことだけを考える、強くなることにがむしやらになる。など全ては書ききれません。一、二年生の頃のほうが柔道に對してがむしやらだったような気がします。どうあがいても時間は戻らないので後輩たちにはぜひ頑張ってください。

四年間の思い出が暗い文章で終わっている、最後は柔道部に入部して良かったことを書いて終わりたいと思います。良かったことは、やはり多くの方々とお会いしたことです。小宗部長、羽田野会長、仲原事務局長、平島監督をはじめとする道友会の先輩方、応援ありがとうございました。食事に関連して行ってくださいたりなど様々な面でお世話になりました。今度は自分がOBになるので、先輩方からの恩を後輩たちに返ししたいと思います。直近の先輩方、

採んでくださってありがとうございました。かわいくない後輩だったかもしれないですが、先輩方との柔道部生活はとても楽しかったです。後輩の皆、最後の年は自分たちについてきてくれてありがとうございました。今後は皆さんの成長を楽しみに練習に行きたいと思います。そして奥田師範、結局自分は先生のおっしゃった白鳥にはなれませんでした。先生の人生を歩み、立派な人間になりたいと思います。最後に同期の皆、今までありがとうございました、そして今後もよろしく頼みます。まあ飲みながらでも色々話しましょう。

長文失礼しました。多くの人に会い、支えてもらったことに感謝し、この出会いを大切にしていきます。今までありがとうございました、今後よろしくお願ひします。以上



卒業の辞

鹿倉 浩志郎



今年の三月に卒業しちゃった鹿倉です。近況報告としては、楽しい研修も終わり、現在地元の銀行で働いております。配属された場所は福岡でいうところの周船寺みたいなところで、市内から果てしなく遠い以外は可愛い人も多くて、割と楽しく過ごしています笑。

社会人になるにあたって、かなり不安を抱いていましたが、正直言って一年の頃の新歓合宿から比べると何てことありません。飲み会も多く、いきなり取引先の社長達と飲む機会もありましたが、飲まされることに抵抗もなく、部活のOBの経験もあつて割と気楽に話せます。部活で培った体力、経験、根性は自分にとって大きな財産なのだ、強く実感します。一つ困っていることを挙げるとすれば、部活で鍛えられた食欲が人並はずれていて、太りやすいことぐらいですかね笑

部活に大学四年間を費やしてきました

が、今思えばかなり大変なことをしていたと思います。一つは練習。毎日闘争本能を剥き出しでお互いが喧嘩に近い形で激しくぶつかり合っていました。柔道という激しい競技をする上で、肉体的にも精神的にもきつい思いをしましたし、何度も妥協したくなりました。その中で自分の弱さ、その弱い部分を受け止めて克服しようと立ち向かうことのカッコよさ、難しさを痛感しました。まだまだ半人前ですが、練習を通じて弱さと向き合い、自分というものを多少なりとも磨けたかと思えます。もう一つは飲み会。人が酒で潰れるのを初めて見て衝撃を受けた新歓コンパ以降、部活で幾度となく飲んできました。七大戦の後には毎回他大学の人間としこたま飲んで、目が腫れるまで泣いていました(笑)。社会人になった現在はお酒での失敗は出来ませんが、個人的には飲みすぎて誰かが壊れる飲み会は好きでした。周囲に気を遣ってどこかさわしなく飲む社会人に比べ、気楽に飲んで失敗できる学生に戻りたいと思う時もあります。健康診断でまさかの肝臓で引つかり、今はもうあんなに飲めません笑。

学生のうちに七大戦で優勝という大き

な目標に向かって努力し、お互いがぶつかりあい、試行錯誤して、本気で泣ける経験を出来てほんとはよかったと思えます。七大柔道には社会の縮図があると思います。過去の賢人たちが定めた七大理ルールは①引き込みありの寝技主体であること、②十五人という大人数でやること、③一本勝ちのみが認められる抜き勝負であること、という三つの柱とする一見変則的なものではありませんが、そこには①素質が大きな要素である立ち技に比べ、寝技は努力次第で初心者でも十分伸びしろがあること、②十五人という組織でいかに自分のチームが勝てるかということを考え、自分が出る役割を果たすこと、③少しでも勝利条件を難しくすることで、初心者でも活躍できるようにすると同時に、強い取り役一人で勝つのはなく、チーム全員が協力して勝利に向かうこと、がそれぞれの定められたルールに対応しています。これらの背景には、世の中を引っ張っていく旧帝国大学の学生に、柔道部という小さな組織の中で七大戦優勝という大きな目標のために、そのプロセスのなかで努力し、悩んで、試行錯誤しながらも、自らが組織のために何をすべきか、その役割の遂行のために

自分がすべきことを考え、それを実行するために組織の仲間と協力する、という社会に通ずるルールを学んで欲しい、という先人たちのメッセージがあるのだと思います。その要素は普段の練習にも散りばめられています。一年生のうちは基礎運動から始まり多くの技の形を覚えること、二年生では試合に出始めて、分け役として負けないこと、三年生ではチームの中核となり、取り役としてポイントを取ること、四年生にはチームを優勝に向けてまとめること、という大まかな流れが七大柔道にはあると思います。これらも社会にも当てはまると思います。二十代で多くの業務や仕事を覚え、三十代で、二十代の知識を基に経験を積み、四十代で組織が回るように上司に意見を言えるようになり、五十代は組織のトップとして自分の組織を向かうべき方向に舵を取る。これが僕の考える社会人の大まか流れです。

この流れでは、現在僕は業務や仕事を覚える、いわば下積みみの時期です。往々にして人は基礎の部分に疎かにしがちで、挨拶ですら業務の方が大事だと思つて手を抜く者も多いです。しかし、七大柔道の中で基礎を疎かにする者はたとえど

なに良い素質を持っていても将来的にはなかなか活躍できません。七大柔道でこのことを学んだ僕は下積みを頑張ろうと思えるようになりました。基本を磨いてきつと本気で泣けるぐらい部活と向き合つてきたからこそこの社会の縮図に気づけたのだと思います。

七大柔道に人生の普遍的な真理、そして苦楽とともに経験した、単なる仲間というものを越えた、一生付き合える戦友を与えてもらえました。正直、入部当初は毎日部活をやめたくてしようがなかったのですが、辞めずに続けてきて本当に良かったと思います。これからの人生で数えきれないほどの苦難、失敗があると思いますが、部活で培った気力、体力、気迫で乗り切っていきたいと思えます。たぶん一年の新歓合宿を超えることつてあんまりない気がしますし笑

最後になりますが、四年間僕が部活を続けられたのは家族、諸OB方を含めた先輩、同期、後輩たちのおかげだと思つています。この場を借りてお礼を言わせて頂きたいと思つています。ほんとうにありがとうございます。しばらくは九州にいたので、時間がある時には道場に足を運ぼうと思つています。三年間後輩たちには一度も負け

なかったもので、一生負けないように身体だけは鍛えようと思つています。以上



卒業の辞

高木 將 秀



なんとか四年で卒業することができました。経済学部卒の高木將秀です。卒業後は九州

大学の大学院へ進学いたしました。研究の進度と腰と相談しながら練習にいきます。

初めに、寝技を一から教えてくださった奥田師範、毎週のように練習に来てくださった平島監督や仲原事務局長、濱中副部長、多大なるご支援をくださった道友会の皆様、ありがとうございます。部の運営の面では仲原先輩、吉田先輩に大変お世話になりました。また、無事に大学を卒業できたことを祖父母や両親に深く感謝したいと思います。

大学生活を振り返ると、やはり柔道部が中心にありました。きつかったこと、楽しかったことなど思い出されることはたくさんあります。先輩方には練習でも、私生活でもたくさんのお話を教えていただきました。同期とは一番長い時間苦楽を共にした仲だと思えます。後輩たちにとっては不甲斐ない先輩、変な先輩だったかもしれませんがよくついてきてくれました。何年経とうと、大学生活を振り返って真っ先に思い出されるのは確実に柔道部での思い出だろう、と思えるくらい濃い時間を過ごさせていただきました。皆さん、ありがとうございます。

現役部員の皆さんへ。大したことは言えませんが激励を少し。私は今でもたま

に、電車で移動している時など、どうやれば技がかかるか、こうやれば絞められるんじゃないか、などと考えてしまうことがあります(変態ですね)。そして、現役の時にもっと考えていれば、と後悔することもあります。現役部員のみならず、皆さん考えてみてください。練習内容でも、技についてでも、何でもいいです。皆さんは七大戦優勝を目標に頑張っていることと思います。七大戦で優勝できれば後悔なく終わることができるかもしれませんが、優勝しても何かしらの後悔は残るかもしれません。そこは、私は優勝したことがないのでわかりません。もちろん、優勝できなかったらいくらか後悔することになるでしょう。後輩たちには、その後悔ができるだけ少なくなるように、どうすれば強くなれるか、どうやれば優勝できるかを一人で、そして全体でよく考えて、練習に励んでもらいたいと思います。本気で考え、本気で悩んで、悩みを共有し、本気で練習した分だけ、引退した後も仲間とおいしい酒が飲めるのではないのでしょうか(卒業したての若造が生意気言って申し訳ありません)。とにかく、怪我をせず、目の前の七大戦に向けて頑張ってください。応援しております。

稚拙な文章ではありましたが、以上に私の卒業の辞とさせていただきます。本当にありがとうございます。そして、これからもよろしく願っています。

以上



卒業の辞

鶴田 萌



早いもので入部から四年が経ちました。この春無事に卒業し、農学部大学院に進学しました。あと二年

間は九州大学にいますが、卒業の辞を書かせていただきます。大学四年間を振り返ってみると、やはり思い返すのは部活

のことばかりです。

一年生で入部して、すぐに新歓合宿がありました。マホ先輩、かよこ先輩、ゆうみ先輩とマネージャー会議をして一週間のメニューを決めました。「鍋はっかだど手抜きだと思われるから最低二回にしよう!」「最終日に食費が残った分だけ牛肉買って、すき焼きしよう!」なんて言いながら。大家族のお母さんみたいです。買い出しは、三十人分(とは言っても、柔道部なので実質六十人分くらい;)のご飯なんて作ったこともないので何を買いはいいのか検討もつかなかったのですが、何の迷いもなくカートの中に食材をバンバン入れていくマホ先輩を見て、すごい!と圧倒されたのを覚えています(笑)。それから年を重ねるうちに私もたくましくなって最後にはバンバン食材買えるようになっていたと思います。部活の思い出を書こうとしたら、合宿のことがスラスラ出てきますね。四年間で一番頑張ったことは合宿だと胸を張って言えます。かよこ先輩とゆかちゃんと、ご飯を作っていたときは最終日に一番頑張ろう!ということ、最終日の夜ご飯はちよっと手の込んだものを作っていました。ハンバーグとか、餃子とか。私たち

の愛情が伝わっていたらいいな。

きついな練習を頑張っていたらいいな。きついな練習を頑張っている選手を見ている時は、素直に尊敬していました。七大という大きな目標でありながら年に一回しかないその試合に焦点を合わせてみんまで向かっていくというのは難しいことです。ただ、いざ七大戦本番になってみるとみんな一年前とは比べ物にならないプレーを見せてくれます。「それいつも練習してるよ!」「得意なやつだよ!」って声が飛ぶ中、選手がきちんと決めて一本とつたり、分けきったときは私も、一番の達成感を感じました。柔道部に入っていなかったら、これほど熱い気持ちになることはなかったでしょう。四回の七大会はどれも忘れられない思い出です。九大柔道部の歴史の中で、マネージャーがいた時期というのは短いですが、その中で、私もどうあるべきなのか、何をすればいいのか模索しながら活動していました。部員には、マネージャーなんでもありました。確かにそう見えるかもしれませんが、これは私の代で解決できなかったことで、後輩たちにぜひとも改善してほしい点です。互いに支えあって本心に信頼し合っている空気を作って

いつてほしいです。

四年間、マネージャーの方々はもちろん先輩・同期・後輩と本当にたくさんの方々にお世話になりました。辛いことがあった時に親身に相談に乗ってくれて、可愛がってくれて時には叱ってくれた先輩方には心から感謝しております。代々の主将の先輩方はみんな違う個性で違う角度からでしたがマネージャーにも気を配り、引っ張ってくださいました。同期のみんなは本当に個性的で、みんな違うベクトルを向いていた気がします(笑)。ですが、四年間一緒にやってきて辛いことも楽しいことも同じ時間を共有してきた仲間だと思っています。慕ってくれた後輩たちはとても可愛くて、いつも元気を貰いました。ありがとう♥これからはまたOGとして柔道部に関わって行きま



すので、よろしくお願いします。以上

幹 部 雑 感

主務 井 手 智 朗

主務で副主将の井手です。この一年間を振り返ってみると、やはり部員不足問題が一番出てきますが、この話題はおそらく柳原や小西が触れていると思うので別のことを書こうと思います。

僕は大学に入る前から九大に入ったら柔道部に入ろうと決めていましたが、そう決意するきっかけが主に二つありました。一つは、高二の三月にあった九大の招待試合に参加したことです。これをきっかけにHPのブログなどもたまに見るようになり、勝手に親近感を覚えていました。もう一つのきっかけは、父親が大学の寝技好きだったことです。父親は、僕が十四年前に弟と一緒に柔道を始めた翌年、自身も柔道をしたくなったらしく、三十七歳で始めましたが、立ち技ではキャリアや体格のある相手にはなかなか勝てないということに気がきました。そんなときに、たまたま通りかかった開設して間もないブラジリアン柔術の道場の看板に心を動かされ、即入会したそうです。それからどんどん寝技にのめり込み、五年前にはついに自分の道場を開設

するまでになりました。僕は小学生のときからたまに柔術の道場に連れて行かれていたので、寝技に対する理解はそれなりにあったと思いますが、寝技が好きかどうかでいえば、好きではありませんでした。父親が実家のすぐ近くに道場を開設したのは僕が高二のときでしたが、部活と勉強を理由にあまり顔は出しませんでした。今思えば、大学に入る前からもう寝技を練習しておけばよかったと後悔しております。そんなこんなで、僕が九大に合格したとき、父親の中では僕が九大柔道部に入るの 당연のことに決まっていました。まあそれがなくてもなんだかんだ柔道好きなので続けていたと思いますが、そのへんのサークルに入って遊ぶ大学生活にも憧れてはいましたね。今となつては寝技好きですし、柔術の大会にもよく出るようになりました。

個人の話ばかりになってしまいました。結局何が言いたいかというと、寝技はちょっとかじったくらいじゃ面白さはわからないということです。僕も入部当初は先輩たちにポコポコにされ、寝技が楽しいとは思えるわけがなかったのですが、半年ほど続けると、自分の体を上手くコントロールできるようになり、寝技の楽しさ

がわかってきます。今の部員は半分くらいが入部一年目で、寝技が好きな部員はあまりいないと思いますが、一年後には考えが変わっているのではないかと思います。もちろん練習はきついですが、それを乗り越えればきつと見えてきます。

今や、七帝のなかでもブラジリアン柔術がだいぶ浸透してきましたが、九大は今まで柔術との交流はあまりありませんでした。先日父親の道場から数名、九大柔道部に出稽古にきましたが、柔術に興味を持った部員は少なくないのではと思います。高専柔道とブラジリアン柔術の交流は、双方にとってもメリットのあることだと思うので、今後もこのような交流を続けていって、柔道と柔術双方の良いところをどんどん取り入れて自分たちの柔道を進化させていきたいです。

最後になりましたが、今の九大柔道部は発展途上です。発展途上なのでこれからどんどん強くなっていくと僕は確信しています。どうかそろそろ低迷期を抜け出さないと諸先輩方に示しがつきません。僕らの代はその低迷期を抜けます土台となります。応援よろしくお願いします。稚拙な文章ではありますがこれで幹部雑感とさせていただきます。以上

IX
部員紹介

井手智朗



工学部機械航空工学科航空宇宙工学コース四年
城南高校出身 166 cm 66 kg
三段 寝技
平成5年12月28日生

紹介文(片上 正隆)

今年で入部から四年目、井手智朗の紹介をするのは、新入部員の片上がさせていただきます。

井手智朗という男は、普段下の名前からともろーと呼ばれるのが多い。僕が初めて会話した時「ともろーって呼ばれてるからともろーって呼んでくれていいよ」的な事を言われ、「出た！相手に自分の呼び方決めつけさせてくる痛いやつ！」と思いい、「普通自分の呼び名決めつけるほど呼び名の事気にいるものか？(いい意味で)」と、少し羨ましく思うと同時に、逆にそこまで思えるナルシストっぷりに若干引いた。でも本当に自分の事が好きみたいですごく輝いて見える。こんなにも素敵な名前を付けて下さったご両親に僕からも感謝申し上げたい。

ともろーは最終学年になって今一番力を入れているのは、勉強！ではなく、筋トレ！！でもなく、ラブライブ！！これに限る。この名前を知らない方も大勢いらっしやると思うのでざっと紹介すると、まあ女の子探してどこかな(やった事ないから適

当な意見)。ここ最近のともろーは部活終わりにプロテインとラブライブは必ずかかさない。遠征いって、朝起きたら飯より歯磨きよりトイレよりラブライブ。出てくる女の子を隅々まで舐め回すように見たおしてるからね。引退した先が怖いぜ。きつと日々の部活の活力は練習後にラブライブができるという娯楽からきてると思う。たぶんともろーはラブライブの事でこまでいじつても、怒るよりむしろ喜ぶと思うので、もし皆さんも彼を見かけたらどどんラブライバー(ラブライブをして遊んでる人の通称)としていじつてあげましょう。

しかし、ラブライブで色々言ったが、何と言っても四年間の集大成である部活には気合いの入りが違う。その証拠がお口周りの口内炎。さらにそれが痛々しい。日々の部活も口内炎と戦いながら歯を食いしばり頑張っていた。ここまで身を削ってまで頑張る人は見たことないかもしれない。七大戰には口内環境良くして万全の状態で望んで欲しい。

最後に、何を書くか悩んでる時になんとともろーの名前でネットで画像検索してみたら、出てきたのはなんと…。

自己紹介

あつという間に四年生になりました。最後の七帝まであとわずかですが、「ようやく部活から解放される」という気持ちと「あと一年やりたいな」という気持ちが入り混じっています。どちらかというの後者のほうが強いかもしれませんが。幹部の役職とか何もなしにのびのびとあと一年できるのがベストかもしれません。(笑)しかし残念ながら僕はストリートで卒業できちゃいそうなので、残された時間を悔いのないようにやり切ります。僕の柔道人生十四年間の集大成をぶつけます。今九大柔道部は

確実に良い方向に向かっていていると思うので今年は何か起こせるんじゃないかという気がしています。いや、起こします！応援よろしくお願いします。以上

稲富悠也



工学部機械航空工学科航空宇宙コース四年
高知小津高校出身 167cm 75kg
無段 得意技…なし
平成5年6月16日生

紹介文（井手 智朗）

いなとみの紹介をしたいと思います。柔道部の四回生は全員が機械航空という珍しい代ですが、その中でも稲富は僕と同じ二十六組であり、同じ航空宇宙工学コースであり、学籍番号も隣という、部活以外でも強い関わりを持っています。かといってクラスでもよく喋るのかというところでもないです。というか、彼は基本的にクラスの人と話しません。入学後一週間くらいで友達を作るのが面倒くさくなつたらしいです。授業もよく休みます。なのに試験前にほとんど誰からの力も借りず勉強して単位を取つてしまいます。大学入試も工学部の前期で九番（合格者六百九十八人中）というかなりの好成绩なんですが高三のときは学校にもろくに行かず塾の自習室でほぼ自学だったらしいです。つまり、頭おかしいやつです。そもそも大学から柔道を始めようと思うあたりかなり変わつてると思います。本人もなんで柔道部に入ったかよくわからないらしいです。しかも黒帯にはあまり興味がないらしく、一度も昇段審査を受けたこと

がありません。合宿にはいつもエナメルバッグにアレをいっぱい詰めて持つてくるし、二十歳の誕生日祝いで貰つたお金をアレに使うし、普段は寡黙なのに酔つたときはテンション高くなつて土佐弁丸出しだし一発芸やりたがるし、やっぱ頭おかしいですね。体重は入部当初五七kgくらいだったのにいつの間にか抜かれ、今では七五kgもあります。その急激な増量の代償として腰を痛めたようですが、増量という点では僕も見習わないといけないですね。。

そんな彼ですが結構研究熱心なところもあり、寝技の技術はホンモノです。白帯チートとして部員に恐れられています。最後の七帝はきつとチームの勝利に貢献してくれると信じています。ケガをしているのと風邪をひきやすい体質のようなので体調管理の面が少し心配ですね。以上でいなとみの紹介を終わります。

自己紹介

稲富です。時の流れは早いもので一生続くかと思つていたしんどい柔道生活もあと一か月半です（これを書いてる時点で）。色々な先輩や後輩がいて、つらいことも楽しいこともいっぱいあつて、中身の濃い三年間だったなあとしみじみ思います。この三年間で人間として少しでも成長できていればよいのにな、と思つたりします。実際はどうかかわりませんが。

残り少ない時間だけど悔いが残らないように（つて言つても絶対残るんだろうけど）がんばります。以上

片上 正隆



工学部 機械航空工学科機械コース四年
 松山東高校出身 180 cm 75 kg
 初段 内股
 平成4年4月23日

紹介文(柳原 俊太郎)

「愛媛が産んだ世之介」「柔道部彼女作成最後の希望」

といえば、片上のことである。三年生のとき彼は突如やってきた。正確に言うとも部員不足のために医学部柔道部に助っ人をお願いして来てもらったのである。経済的な面、時期的な面で色々厳しい事情もあったであろうが、入部を決めてくれた。

そんな変わった時期に入部した彼であるが、その実態も他の四年生と比べ変わっている。

まず、先に書いた二つ名の通り、彼はモテそうな顔立ちや性格をしている。いや、実際モテる。彼は「こうしんちよう」「こうがくれき」「こうがくぶ」という条件を満たしている。

所謂「さんこう」というやつだ。それだけあって、彼にはどこへ行っても女性の知り合いが存在する。その子とどういう関係かは秘匿されている。というわけで、女性関係で噂が立つ気配すらない他の四年生と比べると彼は少し性質を異にする。他の四年生の方が一般的でないことに気づいてはならない。うらやましい…。

モテる彼は、そのスキルの応用か、他の柔道部部員と仲良くなるのも早かったように思う。男相手でも馴れているのかもしれない。学業面や経済面の事情で練習への参加が他より少なく、

触れ合う機会が多くなかった。しかし、しっかりと溶け込んでいるようである。ただし、ある時期に稲富らを代表とする彼女禁止推進団体過激派との対立が懸念されていた。稲富が絡んでいっただけである。たまにその光景を見るが単に冗談を言い合っているだけのようなので実際安心である。安心と願う。

部に溶け込むのも順調であったが、柔道における成長ぶりも順調である。立ちほもとより私より強い。練習できる時間は限られていたが、その少ない時間を活かして寝技も存分に成長してしまった。立と寝が合わさり強く見える。もともと身長が高く、リーチが長い事も有り、体格で相手より上の場合には有利にことを運べるであろう。試合でも大いに活躍することを期待している。

自己紹介

自己紹介させていただきます！

九州大学、工学部、機械航空工学科、機械コース、四年の片上正隆。

身長は一八〇・二cm。毎年少しずつですが伸びています。

出身は愛媛県。四国出身で七帝柔道してる人が少ないですが、高知出身の稲富が九大にいるのはだいぶ嬉しい。

高校は松山東。今年八十二年ぶりに春の選抜野球出場。バイク持ってます。こかしたのでバイクは傷だらけですが、僕はほぼ無傷。

柔道は小学校からやっている。来年からは、おそらく本気で柔道する事もなくなると思うので、残りの柔道生活を満喫したい。

以上

柴田真吾



工学部地球環境工学科建設都市工学コース四年
東筑高校出身 168 cm 78 kg
式段 横四方〇め
平成4年12月28日生

紹介文（稲富 雄也）

柴田先輩と最初に会ったのは僕が一年の時の花見です。僕が入部を決意して勇気を出して集合場所の九大学研都市駅に向かったときに暖かく迎えてくれました。そのときの印象はどんな感じだったかというと、多分今と変わりません。中々にマイペース、というか自我の確立されている人です。

柴田先輩の喜ぶ話は野球、競馬、下系とまさに東スポの擬人化とも呼べる方です。そして柴田先輩の得意技の一発ギャグはとてもセンスにあふれるもので三回に一回くらいは周りが爆笑の渦に包まれます。あと僕とは気が合い（と少なくとも自分は思っています）、よく飲み会とかでも二人で話したりご飯誘っていただいたりと良い付き合いをさせていただいています。

真面目な方面では、柴田先輩は小さいころから柔道をされており、柔道への思いは中々深いものがあるようで、経験の浅い自分がハツとさせられるようなこともよく話してくれたような気がします。あと意外にも（失礼ですが…）柴田先輩は思慮深い人で先輩後輩のことをかなり気遣ってくれたり大人な対応をしてくれたりという成熟した面もあります。というより精神年齢が高いのだろうか：趣味とかもオヤジのそれだし。

そんな柴田さんの得意技は単位落とし（↑上手い）らしいで

す。（参照：去年の道友会誌）。そんなこんなで五回生の柴田先輩でした。今後もしよろしくお願いします。

自己紹介

二留がちらついていましたが、なんとか進級することができました。大甘で単位を下さった教授の先生方のおかげです。

振り返ってみると昨年の前期は、「留年したんだから進級は余裕だろう」「進級できるギリギリの単位数で進級しないもったいない」などという意味不明の思想が脳内にはびこっており、四単位しか回収できませんでした。そして後期、「二留したらどうしよう」「ああああああああ」という健全な思想のもと、なかなか寝付けなかったり、テスト直前は吐き気を催すなどしました。

「人間はいつどうなるかわからない」それが私の留年時に思ったことです。もともと九大に入学するには頭がめちゃくちゃ悪く、しかも試験勉強や課題を直前まで放置するか、放棄していたのが悪いのです。しかし、悪いとわかっていながら、なかなか習慣を変えることができませんでした。仮に自分に息子ができて、息子が二留や三留、退学等したとしても「まあ〜ね〜」と言っていると思います。そのような心の寛大さができたような気がします。「俺の知り合いの早稲田の政経の人は七留？したけど、なんとかなったるぞ」という父の言葉を胸に、これからも頑張っていきたいと思います。

以上

柳原 俊太郎



工学部機械航空工学科四年
東筑高校出身 170 cm 81 kg
式段 横三角
平成5年11月27日生

紹介文(柴田 真吾)

柳原は東筑高校の後輩で、九大の後輩(同期)です。高校時代も大学時代も彼の柔道に対する印象はひとつです。それは「かたい」。もし私が何かの大会に出場することになり、打ち込みパートナーを連れていかなければならない時、まず彼は選びません。果たして、あちらのほうはどうなのでしょう？

彼は、東京大学を受験したので、おそらく滑り止めの九大には進学しないのではないかと考えていたのですが、入ってきたくて素直にうれしかったことを覚えています。主将として、いろいろ考えてチームを引っ張っている姿は頼もしいです。人間としてペラペラの先輩(同期)ですが、まあ何かの縁だと受け入れてもらって、今後よろしくお願ひしますね。私がちやんと就職できたら高級焼肉でも、高級石焼でもおごりますよ。

自己紹介

入部してから歳月が流れ、もはや六十歳(とマイナス三十八歳)になろうとしています。未だに見聞きしたことをすぐには理解できず、天命も知らず、窮しては惑い、しつかり立つべき足はふわふわしており、学問の志も低いありさま。ただただ、体だけがぼろぼろになっていっております。朝起きれば腰痛で

起き上がれず、一度歩き出せば靱帯の伸びた膝の不安定さは隠しきれないこの体。着実に老いていっている気がします。

気持ちまで年をとってしまったのか、最近少し涙もろくなつてしまったような気がします。といっても、その原因とは悪いものばかりではありません。昨年の代替わり、つまり私が主将となったとき、九州大学柔道部の部員は今現在の学年での四年生三名、三年生五名、二年生一名、引き続き協力いただけることになった五回生一名の総勢十名でした。「うわ…うちの部員少なすぎ…」と絶望したことを覚えています。しかし、昨年の夏に現在の四年生が一名加わり、秋の勧誘活動の効果もあつてか年末に三年生が一名、年始頃に二年生が二名加わりました。そして今年の新入生勧誘によつて一年生四名と三年生一名を新たに加え、総勢十九名の部となりました。十人以上が練習に揃っている日などは不意に涙が襲ってきます。部員不足に苦しんできた九ヶ月間を思うと、今現在やつとまともな人数になれたというところに感動すら覚えます。一方で現在の四年生以上がいなくなれば再び人数不足に陥るのではないかと危惧と、部員の半数近くが最近入部したもののばかりということと寝技への練習不足の不安もあります。感動、危惧、不安の三つが合体して、意味がわからなくなり、私の体に涙と吐き気という形で出力されます。部員の皆、吐きちらかしたらごめんね☆彡。

逆に言えば課題はわかっているわけですから、対策はうっていただけます。部員不足の問題に対しては、まだ入部を悩んでいるような新入生にアプローチをかけていきます。春で無理でも親交を深めておけば、秋に入部する可能性もあります。まあ、秋勧誘は次の代にしつかり取り仕切ってもらいましょう。また、新入部員はまだいままらでも育てれば良いですし、足りない部分

は上級生がカバーしていきます。していかないとはいけません。試合までの間にしっかりと行動を起こしていき、ただの巧言令色にならないように頑張っていきたいと思います。 以上

井上 翔



工学部・エネルギー科学科三年
大濠高校出身 170 cm 68 kg
初段 巴投
平成6年3月5日生

紹介文(小西 興治)

彼が柔道部に姿を現したのは、一年の秋頃であった。

彼が私と同じエネルギー科学科の二十四組に所属しているということは事前に聞いていたのだが、いざ会ってみると全く知らない顔である…。

当たり前だ。その頃の私はほとんど授業に出ていなかったのだから。

それではざっと、彼の経歴を追ってみよう。

中学の頃、彼は野球部に所属していた。ポジションはピッチャー。加藤とはチームメイトであったようである。この時から九大柔道部に入る運命だったのかもしれない。

高校に入って応援団に所属する。大濠高校の応援団はレベルが高いようで、練習も本格的にやっていたようだ。この時の練習の日々と、後で触れるが、趣味のロードバイクのおかげで、彼の下半身はかなり鍛えられている。この足の力を有効に使う

ことができれば、かなりの武器になるに違いない。

大学に入ってから、柔道部に入るまで、彼の生活のほとんどを占めていたのは塾の担任助手のアルバイトである。当時の彼の社畜ぶりはすごいものであったようだ。彼が稼ぎ出した額が七桁に上ると聞いて驚いた覚えがある。

柔道部に所属している今でも、かなりの時間をバイトに費やしている。シフトの入っていない日でも前原にある校舎まで行くそうで、彼の責任感の強さがうかがい知れるだろう。

彼を語るうえで避けて通れないのがロードバイクである。

彼がロードを手に入れたのは今から一年と少し前ぐらいだろうか。その後、見るたびに彼のロードはグレードアップしていき、ついには二〇万円以上費やしたようである。私などには何が変わったのか分からないが、曰く、出せるスピードが全然違うそうである。そのロードと共に遠くは阿蘇の方までツーリングに行った事を嬉々として語っていた。忘れもしない、赤と黒を基調とした彼の愛車。

驚いたことに、先日その愛車を友人に売り払ってしまったというではないか。もう彼がロードで加藤の原付を追い回す光景は見られないのだろうか。

ご心配なく、さらに性能のいいパートナーと出会ったらしい。彼のロードとの旅はまだまだ続く…。

彼は色々なゲームをプレイする。

ゲーセンにあるUFOキャッチャーや太鼓の達人、DDRからWiiのスマブラまで、彼のプレイするゲームの幅は広い。その腕前もなかなかのものである。

そんな彼が現在最もはまっているのがラプライブ！スクールアイドルフェスティバル（通称スクフェス）という音ゲーである。部内にも何人かの愛好者がいるが、その中でも彼は最古参である。かく言う私も一時期ハマっていたことがあるが、それも翔に勧められてのことであった。私から見ると彼はかなりの上級者である。難しい楽曲でもフルコンボしてしまう。またラプライブ関連のグッズも集めており、お得意のUFOキャッチャーで、フィギュアを何体も取ってきているようだ。余談だが、彼のお気に入りは絢瀬絵里という金髪ハーフ美女である。

彼はサブカルチャーへの造詣も深いようであるが、それを説明し始めると、私自身の無知を露呈することになりそうなので省略させていただく。

最後に彼の柔道への姿勢を紹介しよう。

今更であるが、彼が柔道を始めたのは大学に入ってからである。彼のような初心者の場合、立ち技は捨てて徹底的に寝技に引き込むのが七大ルールでの王道であり、勝算を高める方法であろう。そのため、ついつい立ち技の練習をおろそかにしてしまいがちだが、彼のすごいところは、なお立ち技習得の意欲を忘れないところである。たしかに、立ち技でとれることも少ないだろうし、逆に立ち技でとられることもあるだろう。しかし、立勝負を完全に捨て、寝技に流れる私からすれば、少し眩しく映ることもある。ちなみに、私がこの記事を書いている五月三日、どんたく会の直前にあった昇段審査で見事黒帯を手に入れたことを付記しておこう。彼の今後の活躍に期待している。

自己紹介

工学部エネルギー科学科三年の井上翔です。一年生の十二月から中学の元同級生の加藤の誘いを受けて柔道部に入部してはや一年と五か月となりました。この間まで自分の体は今以上に体ほっそり腕もつとほっそり（入部当初は懸垂が一回もできませんでした。）だったんだよなあと昔を思い出してみると、ちよつと信じられないです。そして、先日、念願であった初段を取りました！技術的には全然まだまだですが、少しずつ前進はできているのではないかと思います。

今年の七帝戦での自分の目標は、とにかく負けないことです。相手にきつい攻めをされようとも、次の人につなぐために一分一秒でも多く耐えたいと思います。頑張ります！

あと、これはあまり関係ないことですが…

最近ロードバイクにはまっています！とにかくこいいです！苦しい思いをしながらも自分の力で五〇km、一〇〇kmを走りきる爽快感はたまらないですね。赤いヘルメット・変態みたいな恰好・灰色のロードバイクの人物を見かけたらたぶん自分です。ので、見かけましたら、「ああ、あいつまた自己満足の旅に出てるのかな」と思いながら温かい目で見守っていただけると幸いです。

以上で自己紹介を終わらせていただきます。

猪原 雅代



経済学部経済工学科三年
国立福島工業高等学校出身
平成7年2月10日生

自己紹介

マネージャーとして今年、入部しました猪原雅代と申します。私は今年の三月に福島高専を卒業し、四月に九州大学経済学部へ三年次編入いたしました。高専では柔道部に所属しており、大学でも何かしらの形で柔道に関わりたいたいと思い、柔道部への入部を決めました。三年生のため部員として活動できる期間は実質一年程度です。その間、選手をサポートを行うなどして(たまには友佳ちゃんと同着を着て)、自分なりに柔道を通じて大学生活を実りあるものにできればと思います。これからどうぞよろしくお願ひ致します。

以上

加藤 慶一



経済学部 経済経営学科三年
修猷館高校出身 174cm 75kg
初段 ぶろぐ
平成5年4月17日生

紹介文(栗木 智章)

こんにちは、栗木です。加藤の紹介をさせていただきます。

加藤とは同じ学部学科ということで大変仲良くさせていただいております。彼は非常に優秀であり、なんと週に三日も学校に来て授業を受けているそうです。勉学へのやる気は凄まじく、過去に履修したことがある授業を再度受けるという意識の高さ。まさに経済学部生の鑑ですね！人望も厚く、部内のみならず学内の人気者です(本人にこう書けと言われたことは秘密です)。最近では毎日のように「日曜は車でどこかに行きたい！」と言っています。誰か一緒に行つてあげてください。私の好きな釣りの話をするとかかなり食いついてきます。グイグイきます。誰か連れて行つてあげてください。また、ゼミではかわいい女の子にうつつを抜かしています。でも一度も声を掛けたことがないそうで…。がんばれ加藤！柔道に関しては、まだまだ未熟な私に色々教えてくれて非常にありがたいです。彼は柔道にはアツク、特に小西と乱取りをしているとき柔道を楽しんでるな！と感じます。非常に頑張り屋さんだと思います。これからも活躍してくれるでしょう！

自己紹介

柔道部の絶対的守護神として名高い加藤慶一選手を紹介する。彼の持ち味は、何とんでも伸びのあるストリートだろう。「まあ、…いいか。」という言葉とともに投げられる彼のストリートは、前進することしか知らず、どんな打者でも見逃すことしかできないという。天性のバツティングセンスを持つ、首位打者、日曜日も、「あの球はねえ、気が付いたら僕の前を通過してるんですよ。」と、加藤の投じる球に太鼓判を押す。加藤の速球がいかにも恐ろしいかが伝わってくるだろう。

また、加藤は最近になって変化球にもキレが出てきたようだ。

特に最近、加藤の決め球にもなっているのは、彼が開発したという新球種「部誌の仕事」である。この球は打ち気にはやる打者をあざ笑うかのような、見事な変化を見せ、打者の鋭いスイング音だけが空しく聞こえるという。

そして、注目すべきは加藤の投球術である。いかに加藤のストリートがすごいといっても、打者は二巡目、三週目にもなるとタイミングをあわせてくるものである。そこで加藤は三巡目頃になると、攻め方をこれまでの速球中心から一転、変化球中心へと変化させることで、打者に的を絞らせない。実に見事な立ち回りである。彼の安定感の秘訣はここにあるのかもしれない。

加藤はこれら超一流の速球、変化球、投球術を武器に三振の山を築きあげる。気が付けば二十打者連続三振という大記録になっっていることも少なくない。これが絶対的守護神たる所以である。

そんな加藤には最近、ある悩みがあるという。それはチームメイトとの不仲である。彼の才能を妬んでか、チームメイトから、「早く打たれろ、早く負けろ。」などといわれることがたびたびあるという。特に頻繁に、SNSなどを駆使して、加藤にこうした言葉を浴びせるのは、彼の一つ先輩にあたる井手智朗選手だそうだ。これに対して、「井手先輩は登板の機会こそ多いものの、すぐにノックアウトされてしまうので、僕に嫉妬しているんでしょう。結果がすべてこの世界、仕方がないですよ。」と、加藤は語る。こういった言葉の端々にも、絶対的守護神としての余裕が感じられる。

加藤がFA権を取得するのは来年の六月頃。それ以降は、残念ながらチームを離れるようだ。しかし、それまでは柔道部の

ストップパーとして、ブログの円滑な運営に待ったをかけてくれることだろう。以上

栗木 智章



経済学部 経済経営学科三年
明善高校出身 168 cm 60 kg
初段 大内刈り
平成7年2月7日生

紹介文（加藤 慶一）

柔道部には大学以前から僕と付き合いのある同期が数人います。高校時代と同じ柔道部に所属していた中村将太、中学時代に同じ野球部に所属していた井上翔。それぞれと同じ時間を共有してきました。そしてもう一人。トモちゃん（栗木智章）と僕は小学生の頃からの付き合いです。

僕とトモちゃんの出会いは僕が小学二年生の春、小学校に入学してきたピカピカの一年生がトモちゃんでした。僕が一浪しているため、今でこそ僕らは同学年ですが、当時は僕が一学年上のお兄さんでした。そして集団下校の時、意外にも僕とトモちゃんの家が近所であることがわかり、その縁あって、次第に仲よく遊ぶようになりました。

昔のことなので、あまり多くを覚えてはいるわけではありませんが、まだゲームも少なかった時代、住んでいたところが少し田舎であったこともあって、僕とトモちゃんはよく外で遊んでいました。特に、近所の川でザリガニ捕りをしていたことは、

今でも鮮明に覚えています。

僕が小三になる頃、トモちゃんは近所の柔道教室に通うようになります。何度かトモちゃんから柔道を始めるよう誘われることもありましたが、当時の僕は、柔道に対する興味など微塵もなく、むしろ大事な遊び相手を奪った柔道が嫌いでした。

そして僕が小三の夏、僕が久留米市から今住んでいる福岡市に引っ越したため、トモちゃんと会うことはなくなりました。

その後、長い月日を経て九州大学に入学し、大学でトモちゃんと再会した時は、ものすごい衝撃でした。しかも同じ学部。そして僕が高校から柔道を始めたことを話すと、それはそれは喜んでくれました。

今でも飲み会などではよく昔の話をしています。そんなトモちゃんはとても頑張り屋で、公務員試験の勉強、ゼミ、バイト、柔道と大忙しです。でも、しっかりとそのすべてをこなすトモちゃんは本当にすごいと思います。柔道部の仲間として、同じ目標に向け練習できていることが幸せです。トモちゃん、本当に長い付き合いだけど、これからもよろしく!!

全部：うそです…。これで終わります。

(栗木…こめん!!)(笑)

自己紹介

はじめまして。二年生の冬からお世話になっております、栗木です。柔道部に入るまでは準硬式野球部に在籍していました。経歴が謎すぎる!と思う方も多いと思いますので説明します。

私は小学生の頃柔道を始めました。中学・高校でも柔道を続

けてきたのですが、正直練習がきつすぎて、特に中学の頃は引退することしか考えていませんでした(笑)。大学では違うスポーツをしたいと思い野球部に入ったのですが、いざ柔道を引退してみると柔道が懐かしく、またやりたいなーと。中学時代の先輩・後輩の活躍も刺激となりました。寝技が好きではなかったのですが、最初は九大柔道部に入ることに抵抗がありました。しかし、高校時代に対戦したことのある智朗先輩や同じ学部の加藤がいたことに加え、皆さんが部活を楽しんでいる姿が伝わってきたので、入部を決意しました。

現在、公務員試験対策、ゼミ、アルバイトで非常に忙しいですが、なんとか時間を作って鍛錬に励み、早く皆さんに追いつけるように頑張ります。よろしくお願ひします。 以上

小西興治



工学部エネルギー科学科量子理工学コース三年
東大寺学園高校出身 171cm 67kg
式段 ルームシェア
平成6年5月17日生

紹介文(井上 翔)

今から、コニコ、またの名をドミトリーの裏の長、小西興治くんの紹介をします。

私は、まだ柔道部に入っていないなかつた一年生の春の時点から小西君のことを知っていたような気がします。あれは確か中国語Iの授業でしたでしょうか。私がグループワークに参加して

いた時のこと、メンバーが一人足りないグループがありました。最初は風邪か何かだろうと感じていました。しかし、その人が授業に再び顔を出すことはありませんでした。そして、私が遅れて柔道部に入部し、得た答えとしては、彼は寮で日中深い眠りについていたとのことでした。そんな彼が一年前期に叩き出したGPAは、〇・〇〇とのことでした。（この数値は伏せさせていただきます。）

もうひとつ聞いた逸話としては…そうですね…つい先日のことだったでしょうか。ドミトリーの仲間と共に地元で開催された祭りに行った時、彼は地元の方とお酒を飲みまくっていたそうです。しばらくすると、そこはインターナショナルな小西君。地元のご婦人たちに流暢な英語で話しかけまくっていたとのことでした。その時の記憶は、本人曰く、残っていないとのことです。小西、もう少しお酒には気を付けてくれ…頼むから…

そんな伝説(?)を作り上げた小西君も、今や三年生！授業にもしっかりと出て単位を取り戻しているとのこと！そして、奈良の大仏を想像させるような彼の天パな髪は伊達ではなく、彼は誰にでも優しいです。（正直自分も見習いたいです。）柔道に関しては、個人的に言わせていただくと、防御の面がかなり上達しているように見えます。よっぽどのがない限りは、彼はしっかりと結果を残してくれると思います。最後に一言、小西、勉強…一緒に頑張っって共にしっかりと四年生になろうな！

自己紹介

小西興治とはどのような人間なのか、それを探るため今回我々

は彼のルームメイトたちへの極秘インタビューを敢行した。

チャリー「そうですね、小西さんはあんまり朝が強くないみたいです。いつも七時半にとんでもなくうるさい目覚まし時計で私も起こされて辟易しています。それが二十分ぐらい鳴り響いた後、ようやく起きて目覚ましを止めます。あれはちよつと止めてほしいですね。」

ティン「うーん、小西さんのいいところ、というと難しいですね…。しいて言うところ綺麗好きなどころでしょうか？でも、「台所をかたずける」とか、「週に一回はリビング掃除しよう」とか、私たちにまで言ってくるのはいただけませんね。その割には自分の部屋は四人の中で一番汚いんですね。どういことなんですかねえ。」

健太「興治ですか、あの人、第一印象はガリ勉みたいな感じでしたけど、最近バカなんじゃないかと気付きはじめました。彼のGPAを聞いたときは驚きましたよ。僕のGPAは三・九五なんですけど、僕の五分の一ほどしかないじゃないですか。まあもう少しお勉強頑張った方がいいですね(笑)。あと、先輩面するの止めてほしいです。興治は一学年上ですけど、僕浪人なんです。実際は同じ年なんですよね。初めの頃は敬語使っていましたけど、最近馬鹿らしくなって止めました。」

※発言は完全に筆者の被害妄想です。

以上

中村 将太



農学部地球森林科学コース三年
修猷館高校出身 180 cm 85 kg
初段 内股
平成5年11月14日生

紹介文(中村 友佳)

中村将太さんの紹介をさせていただきます。中村友佳です。まず初めに、正直私は彼のことを紹介できるほどよくわかってないかなあ…といった感じです。といいますのも、二年間同じクラスだったにもかかわらず部活以外で話すことがほとんどといっていいほど無かったためです。どうしてそうなっちゃったのか…決してガン無視していた訳ではございません。…おそらく、きつと…彼は台宿でもそうですが朝起きるのがおじいちゃん並みに早く、授業でもとてもはやく教室にいらるのですがいつもひれ伏して寝るので話しかけにくいのです。そしてすれ違ってもなんか目が死んでる…コワイ！クラスの中でもかなりレベルの高い謎キャラだったと思います。

しかし一転部活で話すと大変ひょうきんです。口から出るのはほとんどがジョジョのことだったり格闘技(プロレスだっけ?)のことだったりです。柔道しているときは殺気立っててちよつとコワイです。

私の感じた印象はこのような感じです。

自己紹介

高身長の中村です。早いもので自分が九州大学柔道部に入部

してから丸々二年が経ちました。入学前に奥田先生にご飯に連れて行っていただいていたから二年と言い換えることもできます。美味しかったなあ。柔道と勉強の両立をがんばるぞとキラキラした思いで入学したことをよく覚えていきます。現状はと言いますと、未だ単位を一つも落としておりません。自分はこれを及第点としています。このままのペースでいきます。さて、いま去年のこの時期と全く異なる点があります。それは部員です。この一年で一つ上の先輩に一人、同期に一人、一つ下の後輩に二人部員が増えております。また、一年生が五人、今年度から同期にもう一人入部しました。部員が増えたこと、特に後輩が増えたこと、柔道部部員として、先輩として身が引き締まる思いでございます。来年の同友会誌をウハウハで書けるように来る六月の七大戦、そして今年度一年間の活動を頑張つて参ります。なお、自分の健康面に関して一抹の不安を抱えていることは秘密です。

以上

中村 友佳



農学部三年
福岡県立東筑高校出身
平成6年11月5日生

紹介文(中村 将太)

靴のサイズがまあまあ大きい中村将太です。われらがアイドルであり、癒しの象徴であるゆかちゃんを紹介をいたしたいと思います。

ゆかちゃんはかなり成績優秀です。自分がおよびもつかないほど優秀です。同じ学部にも所属しているのですが、時折自分が恥ずかしくなることもあります。ゆかちゃんはアルバイトをしています。かなりハードなようです。自分がゆかちゃんに抱いた第一印象は、ワイルドな感じやなあーというものです。初めてゆかちゃんが柔道部に顔を出したとき、革ジャンみたいなのを着ていたのでそのような印象を抱きました。ゆかちゃんは料理が上手です。合宿のときご飯を作ってくれるのですが、毎度美味しくいただいています。そんなゆかちゃんも三年生となり、振る舞いに余裕ができてきて、また立派になりました。二年前よりも立派になりました。他意はございません。ゆかちゃんこれからもよろしく。

自己紹介

ご無沙汰しております。中村友佳です。

今年度は、希望のコースに入ることができ一安心しているものの、鬼のような時間割と鬼のようなアルバイトで時間が取れず、部活動に参加できない日が続いております。すみません。しかし今年度は、待望の女の子（しかも同期の子！）が入ってくれたことですし、できる限り練習等々参加させていただきます。短いですが自己紹介とさせていただきます。

以上

藤井智仁



工学部・電気情報工学科二年
姫路東高校出身 165 cm 60 kg
初段 背負投
平成8年2月6日生

紹介文（村上 航）

今から私から見た藤井像を紹介したいと思います。藤井智仁、通称フツティーという人間を一言で表すとしたら、謎多き小動物です。三か月ほど一緒に柔道をしてきましたが、こやつ、何を考えているのかが全く読めません。常にスマホをいじっています。Y原先輩から自分から質問しておいて、身振り手振りを交えながらの説明を受けている時でさえスマホを手放しません。私たち二年の中で最も大物なのはこいつです。間違いありません。またこのフツティー、入ってきたのは一年の一月の後半なのですが、きっかけは十月に行った秋勧誘です。その間、約四か月。同時期に入ってきた三浪は勧誘の時から怪我が治り次第入ると明言していたのですが、藤井は全くその気配を見せていませんでした。そのため一月に藤井が入ってきたときは部員一同本当に驚いたものです。「お前あの時全然食いついてなかったやん！」と心の中でみんな思ったことでしょう。まあこうして今も一緒に練習を頑張ってくれているので文句なんぞありませんが。

そんなフツティーですが、最近ようやく柔道部に心を許してくれるようになったのか、所々にシュールなボケをかますようになってきました。なかなかいい傾向です。これから柔道部全体でゆつくり手なずけていこうと思います。ただそのボケの全

てにお金が絡んでいます。というのも、最近フッテイーに貧乏大学生という属性が付加されてきました。本人曰く、大学に通えるかも危うい時期もあつたそうです。そう考えると先ほどのボケも急に笑えなくなりました。…え、マジ大丈夫なん？まあなんだかんと言つて学生の自分は学業でするので、箱崎練ではちょこちょこバイトを入れながら大学も柔道も両立できるといいですね。

まあここまでつらつらと藤井の説明をしてきましたが、この前の錬成大会では入ったばかりながら熱い試合を見せてくれました。センスもいいので吸収が速く、私の方が半年以上長くやっているにもかかわらず寝技の攻めは藤井の方がうまいのではないのでしょうか。解せぬ。七大戦でも入部当初から大きく進化した藤井智仁に注目です！

自己紹介

はじめまして。兵庫県立姫路東高校卒業、工学部電気情報工学科二年の藤井智仁です。今年の二月に入部しました。柔道は中学生の時に始めました。大学に入学した当初は大学で柔道をするつもりはなかったのですが、高校の部活を引退してから一年以上柔道をしてないと無性に柔道をしたくなつたため、十一月に柔道部の新歓を見に行ったのを機に大学でもまた柔道をやってみようかなと思ひ入部しました。もともと寝技をよくする柔道だとは聞いていたのですが、九大の柔道部に入つてからは先輩方の寝技が予想以上に強くてびっくりしています。また、高校生の中には知らなかつた技を学ぶことができ楽しいです。強くなれるようにこれから頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

以上

三浪秀公



工学部建築学科二年
私立岡山白陵高校出身
175 cm 73 kg
初段 大外刈り
平成7年6月24日生

紹介文 (藤井 智仁)

三浪秀公君の紹介をします。今回は彼がどんな人なのか三つほど書きたいと思います。

まず一つめに、三浪君は料理が上手です。彼の作る料理は美味しいと部内でも評判で、料理長と呼ばれたりしています。また、彼の料理スキルの高さは、日常会話からも想像されます。調理方法や野菜の価格について熱く語ってくれる彼はまるで主婦のようです。

二つめに、歌唱力が高いです。彼はカラオケに行くとき歌で場を盛り上げてくれます。

三つめに、体力が凄いです。彼は伊都から太宰府まで自転車で رفتたり、箱崎から姪浜まで自転車で往復したりと、僕にはとても自転車では行けそうにないような距離でも平然と自転車を漕いでいきます。

三浪君についていろいろなことを書いてきましたが、彼が非常に魅力に溢れる人物であるということが少しでも伝われば幸いです。

自己紹介

こんにちは。現役だけど三浪生、みなみです。柔道は小学校

のときに始めまして、高校三年生で約十年。まわりのみんなが、遊びに勉強に恋に…忙しくしているときに僕はただひたすらに柔道してました。そう。僕の淡い青春の日々は、この忌々しき柔道に食い尽くされてきたのです。さて、そんな三浪青年、二度と柔道などやるか！リア充ウーイwwwしてやるぜ！！！と心に決め、故郷岡山を離れ、男一匹、九州大学に入学しましたのが一年前です。その心意気の通りに、しばらくはキャンパスライフをエンジョイしました。夜な夜な友達と飲み会をしたり、ギターリストとしてバンドに参加したり、また、可愛い彼女とデートをしたり…すいません。最後のはうそです。大学に入ったら彼女ができるなどという都市伝説を真に受けていた僕は、今までと変わり映えない色恋沙汰の無さに落胆し、リア充になりウーイwwwすることもできずに、何か物足りなさを心を感じながら日々を過ごしていました。そのときです。神の声が届きました…リア柔しようぜ。時を同じくして、高校時代に壊していた肩も治り、リア充、改めまして、リア柔になることができました。今年の一月のことです。また、今では、鶏から揚げ重を食べながらリア重になり、よもぎ饅頭を食べながらリア頭になるなど、いろいろなリアージュウになることができます。とても日々の生活に満足しています。(ほんとはリア充したい…心の声)

いままでは、立ち技の練習ばかりで寝技の知識も技能も少なく、高専柔道はとても新鮮で難しいです。しかし、その分練習のやりがいもあります。もちろん、柔道は楽な競技ではないですが、頑張つて強くなり、チームに貢献できるようにになりたいです。応援よろしくお願いします。

以上

村上航



理学部 地球惑星科学科二年
福岡県立城南高校 173 cm 68 kg
初段 一本背負い
平成6年9月21日

紹介文 (三浪 秀公)

柔道部のクレーマー担当、村上航くんの紹介をしたいと思います。僕の入部が遅かったため、彼と知り合ってから期間は短いですが、徐々に彼のキャラクターが見えてきました。まだまだ至らないところはありますが、分かる範囲で記していきます。

まず、彼はクレーマーです。部員で食事に行った際に、お店側が少しでもスキを見せようものなら必ずや、突っかかります。一般的に日本人は言いたいことをはっきりと口にできない民族なのですが、彼はしつかりと言ってくれます。グローバルですね。嫌いな店員のいるお店に行くときには、わたる君に同伴してもらおうとスカツとすること間違いなしです。

次に、後輩しごきの鬼だそうです。これはわたる君の高校の先輩であるともう先輩からの情報ですが、高校時代には、廊下で彼の顔を見かけた瞬間に走つて逃げる後輩がいたそうです。どれほどのしごきをすればそういう状況になるのでしょうか。想像するのも恐ろしいです。ああ、同級生でよかった。

次に、彼の生きがいはアニメ鑑賞と言っておりました。しかし、これについては触れないでおきましょう。

それから、わたる君、なかなか柔道部をこじらせています。

柔道によつて楽しい青春時代を奪われ、大学でも柔道に憑りつかれやめることができなかつたという、僕と同じような経歴をもつています。また、そのせいで女の子とうまく話せないと悩める純情男子です。まさに同志！彼とのモチないトークはとても盛り上がります。危惧するのは、あまりにも女の子と関わらなさ過ぎて、新たな性癖（み）に目覚めてしまうことです。そうならないうちに彼女を作りたいものです。お互い頑張ろう！

わたる君について僕が語れるのはこのくらいです。僕が入部する前はたった一人の一年生として精進していたそうです。苦楽を共にできる同期の重要さは分かります。大変だつたと思います。でもこれからは、一人じゃない。二回生、三人、お互いに励ましあい、高めあい、一緒に強くなつて行こう。ということで、村上航くんの紹介を終わります。

自己紹介

九州大学理学部地球惑星科学科二年、村上航です。私が柔道部に入つてからもう一年が経ちました。長かつたような短かつたような、中身の詰まつた一年だつたと思います。まあただ、数ある柔道部の辛かつたことの中で一番きつたのが、途中まで全く同学年がいなかつたということです。もちろん先輩方は親しく接してくれたのですが、部活中に全くため口を使えなかつたり、練習後に気兼ねなく技の研究に付き合つてもらつたり、ちよつつかいをかけるような相手がいらないというのは、今思えばなかなかストレスだつたかもしれせん。それだけに、夏休み明けの勧誘活動を経て、新しく三浪と藤井が入つてきたときは本当に嬉しかつたです。たぶん私に彼女ができてあんなに喜ばないんじゃないかつてくらい嬉しかつたです。まあでき

たことがないので知りませんが。まあそんなこんなで、今まで重く肩に乗つかつていたものがようやくやく降ろされるような気持ちでした。ゆくゆく一人で部をまとめるとかどう考えても無理ゲーでしょう。普段なら絶対に口にしません、二人には本当に感謝しているし、どちらでもいい奴なのでこれからも仲良く柔道ができたらいいなと思つています。さて、野郎のデレは需要無いので近況報告を書くことにしましょう。

最近、柔道部の中で「村上はクレマー」という根も葉もない噂が流れております。村上は繊細な心を持った純粋な青年なので軽率な発言はせひとも控えてほしいものです。きつかけは何だつたでしょう。ああ、あれです。練習の帰りにみんなでジョイフルに行つたときに、私の頼んだ料理の鶏肉の中が若干まだ赤かつたため、店員さんと呼んだ周りの先輩に引かれました。あの仏のようなK西先輩でさえドン引きです。え、これって私が悪いんですかね？赤かつたらみんな言わない？そのため柔道部で食事に行くたび、「おつと村上またクレムか？」とはやし立てられます。中でも特に四年のY原先輩はこのネタが大のお気に入り様子で、非常にうざ、めんどく、対応に困つております。今後対策を立てて、先輩を一発で撃退できる方法を考えておきましょう。

そういえば最近、左耳が潰れました。高校時代からほとんど潰れたことがなかつたので、「俺だけは大丈夫ー」という根拠のない自信があつたのですが、そんな自信は見事に打ち砕かれました。人生本当に思うようにいかないものです。マジ痛い。しかも血を抜こうにも、今こうして自己紹介を書いているのは合宿期間中なのです。ゴールデンウィークなのです。そうです、病院が開いていないのです。血が抜けないのです。もうこれほ

どはよゴールデンウィーク終われと思ったことはありません。神様のバカ。もうね、こんな耳になつたら彼女なんてできるもんでもできませんよ。え、潰れようが潰れまいが村上には彼女はできない？はい、私もそう思います。とにかく、より一層柔道部らしくなつた村上に今後ご期待ください。あ、今のなし。「まあ、村上やし、負けんかつたらいいかなあ」、くらしいの気持ちで見えてくれると助かります。そうした方が私としてもプレッシャーを感じずに良い結果を残せる、かもしれせん。なんにせよ、応援よろしくお願いします。

以上

小野 司 貴



文学部・人文学科一年
ラ・サール高校出身 160 cm 53 kg
無段 右中段逆突き
平成8年4月19日生

自己紹介

この度九州大学柔道部に入部しました、鹿児島県出身の小野司貴です。私は高校で空手部に所属しており、所属中いくつかの武道・格闘技を書籍やインターネットで調べたのがきっかけで組技を扱う格闘技に興味を持ち、その中でも特に柔道に魅力を感じ、大学に入学したら柔道部に入部して柔道に取り組みたいと考えていました。今年縁あつて九州大学に入学することができたため、九州大学の柔道部についてインターネットで調べたところ、当柔道部はオリンピックの試合や高校の部活で取り組むルールとは違った寝技に重点を置いたルールで行われる試

合を前提に取り組んでおり、そのルールでは体格に恵まれていなくても試合で活躍できる可能性が十分に有ることを知り、体の小さい私は希望を持ちつつも、同時に運動部という厳しい環境に身を投じることや大学から柔道を始めることへの不安も感じながら、柔道部の道場を訪ねました。しかし初めて道場を訪れたとき、先輩方はとても友好的に私を歓迎してくださつたので、私はここなら学問と両立できそうだと思ひ、九州大学柔道部への入部を決意しました。来年の五月頃までにまともに柔道に取り組めるくらいの体力、技術、知識を身につけることを目標に頑張つていきたいと思ひます。

以上

衣笠 智 裕



理学部・生物学科一年
兵庫県立姫路東高校出身 177 cm 120 kg
初段 あらゆる返し技
平成7年7月28日生

自己紹介

九州大学理学部生物学科一年、衣笠智裕と申します。京都大学を目指し一年間柔道から離れ勉学に勤しみ、晴れてこの度九州大学に入学することになりました。私を落としてくださった京都大学を含む他の六大学の皆様には四年間の悪夢を見させられるよう日々精進を重ねていこうと思ひます。

さて、自己紹介ですが私の柔道人生は中学一年のとき県下でもトップクラスに強い(私が中学三年のとき全国優勝しました)ソフトテニス部に友達にホイホイついて入ろうとしたら選抜が

あったので面倒だと諦め、ふらふらしていたところを柔道部の顧問の先生にキャッチされたのが始まりです。以降中学三年間地獄のような練習を日々頑張っていました。成績の方はばつとせず、最終成績は県でベストエイトでした。引退太りで十五キロほど体重を増やしながら推薦で姫路東高校に進学し、合格発表の時に待ちこされるなど暑苦しい歓迎を受けながら、高校でも柔道が続けることを決め、高校二年の冬の近畿大会でベストエイト、高校三年の夏の県大会で優勝し全国大会に出場するなどの成績を収めることができました。

中学の頃は、年間三百三十日くらいのペースで練習し夏の五時間ぶつ続けの練習を耐えきるなど根性、精神面を鍛えられました。またキャプテンも経験し後輩の糞餓鬼共の全責任を負わされたりしていました。高校では偏差値が上がった代わりに人数が減り、三年の時は男子三人女子一人になってしまい、私以外の男が引退した後は独り寂しく全国に向けて練習したりしていました。当時の師匠に大変お世話になり、様々な技術を得て全国への切符をつかむことができました。一つ上の藤井大先輩は私が一年の時、人数不足を理由に無理矢理部活に引き込み、三年間切磋琢磨していました。再び同じ部で活動することになり大変嬉しく思っています。このように様々な人の支援、応援があつて今の自分があります。これまでに得たことを最大限に利用しチームに貢献していきたいと思っています。

地元の諸先生方からの柔道しろよプレッシャーが強く、また親も柔道部を辞めると仕送りを止めると言っているため私は柔道から離れられない運命のようです。これから四年間、様々な迷惑をかけ続けることになると思いますが、これから応援よろしくお願いします。

以上

工藤賢之



工学部・地球環境工学科一年
香住丘高校出身 178 cm 74 kg
初段 背負い投げ
平成7年12月26日生

自己紹介

初めましてこの度柔道部に入らせていただくことになった工藤賢之（くどうやすし）と申します。僕は高校から柔道を始めて、大学ではもう柔道はやらなかつたのですが、なんかややかと再び柔道をやらせていただくことになりました。ようやく実家から二時間かけて、伊都キャンパスまで通学する朝に体が馴染み始めた僕ですが、とても個性の強い部員が多くこの部に馴染めるか一抹の不安（というより恐怖）を感じますが精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

以上

仲原裕貴



農学部一年
修猷館高校出身 163 cm 69 kg
初段 一本背負い
平成8年1月12日生

自己紹介

僕は、小学三年生の頃から柔道を始めました。始めたきっかけは、何故か柔道か剣道をやろうってことになっていったときに、

ちょうどテレビで柔ちゃんが活躍しているのを見て、かっこいいなと思ってはじめました。父の影響も多少はありますが。こういったきっかけで、なんやかんやで人生の半分の時間を柔道に費やしてきました。柔道はきついですが、やっていてよかったです。やってなかつたら、今の自分ほど心技体で強い人間にはなれなかつたと思いますし、今まで出会ったほどの多くの仲間や先輩にもめぐり合わなかつたと思います。というところで、これからまた四年間、柔道をやっていくことになったのですが、ここでの柔道は今まで自分がやってきたのとはスタイルがかなり違います。寝技中心のため自分にとっては本当に一人からのスタートといっても過言ではなく、実際に、現在稽古で苦労しています。先輩方のような強さを一気につけることはできないかもしれませんが、一日一日頑張つて、早く先輩方に追いつきたいと思います。また同期の仲間は現在四人ですが、現状に満足することなく、徐々にでも増やしていって、柔道部全体にもっと活気がつくといいなと思います。これから、四年間がんばっていきます！

以上

平野鉄朗



農学部 生物資源環境学科 一年
 笠岡高校出身 172 cm 61 kg
 初段 内股
 平成7年10月23日生

自己紹介

こんにちは、岡山から来た平野鉄朗です。私は小五から中三

までの五年間柔道をやってきましたが高校ではほとんどやりませんでした、というのも中学の三年間ひらすら「引退したら柔道なんてもう二度とやらねえ」と思っていたからです。

朝は六時から始まり、夕方は他の部活動の生徒が最終下校時刻で帰宅するのを武道館から見、土日は高校生との合同練習で丸一日、あるいは二日潰れる……そんなことは当たり前でした。先生も怖く、練習で手を抜くと鉄拳制裁、いやあれば竹刀だったような……。試合については言わずもがなですよ、とにかく恐かったです。練習や試合が嫌で「辞めたい」と思わない日はないほど柔道から離れたかったのを覚えています。

しかし、そこまで練習嫌いなのに、なぜ大学でまた再開する気になったのでしょうか？そう、あれは浪人時代：普段は下田舎に住んでいたこともあって、予備校がある都会が眩しく、ついつい夜も自習室を抜け出て遊んでいました。ある日、いつものように夜に予備校から抜けてブラブラしていると……なんと！（キレイな）女の人がいかに軟派な男にからまれていたではありませんか！「へいへい、姉ちゃん遊ぶほうぜ」とか言っているのです、とりあえずリア充は○ねと思いましたが。「やめてください……」とその女性は拒否しているのですが、軟派な男は強引です。それを見かねて「やめろ！」と軟派男に言いました。そして有無を言わず目潰しをしようとして、相手がバランスを後ろに崩しているときに相手の足を踏んで固定し、そして前に戻ろうとする反動を利用して野村のような背負い投げが炸裂しました。案の定、軟派男は逃げていって、（キレイな）女性に感謝されました……。なーんちゃって！！そんなことが現実起こるはずもなく、ただの妄想です、本当にありがとうございます。

ぶっちゃけて言うと大学でも柔道をするつもりはありませんでした。実際にいろんな部活やサークルに顔を出し、(柔道以外で)何にしようかと迷っていたほどです。しかし新歓に行くかどうかどうも嘸み合わないと感じる部活やサークルばかりでした。そんな中、柔道部の見学に行つて、練習にも参加させてもらったのですが、やっぱり柔道が自分には一番合っていると思えました。

あれだけキツイことをやらされていましたが、逆にそのことが柔道選手としての身体を作ったのでしょう。思えば、私には柔道で思い残したことがあります。それは柔道をやりきれないということですね。中学三年の夏休みが終わった後、やっと部活が終わったかと思つていましたが、先生が「引退は卒業式までだろ」とか言い出したことにはビックリしました。もちろんそれを無視して彗星の如く部から存在を消したつもりでしたが、呼び出されて叱られましたね。マジで勘弁して下さいよ。結局それ以降私は逃げて武道館には顔を出しに行くことはありませんでした。つまり、自分では柔道から逃げたカタチで終わってしまったことが心残りでした。そのこともあって柔道に復帰しようと思いませんでした。

もともと心が弱く、四年間身体を動かしてないだけあって身体も弱い私ですが、一生懸命頑張りますので、よろしくおねがいします。

以上



九大1年衣笠(右) vs 九共大桐野
九州学生柔道優勝大会



九大1年仲原(右) vs 九共大日渡
2015.5.16 福岡武道館

部員雑感・紹介



X 平成二十六年 度 行事録

一、行事録（道友会誌六十二号）

平成26年6月～平成27年5月

第58回九州学生柔道体重別選手権大会

平成26年8月30日31日

福岡武道館

平成26年度京都研鑽会

平成26年9月4日～6日

旧武徳殿

フランス遠征

平成26年9月4日～15日

フランス

第64回九州地区大学体育大会

平成26年11月30日

熊本武道館

平成26年度送別試合

平成26年12月20日

修猷館高校

新年会

平成27年1月24日

大名『みくに』

追い出しコンパ

平成27年3月7日

平成27年度広島大学定期戦

平成27年3月11日

東広島運動公園

平成27年度京都寝技錬成大会

平成27年3月14日15日

旧武徳殿

春季合宿

平成27年3月20日～26日

第20回高校生招待試合

平成27年3月28日

九州大学伊都キャンパス課外活動施設II

※第58回九州学生柔道体重別選手権大会

平成26年8月30日31日

福岡武道館

【66kg級】

二回戦

村上 航（横四方固）○古川（鹿屋体育大）

井手智朗○（優 勢）清水（九州国際大）

三回戦

井手智朗（内 股）○岸本（福岡大）

【73kg級】

一回戦

加藤慶一（内 股）○飯野（九州共立大）

片上正隆 不戦勝

柴田真吾（一本背負）○福本（九州国際大）

二回戦

片上正隆（横四方固）○岩本（日本文理大）

【81kg級】

一回戦

中村将太（優 勢）○古賀（佐賀大）

柳原俊太郎（払 腰）○杉本（熊本学園大）

※第64回九州地区大学体育大会

平成26年11月30日

熊本武道館

二回戦

（九州大学）○———7（熊本学園大学）

加藤（反 則）○松下

稲富（反 則）○木戸

小西（払い腰）○森永

井手（内 股）○渡邊

中村（優 勢）○田中

柳原（反 則）○永野

片上（上四方固）○守田

※平成26年度送別試合

平成26年12月20日

修猷館高校

〔〇〕 B 4 ————— 5〔現 役〕

小玉 ○ 村上
波多江 ○ 井上
西森 ○ 井上
濱中 ○ 小西
中武 ○ 加藤
森村 ○ 中村
中川 ○ 片上
田口 ○ 稲富
境 ○ 井手智
境(東大) ○ 柳原
箱田 ○ 井上
田中 ○ 村上
長島 ○ 井上
濱崎 ○ 井上
尾崎 ○ 小西
柴田 ○ 加藤
高木 ○ 中村
鹿倉 ○ 片上
井手亮 ○ 井手智

※平成27年度広島大学定期戦

平成27年3月11日

東広島運動公園

〔国際ルール〕

〔九州大学〕 〇 ————— 7〔広島大学〕

井上 ○ 李
稲富 ○ 河野
小西 ○ 杉山
加藤 ○ 奥村
片上 ○ 花田
藤井 ○ 松田
村上 ○ 吉田
三浪 ○ 杉山
井手 ○ 奥村
中村 ○ 中村
藤井 ○ 李
村上 ○ 河野
三浪 ○ 杉山
井上 ○ 井上
小西 ○ 奥村
加藤 ○ 奥村
片上 ○ 花田
井手 ○ 井手
井手 ○ 井手

〔七大学ルール〕

〔九州大学〕 2 ————— 4〔広島大学〕

井手 ○ 李

〔第二試合〕

〔九州大学〕 〇 ————— 4〔京都大学〕

中村 ○ 梅本
村上 ○ 春山
三浪 ○ 森
井手 ○ 釜江
井上 ○ 嵯峨
加藤 ○ 井手
藤井 ○ 井手

稲富 ○ (引き分け)

杉山 ○ (引き分け)

奥村 ○ (引き分け)

花田 ○ (引き分け)

※平成27年度京都寝技錬成大会

平成27年3月14日15日

旧武徳殿

〔第一試合〕

〔九州大学〕 1 ————— 〇〔東京大学〕

藤田 ○ 藤田
齋藤 ○ 齋藤
岩崎 ○ 岩崎
立川 ○ 立川
今野 ○ 今野
木下 ○ 木下
山中 ○ 山中
加藤 ○ 加藤
井手 ○ 井手

小西 ○
片上 (引き分け)
柴田 (引き分け)
前川
安田
海野
関
松浪

【第三試合】

〔九州大学〕 0 — 2〔大阪大学〕

小西 (引き分け) 武居
柴田 (引き分け) 大坪
井上 (ベンガラ) ○ 鷹合
中村 (引き分け) " "
三浪 (崩上四方) ○ 添田
井手 (引き分け) " "
片上 (横四方固) 松村
小川
岡島

【第四試合】

〔九州大学〕 1 — 0〔三重・岡山〕

藤井 (引き分け) 山元
三浪 (引き分け) 大道
小西 (引き分け) 奥田
村上 (引き分け) 片平
井上 (引き分け) 山田
井手 ○ (背負投) 並河
" (引き分け) 岡山

片上 (引き分け) 山本
柴田 (引き分け) 矢内
加藤

【第五試合】

〔九州大学〕 1 — 1〔名屋・広島〕

井上 ○ 花田
加藤 (引き分け) " "
三浪 (引き分け) 古橋
中村 ○ 奥村
" (引き分け) 金子
藤井 (引き分け) 河野
村上 (引き分け) 木村
柴田 (引き分け) 吉田
井手 (引き分け) 渥美

※第20回高校生招待試合

平成27年3月28日

九州大学伊都キャンパス課外活動施設II

【第一試合】

〔東筑高校〕 2 — 4〔福岡高校〕

中崎 (優勢) ○ 高尾
廣瀬 (引き分け) 黒瀬
合田 (優勢) ○ 竹林
梅本 ○ 大里
津田 (優勢) ○ 森下
尾上 ○ 長岡
行圓 ○ 川上

【第二試合】

〔東筑高校〕 3 — 1〔福岡高校〕

中崎 ○ 黒瀬
廣瀬 (優勢) ○ 高尾
合田 (引き分け) 大里
梅本 (引き分け) 竹林
津田 ○ 川上
尾上 (引き分け) 森下
行圓 ○ 長岡

(最終順位)

第一位 東筑高校
第二位 福岡高校

新歓コンパ

平成27年4月22日

新歓合宿

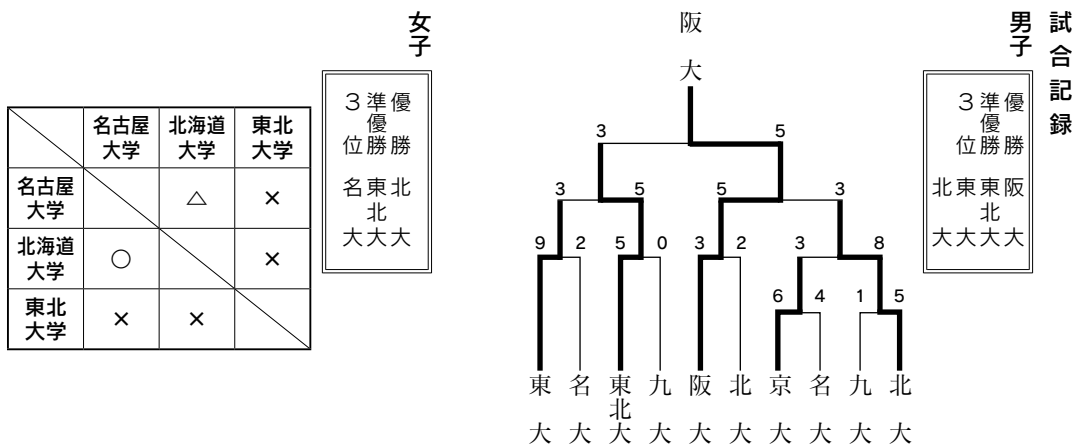
平成27年5月1日～6日

どんたく会

平成27年5月3日



どんたく会 北島先生の乾杯の挨拶



七大戰男子

〔一回戦第一試合〕

〔東京大〕9 ————— 2〔名古屋大〕

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|------|--------|-------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 遠矢 | 佐野 | 館林 | 山中 | 小山 | 小山 | 橋本 | 後藤 | 津留 | 津留 | 田上 | 田上 | 田上 | 田上 | 田上 | 岩崎 | 林 | 林 | 今村 | 小林 |
| | | | | ○ | ○ | (引き分け) | (引き分け) | (上四方固) | (横四方固) | (引き分け) | (内股) | (横四方固) | (大外刈) | (崩上四方固) | (送り襟締) | (引き分け) | (腕十字固) | (引き分け) | (引き分け) |
| | | | | 松本 | 柴山 | 渥美 | 渡邊 | 渡邊 | 古橋 | 片浦 | 小泉 | 本田 | 木村 | 及川 | 及川 | 大橋 | 小池 | 山口 | 金子 |

〔一回戦第二試合〕

〔東北大〕5 ————— 0〔九州大〕

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 鎌倉 | 芝野 | 小澤 | 齋藤 | 廣川 | 廣川 | 廣川 | 吉田 | 三枝 | 大岡 | 石川 | 兼子 | 兼子 | 河合 | 小山 | 佐藤 | 松林 | 木村 | 木村 | 木村 |
| | | | | ○ | ○ | (崩上四方固) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (合わせ技) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (引き分け) | (縦四方固) | (縦四方固) |
| | | | | 小西 | 柳原 | 井手亮 | 片上 | 柴田 | 柴田 | 伴 | 鹿倉 | 比山 | 井手智 | 稲富 | 中村 | 村上 | 高木 | 遠藤 | 加藤 |

○ 加藤—木村
 九大二回生加藤。東北大三回生木村。
 加藤、開始早々組際に背負いで担ぐも決

まらず。その後、木村に引き込まれて亀にされ、SRTで抑え込まれて一本負け。東北大一人リード。

○ 遠藤―木村

九大一回生遠藤。木村、引き込もうとするが遠藤これを嫌い、待てになる場面が続く。中盤遠藤が大内刈りで合わせて技ありを取るも、終盤ついに亀にされ、SRTで抑え込まれて一本負け。東北大二人リード。

○ 高木―木村

九大四回生高木。引き込んだ木村を亀にし、終始攻め続けるが、決め手を欠き、引き分け。

○ 村上―松林

九大一回生村上。東北大二回生松林。村上、松林に引き込まれ、亀にされる。後ろにつかれ終始絞めを狙われ続けるが、なんとか凌ぎ、引き分け。

○ 中村―佐藤

東北大四回生佐藤。九大三回生中村。序盤は組み手の攻防が続くが、佐藤が立ち技を仕掛けてきたところを潰し、亀にする。後ろについて返そうとするが、佐藤の守りが堅く、引き分け。

○ 稲富―小山

九州大三回生稲富。東北大一回生小山。

稲富、引き込んで寝技に持ち込もうとするが小山がこれを嫌い、切つて離れるという展開が続く。結局決め手を欠き、引き分け。

○ 井手智―河合

九州大三回生井手。東北大三回生河合。河合が引き込んで下から攻めてくるが、これを捌いて亀にする。後ろについて攻めるが、決め手を欠き、引き分け。

○ 比山―兼子

九州大一回生比山。東北大四回生兼子。中盤、兼子に内股で技有りを取られ、足抜きの状態にされる。そのまま足を抜かれ、横四方固めで抑え込まれて一本負け。東北大三人リード。

○ 鹿倉―兼子

九州大四回生鹿倉。分け狙いの兼子を亀にして終始攻め続けるが、決め手を欠き、引き分け。

○ 伴―石川

九州大四回生伴。東北大三回生石川。完全に引き分け狙いの石川に対して、隙をつくろうといういろいろ試すが、結局崩されず、引き分け。

○ 柴田―大岡

九州大四回生柴田。東北大三回生大岡。大岡、引き込んで関節技など狙うが、柴

田がこれを防ぎ離れるという展開が続く。途中立ち技の攻防もあったが、両者決め手を欠き、引き分け。

○ 片上―三枝

九州大三回生片上。東北大二回生三枝。片上、立ち技で攻めるが三枝付き合わず。今度は三枝が引き込み寝技で攻めようとするが、片上これに付き合わず。終盤は引き分け狙いの三枝を攻めきることができず、引き分け。

○ 井手亮―吉田

九州大四回生井手。東北大三回生吉田。開始早々吉田を亀にし、終始攻め続けるが、堅い亀を崩せず、引き分け。

○ 柳原―廣川

九州大三回生柳原。東北大四回生廣川。柳原、開始早々引き込むが廣川に亀にされ、少し耐えるもSRTで抑え込まれ一本負け。東北大四人リード。

○ 小西―廣川

九州大二回生小西。柳原同様引き込むも捌かれて亀にされSRTで返される。なんとか凌ぐも腕を縛られ、足抜きの状態にされ、横四方固めで抑え込まれ一本負け。

【二回戦第三試合】

〔大阪大〕3 ————— 2〔北海道大〕

大坪	(引き分け)	竹平
岡島	(引き分け)	手良向
東坂	(引き分け)	佐藤
錦織	○(腕十字固)	中川
錦織	○(崩上四方固)	石倉
竹之内	(引き分け)	石倉
山下	○(上四方固)	山縣
山下	○(背負い投)	宮竹
山下	(引き分け)	小田
添田	(引き分け)	本田
武居	(引き分け)	中岡
天野	(横四方固)	○
伊賀本	(引き分け)	今成
松岡	(引き分け)	早狩
田中	(引き分け)	奈須
鷹合	(引き分け)	清野
松村	(引き分け)	森本
小川	一人残して大阪大の勝ち	

【敗者復活第一試合】

〔京都大〕6 ————— 4〔名古屋大〕

梅本	(引き分け)	木村
嵯峨	○(ベンガラ)	小泉
嵯峨	(引き分け)	片浦

【敗者復活第二試合】

〔九州大〕1 ————— 5〔北海道大〕

春山	○(ペンガラ)	及川
春山	(引き分け)	金子
藤田	(送り襟締)	○
森岡	(引き分け)	柴山
富樫	(引き分け)	古橋
釜江	(横四方固)	○
松浪	(引き分け)	大橋
海野	(引き分け)	小池
原之園	(上四方固)	○
保谷	(横四方固)	○
水谷	(引き分け)	渡邊
関	(引き分け)	山口
前川	○(送り襟締)	渥美
前川	○(横四方固)	本田
前川	○(腕十字固)	松本
安田	二人残して京都大の勝ち	

比山 ○(合わせ技) ○ 佐藤
 井手亮 (引き分け) 佐藤
 加藤 (引き分け) 手良向
 稲富 (上四方固) ○ 石倉
 伴 (横四方固) ○ 石倉
 柴田 (引き分け) 石倉
 片上 (引き分け) 奈須
 高木 (引き分け) 宮竹
 鹿倉 (引き分け) 中岡
 小西 (引き分け) 本田
 四人残して北海道大の勝ち
 今成 竹平 早狩 小田 本田 中岡 宮竹 奈須 石倉 佐藤

○ 井手(智) — 津田
 序盤では井手が相手の投げをかわし、下から攻めるが、立たれてしまう。その後、組み手の展開が続き、井手が引いて守る状況が続く。井手が投げを仕掛け、相手にかわされてしまうも、くずして相手の後ろをとる。しかし、取り逃がしてしまい、終盤には井手が寝技で攻めるが引き分け。
 ○ 遠藤 — 森本
 森本が遠藤を引き込み、横返して返す。

そして足抜きの状態となり、遠藤はねばるも森本に崩れ上四方固めで抑え込まれてしまい、一本負け。

○ 中村―森本

森本が中村を引き込み、中村がかわして後ろにつく。足抜きの状態となるが、攻めあぐね、森本がこれを鉄砲返しで返す。その後、正対の攻防となり、引き分け。

○ 村上―清野

試合序盤で清野が村上に大内刈りを仕掛け、技有りを奪う。その後、清野が掬い投げで村上を倒し、足抜きの状態となる。清野が村上の腕を縛り、横四方固めで抑え込み、合わせ技で一本負け。

○ 柳原―清野

組み手の攻防が続く。柳原が清野に組み負け、つぶされてしまい、カメにされるもこれをかわし、下からの正対となる。清野が柳原を持ち上げ、再び組み手勝負となる。柳原がつぶされ、カメとなるも清野の攻撃を防ぎきり引き分け。

○ 比山―山縣

比山が引き込み際に大内刈りを合わせ、一本勝ち。

○ 比山―佐藤

佐藤が比山に足払いを仕掛け、技有り

を奪うと、腕を召し捕り、上四方固めで抑え込み、合わせ技で一本負け。

○ 井手(亮)―佐藤

試合序盤からしばらく組み手の攻防が続く。井手が佐藤を引き込むも攻めあぐね、引き分け。

○ 加藤―手良向

しばらく立ち勝負が続く。加藤の背負い投げが崩れて寝勝負となり、加藤が後ろにつくも立たれてしまう。再び立ち勝負となるも、手良向の技が崩れ、寝勝負となる。手良向が立ち上がり、立ち勝負となる。加藤がつぶれてカメとなるもこれを防ぎきり、引き分け。

○ 稲富―石倉

稲富が引き込むが、石倉がこれをかわし、足抜きの状態となる。その状態から石倉が足を抜いて上四方固めで抑え込み、一本負け。

○ 伴―石倉

立ち勝負から崩れて伴が後ろをとるが、石倉が動き回り、伴の後ろにつき、伴が立ち上がり、離れるという展開が続く。石倉が伴をつぶし、足抜きの状態となり、そのまま足を抜いて横四方固めで抑え込み、一本負け。

○ 柴田―石倉

試合序盤、柴田が肩車を仕掛け、体勢の崩れた石倉の後ろにつくが、攻めあぐね、離れてしまう。その後、腰を引き、カメとなり守る石倉を柴田が攻めきれず、引き分け。

○ 片上―奈須

奈須が引き込むが、片上がこれを嫌い、持ち上げるという展開が続く、引き分け。

○ 高木―宮竹

組み手を突つ張り守る宮竹に対し、高木は引き込みや奥襟をもつたつぶしなどで寝勝負を仕掛けるが、これらをかわされ、防ぎきれられ引き分け。

○ 鹿倉―中岡

試合序盤、鹿倉が中岡をつぶし、カメとするとフライパンなどで攻める。しかし、攻めきれずに離れて仕切り直す。その後、正対やカメで守る中岡を鹿倉が攻めきれず引き分け。

○ 小西―本田

小西が引き込み、本田がこれを嫌い、持ち上げるという展開が続く。小西が引き込んだところを本田がかわし、足抜きの状態となる。この状態のまま、小西が守りきり、引き分け。

【敗者復活第三試合】

〔京都大〕3 ————— 8〔北海道大〕

嵯峨	○	(崩上四方固)	津田
嵯峨		(引き分け)	本田
梅本		(引き分け)	手良向
松浪		(引き分け)	佐藤
安田		(横四方固)	今成
森岡		(引き分け)	今成
春山		(引き分け)	中川
海野		(上四方固)	森本
保谷		(横四方固)	森本
釜江		(崩上四方固)	森本
水谷		(横四方固)	森本
富樫		(横四方固)	森本
原之園		(崩上四方固)	森本
関		(崩上四方固)	森本
前川	○	(袖釣り込み腰)	森本
前川	○	(崩上四方固)	奈須
前川		(引き分け)	竹平
藤田		(引き分け)	早狩

五人残して北海道大の勝ち

中岡 清野 石倉 小田 宮竹

【準決勝第一試合】

〔東京大〕3 ————— 5〔東北大〕

佐野		(引き分け)	石川
小林		(引き分け)	齋藤
館林		(横四方固)	小澤
小山		(引き分け)	小澤
岩崎		(引き分け)	吉田
山中		(引き分け)	兼子
田上	○	(横四方固)	松林
田上		(引き分け)	佐藤
木下		(ベンガラ)	芝野
津留		(引き分け)	芝野
遠矢		(引き分け)	三枝
竹本		(縦四方固)	河合
林		(引き分け)	河合
後藤		(ベンガラ)	大岡
橋本		(引き分け)	大岡
椿	○	(袖釣り込み腰)	木村
椿	○	(横四方固)	鎌倉
椿		(横四方固)	廣川

二人残して東北大の勝ち

小山 廣川

【準決勝第二試合】

〔大阪大〕5 ————— 3〔北海道大〕

東坂 (引き分け) 中岡

【決勝戦】

〔東北大〕3 ————— 5〔大阪大〕

大坪		(引き分け)	本田
松岡		(引き分け)	手良向
伊賀本		(横四方固)	清野
武居		(崩上四方固)	清野
田中		(引き分け)	清野
竹之内	○	(腕十字固)	竹平
竹之内		(引き分け)	森本
錦織		(崩上四方固)	早狩
錦織	○	(横四方固)	今成
山下		(引き分け)	今成
添田	○	(横四方固)	奈須
添田		(合わせ技)	宮
添田		(引き分け)	石倉
天野		(引き分け)	宮竹
岡島		(引き分け)	佐藤
松村		(引き分け)	小田
鷹合	○	(崩裂袷固)	中川
鷹合			
小川			

二人残して大阪大の勝ち

〔東北大〕3 ————— 5〔大阪大〕

木村 (引き分け) 田中
 齋藤 (引き分け) 大坪
 松林 (引き分け) 伊賀本
 河合 (引き分け) 松岡

大岡	○ (送り襟締)	岡島
大岡	(引き分け)	東坂
三枝	(合わせ技)	添田
兼子	(引き分け)	添田
石川	(腕十字固)	竹之内
齋藤	(引き分け)	竹之内
吉田	(一本背負投)	山下
廣川	(引き分け)	山下
小山	○ (大外刈り)	武居
小山	(払い巻き込)	錦織
小澤	(引き分け)	錦織
芝野	○ (送り襟締)	天野
芝野	(引き分け)	鷹合
中村	(横四方固)	松村
		松村
		小川

二人残して大阪大の勝ち

七大戦女子

【リーグ戦第一試合】

〔名古屋大〕	○	——	1	〔北海道大〕
朝倉	(引き分け)			八田
石田	(引き分け)			佐藤
	(不戦勝)	○		松雄

北海道大の勝ち

【リーグ戦第二試合】

〔名古屋大〕	1	——	1	〔東北大〕
朝倉	○ (ペンガラ)			及川
	(不戦勝)	○		増田
石田	(引き分け)			工藤

【代表戦】

朝倉	(引き分け)	工藤
引き分け		

【リーグ戦第三試合】

〔北海道大〕	1	——	1	〔東北大〕
佐藤	○ (ペンガラ)			及川
八田	(引き分け)			増田
芳賀	(崩袈裟固)	○		工藤

【代表戦】

佐藤	(引き分け)	工藤
引き分け		

総評

正規部員が十五人揃わず、四人の助っ人を迎えて臨んだ試合であったが、取り役の決定力不足と穴の多さが目立った。特に、SRTに対する対策が十分されておらず、何人も同じパターンで抑え込まれた。まずは部員を十五人集めると同時



京都寝技錬成大会 武徳殿



どんたく会 H23卒藤先輩 vs 新人衣笠

に部員の分ける力の底上げが今後の一番の課題であるが、他大学の特色のある技に対する研究も重要である。以上

